

**GroundWork Monitor Community Edition V6.0 の使い方**  
**( コンフィグレーション応用編 )**

平成 23 年 9 月 9 日

第一版

## 目 次

	ページ
1. コンフィグレーションについて	4
2. 監視対象と監視方法登録のための基礎	4
3. サブメニュー毎の操作	8
3.1. ホスト	8
3.1.1. ホスト設定画面の機能メニュー	8
3.1.2. ホスト作成ウィザード	9
3.1.3. ホスト複製	14
3.1.4. ホスト検索	15
3.1.5. ホスト	15
3.1.6. ホストグループ	25
3.1.7. 親子関係	29
3.1.7. ホストテンプレート	31
3.1.9. ホスト依存関係	35
3.1.10. ホスト拡張情報	37
3.2. サービス	40
3.2.1. サービス設定画面の機能メニュー	40
3.2.2. サービス追加	41
3.2.3. サービス複製	42
3.2.4. サービス検索	43
3.2.5. サービス	44
3.2.6. サービスグループ	51
3.2.7. サービステンプレート	54
3.2.8. サービス依存関係	59
3.2.9. サービス拡張情報	62
3.3. プロファイル	65
3.3.1. プロファイル設定画面の機能メニュー	65
3.3.2. ホストプロファイル	65
3.3.3. サービスプロファイル	74
3.3.4. プロファイル・インポータ	80
3.4. コンタクト	82
3.4.1. コンタクト設定画面の機能メニュー	82
3.4.2. コンタクト	82
3.4.3. コンタクトグループ	86
3.4.4.     コンタクトテンプレート	89

3.5. エスカレーション	92
3.5.1. エスカレーション設定画面の機能メニュー	93
3.5.2. エスカレーション	93
3.5.3. エスカレーションツリー	96
3.6. コマンド	108
3.6.1. コマンド設定画面の機能メニュー	108
3.6.2. 機能メニューの操作	109
3.7. 時間帯	113
3.7.1. 時間帯設定画面の機能メニュー	113
3.7.2. 機能メニューの操作	114
3.8. グループ	118
3.9. コントロール	119
3.9.1. コントロール画面の機能メニュー	119
3.9.2. セットアップ	119
3.9.3. Nagios CGI 設定	120
3.9.4. Nagios メイン設定	121
3.9.5. Nagios リソースマクロ	124
3.9.6. ロード	125
3.9.7. プリフライトチェック	126
3.9.8. コミット	127
3.10. ツール	130
3.10.1. ツール画面の機能メニュー	129
3.10.2. エクスポート	129
3.10.3. ホストの削除ツール	130
3.10.4. サービスの削除ツール	131
3.11. パフォーマンス	132

## 1. コンフィグレーションについて

GroundWork Monitor（以下 GWM）のコンフィグレーション（Configuration）は、GWM に監視を行なわせるための構成設定を行うアプリケーションです。

この機能では主に Nagios のための構成情報を設定しますが、ステータス（Status）などでのグラフ表示のための設定も行ないます。

コンフィグレーションには下記の 11 のサブメニューがあります（メニュー表示の左から順）：

- 1) サービス
- 2) プロファイル
- 3) ホスト
- 4) コンタクト
- 5) エスカレーション
- 6) コマンド
- 7) 時間帯
- 8) グループ
- 9) コントロール
- 10) ツール
- 11) パフォーマンス

## 2. 監視対象と監視方法登録のための基礎

GWM/Nagios は豊富な機能を持ちそれぞれの機能に細かな監視設定が可能であるため、その全体像を理解して使いこなすことは必ずしも容易なことではありません。とりわけ GWM を使用せず、Nagios を単体で使用する場合、多数の設定ファイルの整合性を保ちながら編集する必要があり、分かりにくく困難な作業となります。GWM のコンフィグレーション機能は、Nagios の監視設定を GUI を用いて行ない易くするだけにとどまらず、必要最低限の設定をすることですぐに監視開始できるようになっており、設定誤りも起こしにくくなっています。

しかし、やはり、監視設定の概念を理解しておくことが、システムの監視管理を正しく行なううえで大切であることは間違えありません。この章では、監視登録のための基本的な概念と関連するサブメニュー機能について説明します。

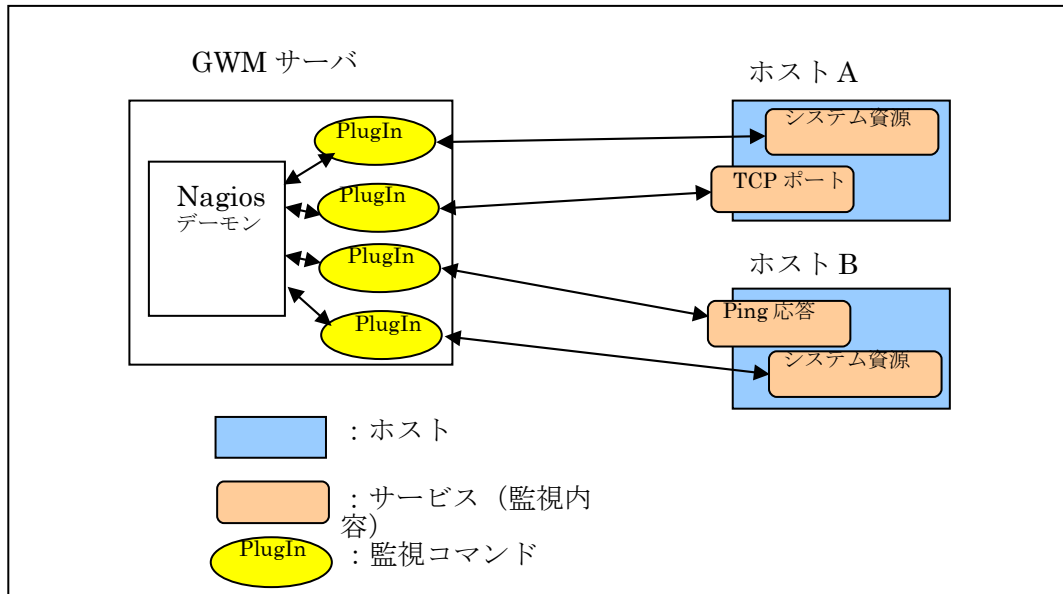
### 1) 監視のための最小限の設定

監視実施する場合、最低限、どこ（where）の何（what）をどのように（how）監視するかについて指定する必要があります。

これらの 3 つは、GWM/Nagios において、下記の名称で呼ばれます：

- Where : ホスト - 監視対象（IP アドレス付いているサーバやネットワーク機器など）
- What : サービス - 監視する項目（Ping 応答や HTTP レスポンス、CPU 使用率など）
- How : コマンド - 監視実行時に Nagios が起動する監視コマンド（プラグイン）

これらの関係を下図に示します：



これらは、「ホスト」、「サービス」および「コマンド」のサブメニュー機能で登録します。

ホスト情報には下記のものが含まれます：

- ・ホスト名：GWM/Nagios 内でユニークな名称
- ・エイリアス：そのホストを識別するための記述
- ・IP アドレス
- ・ホストの監視管理のための各種パラメータ： 障害時の通知先、監視時間等等

サービス情報には下記のものが含まれます：

- ・サービス名：GWM/Nagios 内でユニークな名称
- ・監視実施コマンドと実行パラメータ
- ・監視管理のための各種パラメータ： 障害時の通知先、監視時間等等

コマンド情報には下記のものが含まれます：

- ・コマンド名
- ・コマンドライン
- ・種別（監視チェック以外に、通知コマンドもここで登録します）

## 2) 監視による異常検出時の通報とエスカレーション

監視を実施し何らかの異常状態を検出したら Nagios やステータス (Status) 画面に表示されますが、常にシステム管理者が監視ツールの画面を見ている訳にも行きませんので、異常状態を通報し修復のためのアクションを要求する必要がある場合があります。通知をする場合にどの相手に

どのような方法で通知するかを登録する必要がありますが、そのための登録が下記の二つです。

- ・ **コンタクト**：通知先となる人の名前や役割、メールなどのアドレスの登録。  
（通知先をグループ化して、コンタクトグループを作ることができる）
- ・ **エスカレーション**：コンタクト先に通知した後になんら対応がされない場合、  
より上位の責任者に連絡するなどのエスカレーションパスを登録。

これらの登録のために、「コンタクト」と「エスカレーション」のサブメニューを使用します。

### 3) 監視や通知/エスカレーション実施管理のための時間帯登録

時間帯情報として一週間の曜日ごとに 0 時 0 分から 23 時 59 分までの時間帯を登録します。  
登録された時間帯は、監視実行や通知の有無、通知先判断などの基準として使用されます。  
登録は、「時間帯」サブメニューで行います。

### 4) ホストとサービス登録の簡略化：プロファイル登録

大規模なネットワークの場合、監視のためのホストやサービスの登録は複雑で難しい作業となります。**GWM** では、監視設定登録の際、複数のサービスと詳細設定をまとめて「サービスプロファイル」として登録したり、そのサービスプロファイルにホスト設定情報を含めて「ホストプロファイル」を登録したりすることで、一々個別ホストにサービスを登録することなく一括でホスト登録をすることができます。

ホストとサービスのプロファイルの登録と管理は、「プロファイル」サブメニューで行ないます。  
（ホスト登録の際、ついでにプロファイル作成をすることもできます。）

プロファイルの例としては **Oracle** サーバを監視するのに適切な設定をまとめたプロファイルなどがあります。（**GroundWork Monitor Enterprise** には多くの有用なプロファイルが事前登録され提供されています。）

### 5) 監視情報のデータベース登録と監視開始

上記の 1) から 4) で説明したホスト、サービス、コマンド、コンタクト、エスカレーションおよび、時間帯をコンフィグレーションのサブメニュー機能を使って登録すると、**GWM** の **monarch** データベースに登録されます。**monarch** データベースを使用することで、**Nagios** 監視設定に必要なさまざまな情報の整合性を保ちながら、柔軟にかつ効率的に設定登録/変更ができますが、ここに登録しただけでは **Nagios** によって監視実施はされません。

データベースに登録された情報に従って **GWM/Nagios** に監視を実施させるためには、データベースから **Nagios** の構成設定（**config**）ファイルに出力することが必要です。

この構成ファイル作成を行なうため、コントロール・サブメニュー内のコミットを行なう j 必要があります。（このサブメニュー内には、コミット以外にいくつかの機能がありますが、後ほど説明します。）

## 6) その他のサブメニュー

コンフィグレーションのサブメニューとして、これまでに説明した以外に「グループ」、「ツール」および「パフォーマンス」があります。

- ・ グループ

大規模ネットワークの場合、複数の監視サーバで負荷分散して監視を実施することがありますが、このグループ・サブメニューでは、登録した監視情報を配下の監視サーバ毎の **Nagios** 監視情報として出力するように登録します。

- ・ ツール

登録したホストやサービス情報をエクスポートしたり、一括して削除するための便利機能です。

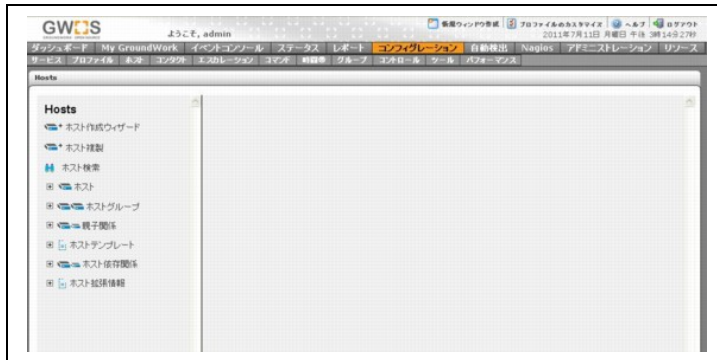
- ・ パフォーマンス

**Nagios** の拡張情報および、ステータス（ステータス）機能で表示する性能グラフを作成するための **RRDTool** 設定を登録します。

### 3. サブメニュー毎の操作

#### 3.1. ホスト

GWM でコンフィグレーションメニューを選択するとデフォルト表示されるのが、ホスト（Hosts）設定画面です。（下図）



このホスト設定画面で監視対象、つまりホストを登録します。必要となるサービスとコマンドおよびテンプレートがあらかじめ適切に登録されている場合は監視を行なうにはここでホストを登録だけで十分であり、必要最低限のサービスおよびテンプレートも登録済みであることを考え合わせれば、ホスト設定がデフォルト画面で使いやすいといえます。

この章では、必要なあらかじめコマンドやサービスが登録されているという前提で、ホスト情報の登録管理を行なう方法を説明します。

##### 3.1.1. ホスト設定画面の機能メニュー

ホスト（Hosts）設定画面は、左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択が出来る下記のアイコンが表示されています。

- |               |   |  |
|---------------|---|--|
| 1) ホスト作成ウィザード | : | 新規にホストと登録する  |
| 2) ホスト複製      | : | 既存のホスト登録情報を利用して新しいホストを登録する                           |
| 3) ホスト検索      | : | ホスト登録情報操作等のため、ホストを検索する                               |
| 4) ホスト        | : | アイコン開き、ホストグループ毎のホスト表示と登録情報、各ホストのサービス表示と登録情報を表示し、操作する |
| 5) ホストグループ    | : | ホストグループの新規追加、複製利用、設定変更を行なう                           |
| 6) 親子関係       | : | ホスト間のネットワーク接続（親子関係）を登録管理する                           |
| 7) ホストテンプレート  | : | ホスト登録時に使用する各種パラメータのテンプレートを新規追加、複製利用、設定変更する。          |
| 8) ホスト依存関係    | : | ホスト間の依存を登録管理する                                       |
| 9) ホスト拡張情報    | : | ホスト拡張情報を登録管理する                                       |



### 3.1.2. ホスト作成ウィザード

新規ホストを追加する場合に使用する機能メニューです。このメニューを使ったホスト登録について「GroundWork Monitor Community Edition V6.0 の使い方(基礎編)」の P25～P26 でも説明していますのでそちらを参照してください。ここでは重複をさけ、基礎編で説明していない細かな設定について説明します。

- 1) 「ホスト作成ウィザード」をクリックします。下記の画面に移ります。



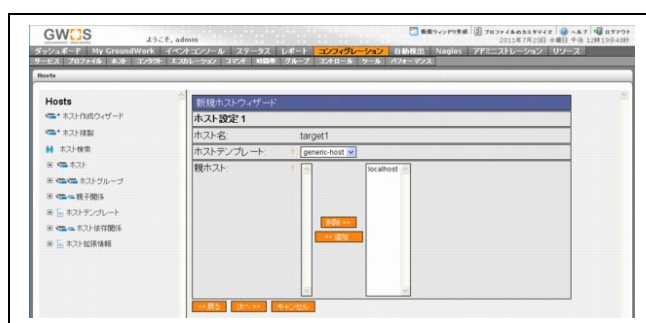
ホスト名、エイリアス、IP アドレスを入力します。

あらかじめホストプロファイルを登録してあれば選択肢の中に表示されますので、使いたいホストプロファイルを選択して指定します。

GWMCE のデフォルト登録済ホストプロファイルは、`host-profile-service-ping`、`host-profile-snmp-network` と `host-profile-ssh-unix` の 3 つのみですので、これらのプロファイルを使用する必要がない場合は、空白のままでも良いです。

ホストプロファイルについて詳しくは、プロファイルメニューについての説明の章を参照してください。

- 2) 「次へ>>」 ボタンをクリックし、次のホスト設定 1 画面に移ります：



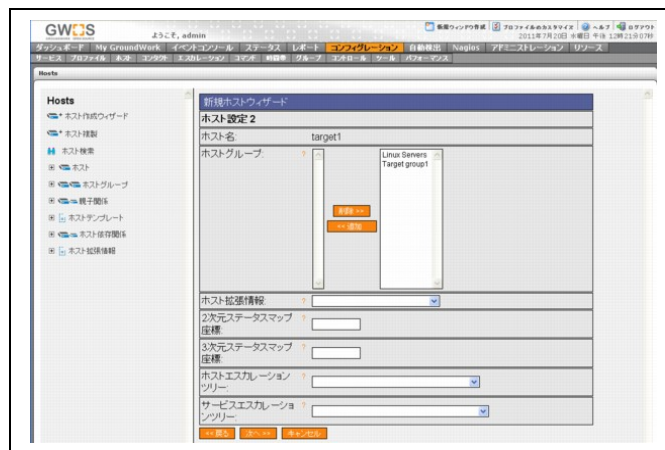
この画面ではホストテンプレートと親ホストの指定をします。

ホストテンプレートは、ホスト監視設定の共通的な項目をテンプレートとして登録したものです。デフォルトで `generic-host` が登録されており、これを指定して編集するだけで十分ですが、標準的な設定を変更したりする必要がある場合、3.1.8.の「ホストテンプレート」を参照してください。

親ホストとはネットワーク接続関係において、GWM サーバ側から見て登録するホストのひ

とつ手前にあるネットワーク機器（ルータやスイッチ）のことです。親ホストに障害が発生した場合、必然的に GWM からはその先にあるこのホストが見えなくなります。監視運用上、ネットワークの構成を意識した監視設定は大切ですので、ここで指定します。該当するネットワーク機器が監視対象でない（監視できない種類の機器の）場合、あえて登録する必要はありません。また、この情報は、親子関係の設定メニューでまとめて個別指定することができるので、ここでの指定は必須ではありません。

3) 「次へ>>」ボタンをクリックし、次のホスト設定 2 画面に移ります：



この画面では、下記の情報を指定します。

- ・ホストグループ：

登録したホストをグルーピングすることで管理しやすくします。

デフォルトで **Linux Servers** が登録され、**localhost** がメンバーとなっています。

管理の必要に応じてホストグループを作り、ホストをメンバー登録することができます。ここでは登録済のホストグループしか選択できません。ホストグループに所属しないホストを登録すると左フレーム内のホストグループ名が「未割当ホスト (unassigned hosts)」のメンバーとして表示されます。

- ・ホスト拡張情報：

登録済のホスト拡張情報をこのホストに指定する場合、選択リストから選びます。

ホスト拡張情報について詳しくは 3.1.10. のホスト拡張情報を参照して下さい。

- ・2次元ステータスマップ座標：

Nagios ステータスマップ表示で、レイアウト方法：ユーザ定義とした場合に表示する監視ネットワーク図上の座標軸を(x,y)形式で指定します。

- ・3次元ステータスマップ座標：

Nagios の 3 D マップ表示時のレイアウト指定です

(注：GWM では 3 次元ステータスマップの UI を提供していません。)

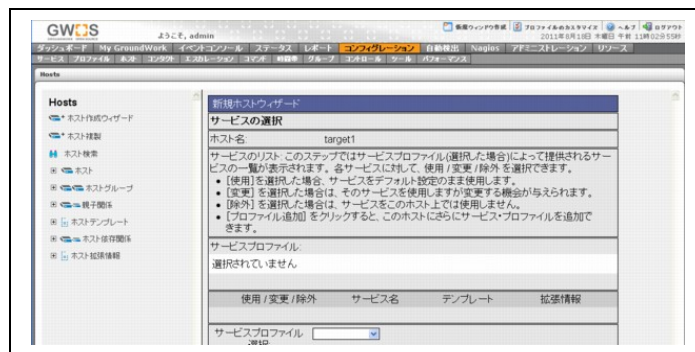
- ・ホストエスカレーションツリー：

このホストで使用するホストエスカレーションツリーを指定します。

- ・サービスエスカレーションツリー：

このホストで使用するサービスエスカレーションツリーを指定します。

- 4) 「次へ>>」ボタンをクリックし、次のサービス選択画面に移ります：



ここでは、サービスプロファイルを指定するか、個別にサービスを選択してこのホストに割り当てるサービス（監視項目とパラメータ）を設定します。

その操作を右フレームの下部で行ないますが、ここは、大きく 5 つのサブフレーム部に分かれています。（下図参照）。



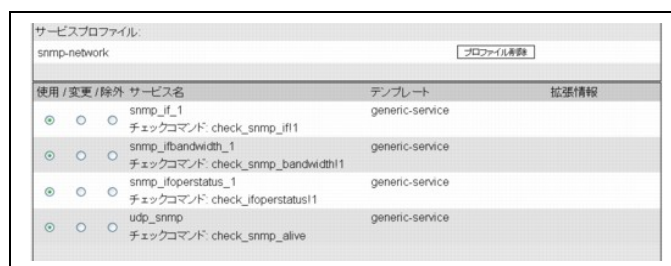
- a) 選択済みサービスプロファイル表示部

サービスプロファイルが選択された場合、ここに使用されるサービスプロファイルが表示されます。サービスプロファイルを選択しない場合「選択されていません」の表示です。

1)の操作でホストプロファイルが選択されている場合、そのホストプロファイル中でサービスプロファイルを使用していることがあります。その場合、使用されているサービスプロファイル名がここに表示されます。（その際、プロファイル削除操作をするためのボタンが右側に表示されます：bの図を参照ください。）

#### b) サービス表示/操作部

プロファイル指定や個別サービス指定で、このホストに割り当てられたサービスが表示されます。複数のサービスを持つプロファイルを選択した場合、下図のように複数のサービスが表示され、それらについて、そのまま使用するもの、設定の変更を認めるもの、使用しない（除外）ものを指定するラジオボタンが表示されます。



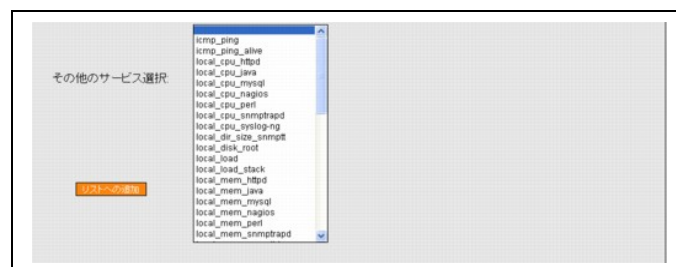
#### c) サービスプロファイル選択部

選択ボックスの▼をクリックすると、選択可能なサービスプロファイルのリストが表示されますので、適切なプロファイルを選んで「プロファイルの追加」ボタンをクリックするとサービスプロファイルが追加（aとbのフレームに表示）されます。



#### d) 個別サービス選択部

選択ボックス内に表示されたサービスを選択（青の反転表示）し、「リストへの追加」ボタンをクリックすると、bのサービス表示が追加されます。



#### e) 戻る/次へ/キャンセルのボタン部

この画面での処理が終わった場合、どれかのボタンをクリックして画面を移ります。

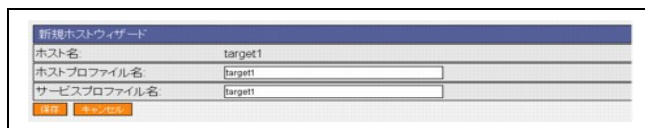
5) 「次へ>>」ボタンをクリックすると、ホスト追加のメッセージ画面が表示されます。



ここで、「続ける」をクリックすれば終了です。

さらに追加で登録する場合は、次画面のホスト名などを編集して同様な処理を続けてください。（前の登録と同じ内容が表示されていますが、これは繰り返し入力を簡略化するために、直前の入力を再表示しているだけです。）

「プロファイルとして保存」をクリックすると、これまでに設定したホストが追加登録され、プロファイル登録画面が表示されます。



ここで、これまでに設定した内容を保存するホストプロファイルやサービスプロファイルの名前を入力し、「保存」をクリックするとプロファイルとして保存され、次のホスト登録の際、これまでの設定を再利用することができます。（ここでキャンセルをしても、ホスト追加登録は有効です）

### 3.1.3. ホスト複製

既存のホスト登録情報を利用して新しいホストを登録する場合に使用する機能メニューです。ホストサブメニューの左フレームの 2 番目の「ホスト複製」をクリックすると、下図のホストの複製画面が開きます。

The screenshot shows the 'Hosts' management interface. On the left is a sidebar menu with options like 'Host Creation Wizard', 'Host Replication' (highlighted), 'Host Search', 'Hosts', 'Host Groups', 'Host Templates', 'Host Status Relationships', and 'Host Backup/Restore'. The main area is titled 'Hostsの複製' (Host Replication) and contains input fields for 'Host Name', 'Alias', 'Address', and a dropdown for 'Replicate from Host'. There are two buttons at the bottom: 'Host Replication' and 'Cancel'.

ここで、左フレームの「ホスト名」、「エイリアス」、「アドレス」欄に入力し、「複製するホスト」選択ボックスの▼をクリックしてホスト一覧から適切なものを選んで、「ホストの複製」ボタンをクリックします。下記の「ホスト管理」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Host Management' configuration page. It has tabs for 'Host Details', 'Profile', 'Status', 'Host Groups', and 'Escalation Policy'. The 'Host Details' tab is active, showing fields for 'Host Name' (target2), 'Alias' (Target Host 2), 'Address' (192.168.1.15), and 'Host Template' (generic-host). Below these is a 'Template Inheritance' section with a warning and checkboxes for 'Performance Data Processing', 'Status Information Retention', 'Staging Options' (with sub-options for Stop, Move, and Unreachable), and 'Contact Group' (nagiosadmin). At the bottom are fields for 'Host Detail Template', '2nd Status Map Label', and '3rd Status Map Label'. Buttons for 'Save', 'Cancel', and 'Apply' are at the bottom left.

必要な修正を行ない（詳しくは、ホスト管理画面操作を参照してください）、下部にある「保存」ボタンをクリックします。

下記のような画面が表示され、ホスト複製による新しいホスト追加が行なわれました。

This screenshot shows the 'Host Management' page after saving. A message at the top states: '保存しました: "target2" への変更が完了されました。' (Saved: Changes to 'target2' are complete). Below the message is a 'Close' button.

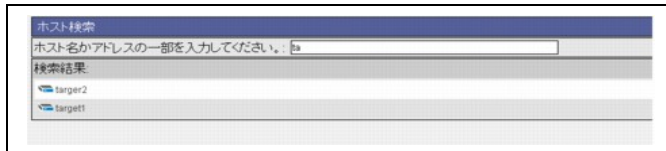
「閉じる」をクリックして、終了してください。



### 3.1.4. ホスト検索

ホスト登録情報操作等のためにホストを探す場合などに使用します。

ホストサブメニューの左フレーム 3 番目の「ホスト検索」をクリックすると、ホスト検索画面が開きます。入力ボックスにホスト名文字列やアドレスの数字の一部を入力すると、その文字（数字）を含むホストが検索結果に表示されます。



検索結果の一覧内のホスト選んでクリックすると、そのホストの管理画面が開きます。（下図）



ここで、そのホストの情報を参照したり、必要な設定変更を行なうことができます。

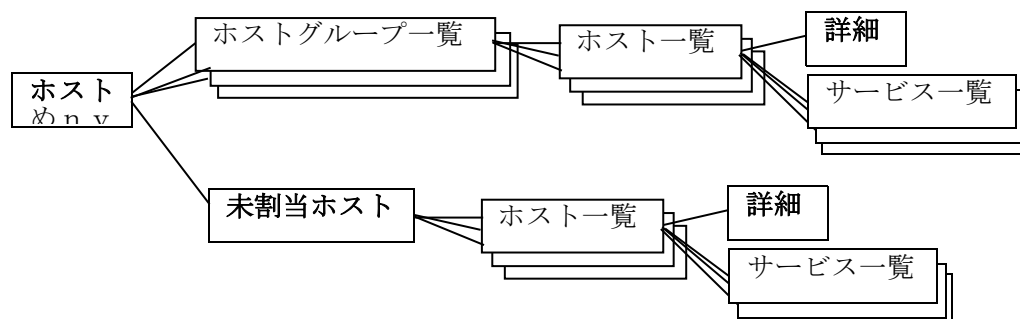
（詳しくは、ホスト管理画面操作を参照してください）

### 3.1.5. ホスト

「ホスト作成ウィザード」や「ホスト複製」機能メニューでホストを追加した後に、ホストの情報を参照、管理するための機能を提供します。

#### 1) ホストのナビゲーション操作

右フレームのホストは、下記のような階層構造になっています：



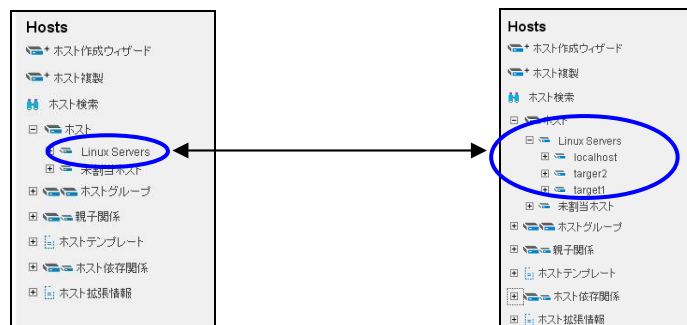
この構造を使って、ホストグループ毎にホストおよび割り当てられたサービスを管理することが出来ます。ホストグループに割り当てられていないホストは、未割当ホストの下に登録されています。

## [ナビゲーション方法]

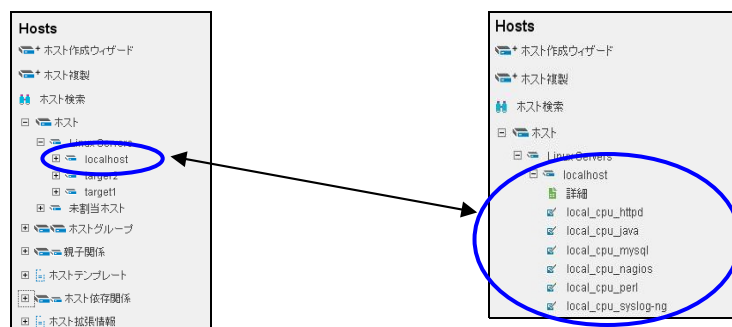
- i) 最上位の「ホスト」か、その左にある「+」アイコンをクリックすると、展開されて、ホストグループ名の一覧と「未割当ホスト」が表示されます。展開されると「+」アイコンは、「-」アイコンに変わります。「-」アイコンをクリックすると、展開されていたホストグループ一覧が閉じます。



- ii) 表示されたホストグループ名や「未割当ホスト」（「+」アイコン）をクリックすると、そのホストグループメンバー（ホスト）一覧、あるいはホストグループに割り当てられていないホスト（未割当ホスト）の一覧が表示されます。i)と同様、展開されたホストグループ（や未割当ホスト）は「-」アイコンになり、再クリックすると閉じます。



- iii) ホストグループ名      ホスト名と展開していくと、下図のようにホストの「詳細」と割り当てられたサービス名一覧が表示されます。



この詳細とサービス名をクリックすると、右フレームに下記の画面が表示されます。

- ・ 詳細                   :   ホスト管理画面
- ・ サービス名       :   ホスト管理サービス画面



## 2) ホスト管理画面の操作

ホスト    ホストグループ名    ホスト名    詳細 とクリックすると、右フレームに選択したホスト詳細設定を表示する「ホスト管理」画面が表示されます（下図）。

ホスト管理画面には、ホスト詳細（上図の画面）、プロフィール、親子関係、ホストグループ、エスケーションツリーおよびサービスの6つのタブの画面があり、その画面でホストに関連する設定を行なうことが出来ます。

The screenshot displays the 'Host Management' (ホスト管理) configuration interface. It features a top navigation bar with tabs: 'Host Details' (ホスト詳細), 'Profile' (プロフィール), 'Parent Relationship' (親子関係), 'Host Group' (ホストグループ), 'Escalation Tree' (エスケーションツリー), and 'Service' (サービス). The 'Host Details' tab is active, showing configuration for host 'target1'. Fields include 'Host Name' (target1), 'Alias' (Target Host1), 'Address' (192.168.1.14), and 'Host Template' (generic-host). A section titled 'Template Inheritance' (テンプレートから継承) explains that values are inherited from the selected template. Below this is a list of settings with checkboxes and input fields: 'Performance Data Processing' (checked), 'Status Information Retention' (checked), 'Flapping Detection' (checked), 'Flapping Thresholds' (lower and upper limits), 'Status Information Retention' (checked), 'Active Check Settings' (checked), 'Passive Check Settings' (checked), 'Host Overload Protection' (unchecked), 'Information Freshness Check' (checked), 'Information Freshness Threshold' (input field), 'Check Command' (check-host-alive), 'Maximum Check Attempts' (input field), 'Check Interval' (input field), 'Retry Interval' (input field), 'Event Handler Settings' (checked), 'Event Handler' (dropdown), 'Notification Settings' (checked), 'Notification Interval' (input field), 'Notification Timeout' (input field), 'Notification Options' (checked), 'Notification Options' (checkboxes for DOWN, UNREACHABLE, Recovery, Flapping, Stop Time, None), 'Storing Options' (checkboxes for DOWN, UP, UNREACHABLE), 'Contact Group' (nagiosadmin), 'Host Escalation Template' (dropdown), '2nd Status Map Template' (input field), and '3rd Status Map Template' (input field). Buttons at the bottom include 'Save' (保存), 'Cancel' (キャンセル), and 'Apply' (適用).

### a) ホスト詳細

ホスト詳細は、ホスト新規追加時に最初に設定するホストバイタル情報（ホスト名、エイリアス、アドレス、ホストテンプレート） および、ホストテンプレート設定を参照して設定される監視のための詳細なパラメータを表示します。

ホスト名を変更するには、「名前を変更」ボタンをクリックして、表示された画面（下図）の「名前の変更」の入力ボックスに新しい名前を入力してください。



「ホスト詳細」タブの画面の下部に表示された「テンプレートからの継承」情報は、ホストテンプレートの情報を参照して設定されたものです。

ホストテンプレートの設定内容は、「ホストテンプレート」の項で詳しく説明します。

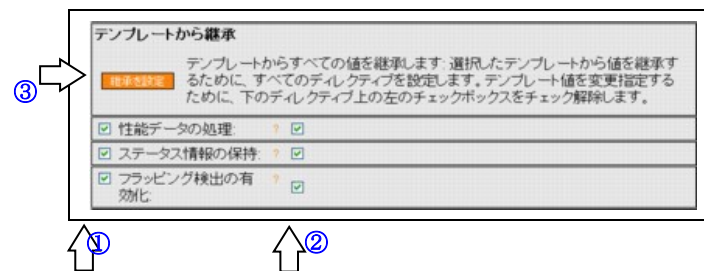
この個別ホストについてテンプレートと異なる設定に変更したい場合、下図の

- ① 設定内容の左側のチェックボックスのチェックを外す。

（このチェックボックスは「テンプレート継承」をするかどうかを指定します）

- 2 設定内容の右側のチェックや入力/選択ボックスに設定したい内容を入力する。

と、操作してください。（①のチェック外しを忘れると設定は変えられません）



「継承を設定」ボタン（上図の③）を押しますと、すべての設定が指定されたテンプレートの設定および値に合わされます。

## b) プロファイル

ホスト管理画面で「プロファイル」タブをクリックすると、そのホストが使用するプロファイル設定画面が表示されます。（下図）



この画面で、ホストに対するホストプロファイルやサービスプロファイルを提供することができます。ホストプロファイルを指定するには、選択ボックスの▼をクリックして表示された登録済みホストプロファイルをクリックして選びます。

サービスプロファイルは複数の適用が可能です。追加するには、右側のボックスに表示されているプロファイルをクリックして青色反転表示させ、「<<追加」ボタンをクリックします。削除するには左側ボックスのプロファイルをクリック（青色反転表示）して

「削除>>」ボタンをクリックします。

適用するプロファイルに含まれるサービスの名前がサービス欄に表示されます。

最下部のサービスアクションの指定は、この画面で指定したプロファイル適用をする際に、前から登録されていたサービス登録を残す（既存のサービスとマージする）か、残さない（既存のサービスと置き換える）を指定します。

この画面での設定が終了したら、「適用」ボタンをクリックします。（適用しないとここで操作した情報は、反映されません）

#### c) 親子関係

ホスト管理画面で「親子関係」タブをクリックすると、そのホストの親ホストを設定する画面が表示されます。（下図）



親子関係設定について詳しくは、3.1.7.「親子関係」を参照してください。

親ホストを登録するには、右側のボックスのホスト名を選択（反転表示）し、「<<追加」ボタンをクリックしてください。親ホストを削除するには、左側ボックスのホスト名を選択して「削除>>」ボタンをクリックします。

変更内容を有効にするため「保存」ボタンをクリックしてください。

#### d) ホストグループ

ホスト管理画面で「ホストグループ」タブをクリックすると、そのホストの所属するホストグループ登録する画面が表示されます。（下図）



右側の選択ボックスに登録されているホストグループが表示され、左側にこのホストが所属するホストグループが表示されます。所属するホストグループに登録するには、右側の選択ボックスのホストを選択（反転表示）し、「<<追加」ボタンをクリックしてください。ホストグループを削除するには、左側ボックスのホスト名を選択して「削除>>」ボタンをクリックします。

ここで変更した内容を有効にするには、必ず、「保存」ボタンをクリックしてください。ホストグループについて詳しくは、「ホストグループ」を参照してください。

#### d) エスカレーションツリー

ホスト管理画面で「エスカレーションツリー」タブをクリックすると、ホストへエスカレーションツリー登録する画面が表示されます。（下図）



ここでは、事前に登録されたホストエスカレーションツリーとサービスエスカレーションツリーをこのホストへ適用する設定を行ないます。

それぞれのエスカレーションツリーの選択ボックスの▼をクリックし、表示されるエスカレーションツリーを選択して下さい。

選択入力を終了し、設定を有効にしたい場合、「保存」ボタンをクリックしてください。

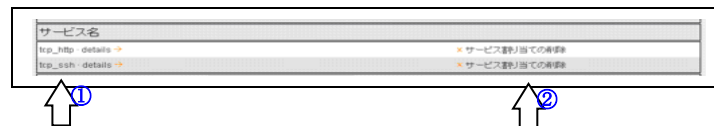
エスカレーションツリーについて詳しくは、「エスカレーションツリー」を参照してください。

#### e) サービス

ホスト管理画面で「サービス」タブをクリックすると、ホストのサービス登録画面が表示されます。（下図）



ここではホストへのサービス追加設定を行ないます。サービスを追加するには、選択ボックスに一覧表示されているサービスを選択（反転表示）させ、「サービス追加」ボタンをクリックしてください。追加されたサービスはサービス名欄に表示されます（下図）。



追加されたサービスは、サービス名欄に「<サービス名>・ details」の形式（上図①）で表示されます（上図）。この表示は「サービス詳細」画面（下図）へのリンクになっており、その画面から、このホストのサービス設定を確認/編集することができます。

ホストからサービスを削除するには、上図②で示した「x サービス割り当ての削除」をクリックしてください。

ホスト管理	
ホスト詳細	サービス
ホスト名:	target1
サービス名:	tcp_ssh
サービステンプレート:	generic-service
<b>テンプレートから継承</b> テンプレートからすべての値を継承します。選択したテンプレートから値を継承するために、すべてのディレクティブを設定します。テンプレート値を変更指定するために、下のディレクティブ上の左のチェックボックスをチェック解除します。	
<input checked="" type="checkbox"/> 揮発性	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> チェック時間帯	24x7
<input checked="" type="checkbox"/> 最大チェック試行回数	0
<input checked="" type="checkbox"/> 定期チェック間隔	10
<input checked="" type="checkbox"/> 再チェック間隔	1
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブチェックの有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> イベントハンドラ	
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピング検出の有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピングしきい値(下限)	
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピングしきい値(上限)	
<input checked="" type="checkbox"/> 性能データの処理	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ステータス情報の保持	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ステータス以外の情報の保持	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> コンタクトグループ:	nagiosadmin <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="追加"/>
拡張情報テンプレート	number_graph
サービスエクスプレッションパター:	
<input type="button" value="保存"/>	

サービス詳細画面では、下記 3) 項で説明するサービス名を選択した際に表示される画面と同様な設定登録が行なえます。（詳しくは、3) ホスト管理・サービス画面の操作を参照して下さい。）



### 3) ホスト管理-サービス画面の操作

ホスト    ホストグループ名    ホスト名    サービス名 とクリックすると、右フレームに選択したホストのサービスについての詳細設定を表示し、設定管理する「ホスト管理サービス」画面が表示されます。（下図）。    ホスト管理サービス画面には、サービス詳細、サービスチェックおよびサービス依存の3つのタブの画面があり、その画面でホストに割り当てられたサービスに関連する設定を行なうことが出来ます。

#### a) サービス詳細

サービス詳細はサービス名とサービステンプレート、そして、そのサービステンプレートを参照して設定されている監視のための詳細なパラメータを表示します。

この画面で設定を編集すると、このホストに割り当てられたサービスの設定を変更することができます。（同サービスを使用している他のホストには影響しません。）

「サービス詳細」タブ画面の「テンプレートからの継承」以下の情報は、元のサービスが参照しているサービステンプレートの情報から設定されたものです。サービステンプレートの設定内容について詳しくは「サービステンプレート」の項で詳しく説明しますので、そちらを参照してください。

このホストのサービスについてテンプレートと異なる設定に変更したい場合、下図の

- ① 設定内容の左側のチェックボックスのチェックを外す。

（このチェックボックスは「テンプレート継承」をするかどうかを指定します）

- 2 設定内容の右側のチェックや入力/選択ボックスに設定したい内容を入力する。

と、操作してください。（①のチェック外しを忘れると設定は変えられません）

テンプレートから継承

テンプレートからすべての値を継承します。選択したテンプレートから値を継承するために、すべてのディレクトリを設定します。テンプレート値を変更指定するために、下のディレクトリ上の左のチェックボックスをチェック解除します。

☒ 継承性

☒ チェック時間帯: 24x7

☒ 最大チェック実行回数: 3

「継承を設定」ボタン（上図の③）を押しますと、すべての設定が指定されたテンプレートの設定および値に合わされます。

## b) サービスチェック

サービスチェックはサービスを実施するチェックコマンドの設定を表示します。この画面で設定を編集すると、このホストに割り当てられたサービスのチェックコマンド設定を変更することができます。（同サービスを使用している他のホストには影響しません。）

ホスト管理 サービス

サービス詳細 サービスチェック サービス依存

ホスト名: target1

サービスチェック

テンプレートから継承されたチェックが十分であれば、このページは何もしません。[テンプレートからチェックの継承]のチェックを外し、必要な変更内容を作成します。引数値をチェックするためにテストボタンを使用しますが、チェックコマンドはwebサーバアカウントで動くため、確実なチェックに問題が起る場合があるため注意してください。

サービス名: tcp\_http

☐ テンプレートからチェックを継承

チェックコマンド: check\_http

コマンド定義: \$USER1\$check\_http -H \$HOSTADDRESS\$ -w '\$ARG1\$' -c '\$ARG2\$'

使用法: check\_http ARG2

コマンドライン: check\_http 35

テスト: ホスト: target1

複数インスタンス(任意)

このチェックがホスト上の他のチェックと同じ、つまりチェックコマンドと[Service Detail]ページの設定がすべて同じで引数のみが異なる場合、新規サービスを作成せずに一連のチェックを定義できます。たとえば、複数のパーティションに対するディスクチェック、あるいは複数のインタフェースについてネットワーク機器のsnmpチェックを定義可能です。名前を入力して1つのインスタンスを追加するか、番号の範囲を入力してアンダースコアに続く番号付きのインスタンスを追加します。インスタンス名はサービス名の後ろに付加されるため、名前の1文字目はアンダースコアとすることを推奨します。

サービスインスタンス名: あるいは、数字の範囲を入力してください: - -

サービス依存: 依存関係の編集

保存

ここでの変更は、コマンドラインで指定する引数(ARG)の値（警告(Warning)や異常(Critical)閾値など）の設定と複数インスタンスの登録設定です。チェックコマンドの選択ボックスがあり変更することも可能になっていますが、ここでチェックコマンド変更を行なう非常に分かり難くなりますので、決して変更しないでください。

コマンドラインの編集については、「サービス追加」の説明を参照してください。

複数インスタンスの登録は、ネットワーク機器（例：スイッチ）のように複数のインタフェースを持っているシステムを監視する際に、インタフェース番号毎にサービスを作



るのではなく、`snmp_if_1`、`snmp_if_2`...という風にサフィックスを付け、それがコマンドラインの引数となるような形式でサービス定義を行なうようにする指定です。

### c) サービス依存

サービス依存は、このホストのサービスが他ホストのサービスに依存することを宣言する情報です。この画面で、その宣言を登録、表示します。

サービス依存性情報を追加するには、「依存性」の選択ボックスの▼をクリックし表示された依存性（サービス登録メニューで登録済のもの）を選択します。その後、選択可能なマスターサービスホストが選択できるようになりますのでクリックして選択し、「依存性の追加」ボタンをクリックして追加します。

追加された依存性は一覧エリアに表示されます。このホストのサービスに依存性が定義されていない場合は、一覧エリアには「定義された依存性がありません」が表示されます。

一覧エリアに表示されたサービス依存関係の設定を削除するには、表示された依存性の右の「サービス依存性割り当てを削除」をクリックしてください。

サービス依存について詳しくは「サービス依存関係」の項を参照してください。

### 3.1.6. ホストグループ

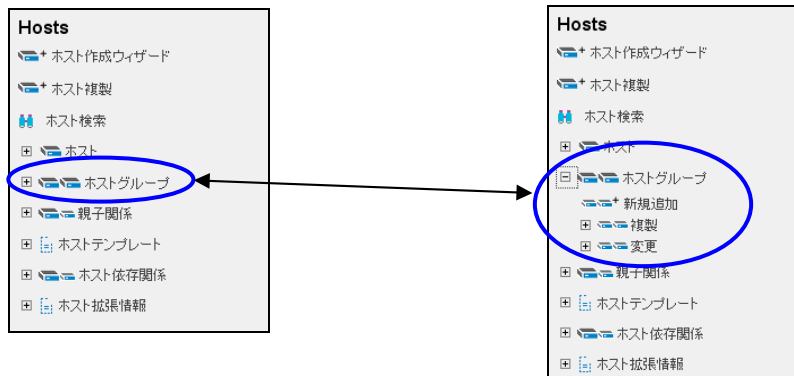
ホストグループの新規追加、複製利用、設定変更を行なう機能メニューです。

ホストグループは、監視対象であるホストをグルーピングしたものであり、グルーピングの仕方も任意です。たとえば、OS 種別グループや稼働させているアプリケーション（Web や DBMS 等）あるいは、ホストの設置場所（Tokyo、New York 等）などがグルーピングで使われるでしょう。管理に都合の良い方法でグルーピングしてください。

（なお、ホストを複数のグループに所属させることも可能ですが、運用誤りを誘発する可能性が高いので、そのようなやり方はお勧めしません。）

ホストメニュー画面左フレームのホストグループ機能メニューは、階層構造になっています。

「ホストグループ」や左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」、「複製」、「変更」のサブメニューが展開されます。展開されたサブメニューは「-」アイコンをクリックすることで閉じます：



「新規追加」を選択するとホストグループ設定画面が開きます（この章の1）項で説明します）。  
 「複製」と「変更」をクリックすると登録済のホストグループが展開され、「+」から変わった「-」アイコンをクリックすると閉じます：



#### 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「ホストグループ設定」画面が表示されます。

ここで「ホストグループ名」、「エイリアス」を入力し、「追加」ボタンをクリックするとホストグループが登録され、下図のような「設定通知」画面でホストグループが追加された旨が表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

ホストグループ設定画面では、ホストグループ名とエイリアス以外に、グループのメンバーの登録、コンタクトグループの割り当て、ホストエスカレーションツリーとサービスエスカレーションツリー割り当てができます。

ここで割り当てられた、コンタクトグループ、ホストエスカレーションツリーおよびサービスエスカレーションツリーは、このグループのメンバーとして登録されたホストすべてに対して共通の設定となります。

メンバー登録は、各ホスト登録や変更時に行なうこともできますし、ホスト登録後一括してここで行なうことも可能です。

## 2) 複製

複製機能メニューを展開した後、展開表示されたホストグループをクリックすると、右フレームに「ホストグループ設定」画面が表示され、その画面中に選択したホストグループの設定内容が表示されます。

ホストグループが空白となっていますので、そこに追加するホストグループ名を入力して他の欄に必要な変更を施して「追加」ボタンをクリックすると、ホストグループが登録され、下図のような「設定通知」画面でホストグループが追加された旨が表示されます。



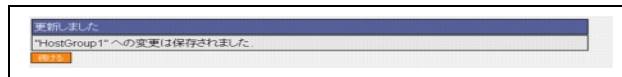
「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3) 変更

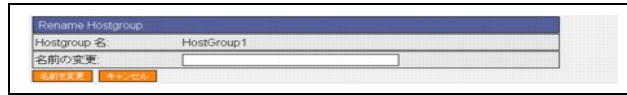
変更機能メニューを展開した後、展開表示されたホストグループをクリックすると、右フレームに「ホストグループ設定」画面が表示され、その画面中に選択したホストグループの設定内容が表示されます。

この画面では、登録されているホストグループ情報の変更、ホストグループ名の変更と登録情報の削除ができます。

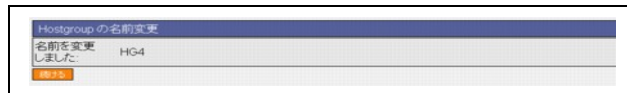
ホストグループ名以外の変更は直接入力/変更できるようになっていますので、必要な変更を施して、「保存」ボタンをクリックします。すると、下記のような「更新しました」画面が表示されます。



ホストグループ名を変更するには「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図のような画面が表示されますので、ホストグループ名を入力して「名前を変更」をクリックします。

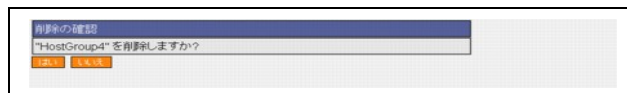


下図のように名前変更を実施した旨の表示がされます。

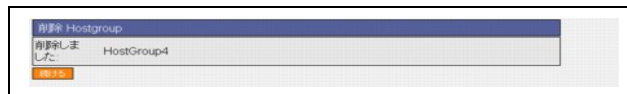


「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

ホストグループを削除するには「削除」ボタンをクリックし表示された「削除の確認」画面で「はい」をクリックします。（下図）



下図のように削除した旨の表示がされます。



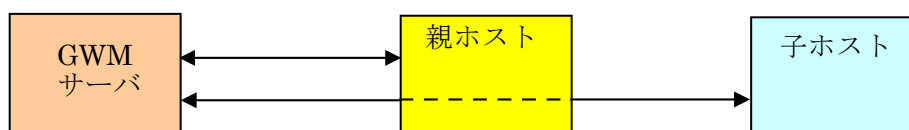
「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.1.7. 親子関係

親子関係の新規追加、設定変更を行なう機能メニューです。

親子関係は、監視対象でホストのネットワーク上の位置関係を定義したものです。ここで言う、親ホストとは、GWM サーバから見たネットワーク接続で、子ホストの直ぐ手前に存在するネットワーク機器（ルータやスイッチなど）を示します。親ホストがダウンした場合、GWM サーバと子ホストと通信が出来なくなりますが、この GWM と子ホスト間の通信途絶は必ずしも子ホストの異常(障害)を意味しません。

GWM/Nagios では不要なアラートを削減するためにネットワークの親子関係に起因すると判断できるアラートを抑止するために、この親子関係を定義することができます。



ホストメニュー画面左フレームの「親子関係」機能メニューは、階層構造になっています。

「親子関係」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」と「変更」のサブメニューが展開されます。展開されたメニューは「-」アイコンをクリックすることで閉じます。「親子関係」を展開し、さらに「変更」サブメニューをクリックすると、登録されている親子関係の一覧がメニューとして表示されます：



## 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「親子関係」の新規追加画面が表示されます。



親子関係の登録には、「親ホスト」を選択ボックスの▼をクリックして選択し、子ホストをリストの中から選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。（子ホストは、複数選択可能です）

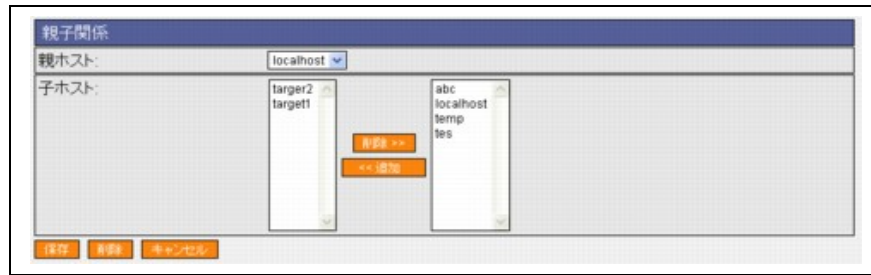
選択入力終了したら「保存」をクリックして、入力した親子関係を DB に登録します。下記の保存メッセージが表示されます：



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

## 2) 変更

「変更」機能メニューをクリックし表示された登録済の親子関係名をクリックすると下記の親子関係変更画面が表示され、登録情報が選択ボックスに表示されます：



表示されている情報を変更し「保存」ボタンをクリックすることで、登録情報を変更します。あるいは、「削除」ボタンをクリックすることで登録情報を削除することができます。変更して「保存」ボタンをクリックした場合は、新規追加と同様なメッセージ表示があります。「削除」ボタンをクリックすると、下記のような「削除の確認」画面が表示されますので、「はい」をクリックしてください。



登録情報は削除され、下記の削除実施メッセージが表示されます：



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.1.7. ホストテンプレート

ホストテンプレートの新規追加、複製、設定変更を行なう機能メニューで、その機能メニューは階層構造になっています。

「ホストテンプレート」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」、「複製」と「変更」のサブメニューが展開されます。展開されたメニューは「-」アイコンをクリックすることで閉じます。「ホストテンプレート」展開中に「複製」と「変更」サブメニューや「+」アイコンをクリックすると、登録されているホストテンプレートの一覧がメニューとして表示されます：





ホストテンプレートは、ホスト登録時の重複設定項目を大幅に削減し、登録を効率良くするために使用します。ホストテンプレートとして登録される内容はホスト監視のための各種パラメータで、ホスト設定の内の共通的な項目です。

設定項目の詳細については、GWM のオンラインマニュアル：Bookshelf に詳しく説明されていますので、そちらを参照してください。

## 1) 新規追加

ホストテンプレートの「新規追加」サブメニューをクリックすると、右フレームに「ホストテンプレート設定」画面が表示されます。

入力項目のうち、ホストテンプレート名、最大チェック試行回数、通知間隔、通知時間帯、通知オプションおよびコンタクトグループが必須入力項目です。

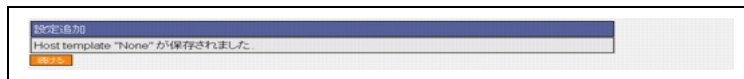
The screenshot shows the 'Host Template Setting' (ホストテンプレート設定) form. It includes the following fields and options:

- ホストテンプレート名 (Host Template Name): Text input field.
- 性能データの処理 (Performance Data Handling): ☐
- ステータス情報の保持 (Status Information Retention): ☐
- フラッピング検出の有効化 (Flapping Detection Enable): ☐
- フラッピングしきい値(下限) (Flapping Threshold (Lower Limit)): Text input field.
- フラッピングしきい値(上限) (Flapping Threshold (Upper Limit)): Text input field.
- ステータス以外の情報の保持 (Retention of Information Other Than Status): ☐
- アクティブチェックの有効化 (Active Check Enable): ☐
- パッシブチェックの有効化 (Passive Check Enable): ☐
- チェック時間帯 (Check Time Zone): Dropdown menu.
- ホストのオブセスオーバー (Host Obsession): ☐
- 情報鮮度チェック (Information Freshness Check): ☐
- 情報鮮度のしきい値 (Information Freshness Threshold): Text input field.
- チェックコマンド (Check Command): Dropdown menu.
- コマンドライン (Command Line): Text input field.
- 最大チェック試行回数 (Maximum Check Attempts): Text input field.
- チェック間隔 (Check Interval): Text input field.
- Retry interval: Text input field.
- イベントハンドラの有効化 (Event Handler Enable): ☐
- イベントハンドラ (Event Handler): Dropdown menu.
- 通知の有効化 (Notification Enable): ☐
- 通知間隔 (Notification Interval): Text input field.
- 通知時間帯 (Notification Time Zone): Dropdown menu.
- 通知オプション (Notification Options):
  - ☐ 停止 (DOWN)
  - ☐ 到達不能 (UNREACHABLE)
  - ☐ 回復 (Recovery)
  - ☐ フラッピング
  - ☐ 停止時間
  - ☐ なし
- ストレージオプション (Storage Options):
  - ☐ 停止 (DOWN)
  - ☐ 稼働 (UP)
  - ☐ 到達不能 (UNREACHABLE)
- コンタクトグループ (Contact Group): List box showing 'nagiosadmin'.

At the bottom, there are '追加' (Add) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

ここで登録データを入力し「追加」ボタンをクリックすると、下記の書き込みメッセージが表示されます。必須入力項目を設定してない場合、エラーメッセージが表示されますので、入力を見直して「追加」ボタンを再度クリックしてください。





「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

## 2) 複製

ホストテンプレートの「複製」機能メニューをクリックし、表示されたホストテンプレート名をクリックすると、下図の「ホストテンプレート設定」画面が開きます。

この画面では選択したホストテンプレートで設定されていた内容が表示され、ホストテンプレート名が空欄になっています（下図）：

 The screenshot shows the 'Host Template Settings' (ホストテンプレート設定) screen. At the top, there is a header bar with the title 'ホストテンプレート設定'. Below it, the 'Host Template Name' (ホストテンプレート名) field is empty. The settings are organized into several sections:
 

- 性能データの処理** (Performance Data Processing): Includes checkboxes for 'ステータス情報の保持' (Keep status information), 'フラッピング検出の有効化' (Enable flapping detection), 'フラッピングしきい値(下限)値' (Flapping threshold (lower limit) value), 'フラッピングしきい値(上限)値' (Flapping threshold (upper limit) value), 'ステータス以外の情報の保持' (Keep information other than status), 'アクティブチェックの有効化' (Enable active check), and 'パッシブチェックの有効化' (Enable passive check).
- チェック時間帯** (Check time zone): A dropdown menu set to '24x7'.
- 通知オプション** (Notification options): Includes checkboxes for '停止(DOWN)' (Stop (DOWN)), '到達不能(UNREACHABLE)' (Unreachable), '回復(Recovery)' (Recovery), 'フラッピング' (Flapping), '停止時間' (Stop time), and 'なし' (None).
- スリーピングオプション** (Sleeping options): Includes checkboxes for '停止(DOWN)' (Stop (DOWN)), '稼働(UP)' (Operational (UP)), '到達不能(UNREACHABLE)' (Unreachable), and 'なし' (None).
- コンタクトグループ** (Contact group): A dropdown menu set to 'nagiosadmin'.

 At the bottom of the screen, there are two orange buttons: '追加' (Add) and 'キャンセル' (Cancel).

ホストテンプレート名を入力して必要な設定の変更を行ない、「追加」ボタンをクリックすると新規追加と同様なメッセージ画面が表示されます。

## 3) 変更

ホストテンプレートの「変更」機能メニューをクリックし、表示されたホストテンプレート名をクリックすると、下図の「ホストテンプレート設定」画面が開きます。

必要な設定の変更を行ない、「保存」ボタンをクリックすると新規追加と同様なメッセージ画面が表示されます。

ホストテンプレート名を変更したい場合、「名前の変更」ボタンをクリックすると下記の「ホストテンプレート名変更」画面が表示されます。

変更するホストテンプレート名を入力し、「名前の変更」ボタンをクリックすると、下記のようなメッセージ画面が表示されます。

ホストテンプレートを削除したい場合は、ホストテンプレート設定画面の「削除」ボタンをクリックします。下記のような「削除の確認」画面が表示されます。

「はい」ボタンをクリックすると下記のような、削除実施メッセージが表示されます。

「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.1.9. ホスト依存関係

ホスト依存関係の新規追加と設定変更を行なう機能メニューです。

「ホスト依存関係」や左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」と「変更」サブメニューが展開されます。展開されたメニューは「-」アイコンをクリックすることで閉じます。「ホスト依存関係」展開中に「変更」サブメニューやその「+」アイコンをクリックすると、登録されているホスト依存関係の一覧がメニューとして表示されます：



「ホスト依存関係」は、3.1.7.「親子関係」で説明した監視制御機構と類似した仕組みです。親子関係では、親ホストが監視対象（子）ホストと GWM サーバ間に存在する位置関係で、親ホストの異常検出時に子ホストの異常を抑止するものでした。ホスト依存関係はネットワーク接続とは関係なく、監視対象ホスト（依存ホスト）と「マスターホスト」との機能的な依存関係を登録し、それに基づいて監視と監視結果に基づくアクションを行なうものです。つまり、登録されたマスターホストの状態に基づいて、依存ホストの監視や通知を行ないます。たとえば、DB サーバと DB に依存するアプリケーションサーバの関係であれば、DB サーバに異常が発生した場合、アプリケーションサーバも機能しなくなるでしょう。このとき、不要なアプリケーションサーバからのアラートを抑止したり、無駄な監視アクションを停止することで問題の対処がより容易になることが考えられます。このような場合に、ホスト依存性/関係の登録を行ないます。

#### 1) 新規追加

ホスト依存関係の「新規追加」サブメニューをクリックすると、右フレームに「ホスト依存性設定」画面が表示されます。

ホスト依存性設定

依存ホスト: ▼

マスターホスト: ▼

マスターホストの依存性を継承: ☐

実行中止基準: ☐ 移動(UP)  
☐ 停止(DOWN)  
☐ 到達不能(UNREACHABLE)  
☐ 保留(PENDING)  
☐ なし

通知中止基準: ☐ 移動(UP)  
☐ 停止(DOWN)  
☐ 到達不能(UNREACHABLE)  
☐ 保留(PENDING)  
☐ なし

追加 キャンセル

依存ホスト、マスターホストの選択ボックスの▼をクリックして表示されたホストから適切なホスト名を選びます。そして、依存関係継承をするか否かや実行中止／通知中止の基準を設定し「追加」ボタンをクリックすると下記の追加メッセージが表示されます。

更新しました

追加しました: ホスト"target1"のマスター"localhost"への依存を保存しました。

続ける

「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

## 2) 変更

ホスト依存関係の「変更」サブメニューをクリックして表示された登録済の依存関係をクリックすると、右フレームに「ホスト依存性設定」画面が表示され、クリックした依存関係の設定情報が表示されます。

ホスト依存性設定

依存ホスト: target1

マスターホスト: localhost

マスターホストの依存性を継承: ☐

実行中止基準: ☒ 移動(UP)  
☒ 停止(DOWN)  
☐ 到達不能(UNREACHABLE)  
☐ 保留(PENDING)  
☐ なし

通知中止基準: ☒ 移動(UP)  
☒ 停止(DOWN)  
☐ 到達不能(UNREACHABLE)  
☐ 保留(PENDING)  
☐ なし

保存 削除 キャンセル

変更する依存関係について編集し「保存」ボタンをクリックすると、「追加」と同様なメッセージが表示されます。

ホスト依存関係の登録を削除するには「削除」ボタンをクリックします。「削除の確認」メッセージが表示されます。



「はい」 ボタンをクリックしますと、下記の削除実施メッセージが表示されます。



「続ける」 ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.1.10. ホスト拡張情報

ホスト拡張情報の新規追加、複製と設定変更を行なう機能メニューです。

「ホスト拡張情報」や左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」「複製」および「変更」のサブメニューが展開されます。展開されたメニューは「-」アイコンをクリックすることで閉じます。「ホスト拡張情報」展開中に複製や「変更」サブメニューや「+」アイコンをクリックすると、登録されているホスト拡張情報の一覧がメニューとして表示されます：



ホスト拡張情報は、Nagios 画面におけるホストの追加情報やステータスマップ中のグラフィック表示を登録設定するもので、ホスト種別毎（たとえば、ハードウェア、OS や稼動するアプリケーションなど）に登録して、ホストの登録時に割り当てると Nagios 画面表示時に見やすくすることができます。

#### 1) 新規追加

ホスト拡張情報の「新規追加」サブメニューをクリックすると、右フレームに「ホスト拡張情報テンプレート設定」画面が表示されます。

ホスト拡張情報テンプレート設定画面では、ホスト拡張情報テンプレート名および Nagios のホスト情報表示にかかわる各種の情報を入力します。ホスト拡張情報について詳しくは **Bookshelf** や Nagios の書籍等を参照してください。ただ、それらの情報では分かり難いため、プレゼンチアの提供する **TIPS** 集で分かり易く説明しています。そちらを参照ください。

各種の情報を入力が終了し「追加」ボタンをクリックすると、下記の設定追加メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

## 2) 複製

ホスト拡張情報の「複製」サブメニューを展開して表示されたホスト拡張情報テンプレート名をクリックすると、右フレームに下図のように、テンプレート名のみが空白で、他の欄に選択したホスト拡張テンプレートの設定内容が入力された形式の「ホスト拡張情報テンプレート設定」画面が表示されます。

テンプレート名を入力し、他の欄に必要な修正をして「追加」ボタンをクリックすると、1) の新規追加と同様な追加設定追加メッセージが表示されますので、「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。



## 3) 変更

ホスト拡張情報の「変更」サブメニューを展開して表示されたホスト拡張情報テンプレート名をクリックすると、選択したホスト拡張情報テンプレートについての設定画面が表示されます。

この画面では、テンプレート名は編集できず、他の設定のみを編集することができます。必要な編集を行なって「保存」ボタンをクリックすると更新情報の保存メッセージが表示されます：

「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

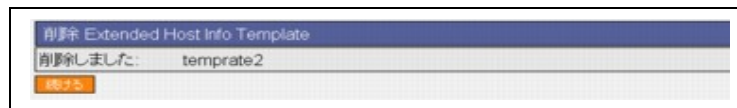
名称を変更したい場合、「名前変更」ボタンをクリックすると下記の名称変更画面が表示されます。

新しい名前を入力して「名前変更」ボタンをクリックすると名前変更実施メッセージが表示されます。

「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

ホスト拡張情報テンプレートを削除したい場合、「削除」ボタンをクリックすると削除の確認画面が表示されます。

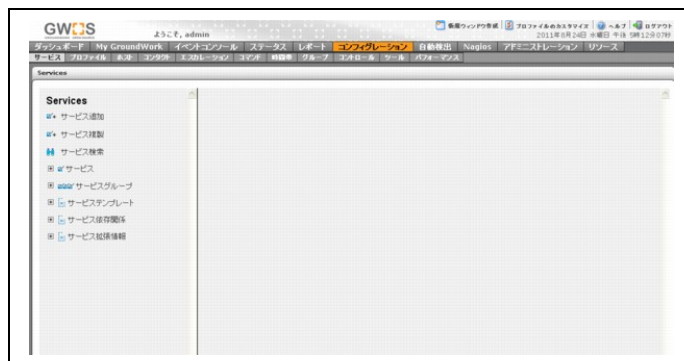
「はい」ボタンをクリックすると下図の削除実施メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.2. サービス

コンフィグレーションのサブメニュー「サービス」をクリックすると、サービス（Services）設定画面が開きます。（下図）



サービスとは、GWM／Nagios においては、監視対象についての監視内容つまり監視項目と監視パラメータのことです。TCP サービスや Web サービス、アプリケーションサービス等、さまざまな「サービス」と呼ばれるものがありますが、GWM／Nagios の世界においては特に説明がない限り「監視項目」のことであると解釈して置いてください。

サービス設定画面で監視対象についての監視内容（監視項目と監視パラメータ）サービスを登録します。

#### 3.2.1. サービス設定画面の機能メニュー

サービス（Services）設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 1) サービス追加     | : 新規にサービスを登録する               |
| 2) サービス複製     | : 既存のサービス情報を利用して新しいサービスを登録する |
| 3) サービス検索     | : サービス登録情報操作等のため、サービスを検索する   |
| 4) サービス       | : サービス一覧を表示し、その登録情報を表示操作する   |
| 5) サービスグループ   | : サービスグループの追加、変更を行なう         |
| 6) サービステンプレート | : サービス登録の各種パラメータのテンプレートを登録する |
| 7) サービス依存関係   | : サービス間の依存関係を登録する。           |
| 8) サービス拡張情報   | : サービス拡張情報を登録管理する            |



### 3.2.2. サービス追加

新規にサービスを追加する場合に使用する機能メニューです。「サービス追加」機能メニューをクリックすると下記の「新規サービス」画面が表示されます。

新規サービス	
サービス名	<input type="text"/>
サービステンプレート	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>	<input type="button" value="キャンセル"/>

「サービス名」を入力し、「サービステンプレート」の▼をクリックしてサービステンプレートを選択します。（デフォルトでは、**generic-service** のみが表示されます。サービステンプレートについて詳しくは、**3.2.7. 「サービステンプレート」**を参照してください。）

「追加」ボタンをクリックすると、下図のサービス管理画面が表示されます。

サービス管理	
サービス詳細	サービス設定
サービス名	additional_service
サービステンプレート:	<span>▼</span> generic-service <span>▼</span>
テンプレートから継承 テンプレートからすべての値を継承します。選択したテンプレートから値を継承するために、すべてのディレクトリを設定します。テンプレート値を変更指定するために、下のディレクトリ上の左のチェックボックスをチェック解除します。	
<input checked="" type="checkbox"/> 推奨性	<span>▼</span> <input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> チェック時間帯	<span>▼</span> 24x7 <span>▼</span>
<input checked="" type="checkbox"/> 最大チェック試行回数	<span>▼</span> 3
<input checked="" type="checkbox"/> 定期チェック間隔	<span>▼</span> 10
<input checked="" type="checkbox"/> 再チェック間隔	<span>▼</span> 1
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブチェックの有効化	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> パッシブチェックの有効化	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> サービスのオペレーション	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 情報対応チェック	<span>▼</span> <input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 情報対応のしきい値	<span>▼</span> <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 通知の有効化	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 通知間隔	<span>▼</span> 60
<input checked="" type="checkbox"/> 通知時間帯	<span>▼</span> 24x7 <span>▼</span>
<input checked="" type="checkbox"/> 通知オプション:	<input checked="" type="checkbox"/> 不明 (UNKNOWN) <input checked="" type="checkbox"/> 異常 (CRITICAL) <input checked="" type="checkbox"/> 警告 (WARNING) <input checked="" type="checkbox"/> 回復 (Recovery) <input type="checkbox"/> フラッピング <input type="checkbox"/> 停止時間 <input type="checkbox"/> fail
<input checked="" type="checkbox"/> イベントハンドラの有効化	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> イベントハンドラ	<span>▼</span> <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピング検出の有効化	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピングしきい値 (下限)	<span>▼</span> <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> フラッピングしきい値 (上限)	<span>▼</span> <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 性能データの処理	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ステータス情報の保持	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ステータス以外の情報の保持	<span>▼</span> <input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> コンタクトグループ	<div> <input type="text" value="nagios-admin"/> <input type="button" value="追加 (+)"/> <input type="button" value="削除 (-)"/> </div>
拡張情報テンプレート	<span>▼</span> <input type="text"/>
サービスエスケール・バージョン	<span>▼</span> <input type="text"/>

この画面でサービスの設定が実施し（詳しくは 3.2.5.「サービス」で説明します）「保存」ボタンをクリックすると、下記の保存実施メッセージが表示されます。

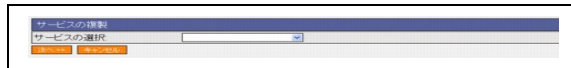
(この画面の「サービスチェック」タブでコマンドを登録することが必要です。実施する場合は、**3.2.5. 「サービス」を参照して下さい**)

サービス管理				
サービス詳細	サービスタック	サービス依存関係	サービスプロファイル	テストの適用
サービス名 additional_service				
保存しました additional_service				
<a href="#">閉じる</a>				

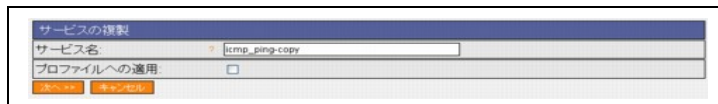
### 3.2.3. サービス複製

既存のサービスの登録情報を利用してサービスを追加する場合に使用する機能メニューです。

「サービス複製」機能メニューをクリックすると下記の「サービスの複製」画面が表示されます



「サービスの選択」ボックスの▼をクリックして表示されるサービスのリストから複製したいサービス名を選択し、「次へ>>」ボタンをクリックします。下図の画面に移ります



「サービス名」の欄には、選択したサービス名の後に「-copy」と付いた名称が書き込まれていますので、それを適切な名称に変更します。

「プロファイルへの適用」チェックボックスは、複製元のサービスが登録されているサービスプロファイルに同様に追加登録するかどうかの選択をします。（チェックすると自動的にプロファイルに追加されます）。

入力が終わり、「次へ>>」をクリックすると、「サービス追加」と同様なサービス管理画面が表示されます。



この画面でサービス設定を確認し、必要な編集などをすることができます。また、タブとして「サービス詳細」以外に、サービスチェック、サービス依存関係、サービスプロファイルおよびホストの適用のタブがあり、それぞれの画面で設定を行ないます。それらの操作について詳しくは、3.2.5.「サービス」で説明します。

必要な編集をして「保存」ボタンをクリックします。



「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.2.4. サービス検索

サービス情報を参照したり、編集したりするため、サービスを検索する機能メニューです。

「サービス検索」機能メニューをクリックすると下図の「サービス検索」画面が表示されます。

入力ボックスに表示させたいサービスの名称の文字列の一部を入力すると、検索結果欄にその文字列を含むサービス名の一覧が表示されます。

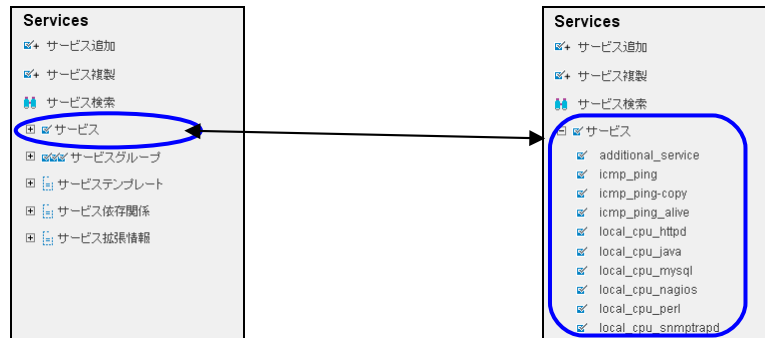
検索結果のサービス名をクリックすると、「サービス追加」と同様なサービス管理画面が表示されます。

この画面でサービス設定を確認し、必要な編集などをすることができます。「サービス詳細」タブ以外に、サービスチェック、サービス依存関係、サービスプロファイルおよびホストの適用のタブがあり、それぞれの画面で設定を行ないます。それらの操作について詳しくは、3.2.5.「サービス」で説明します。

### 3.2.5. サービス

「サービス追加」や「サービス複製」機能メニューで追加されたサービス情報を参照、管理するための機能メニューです。

右フレームの「サービス」か「+」アイコンをクリックすると、アイコンが「-」に変わり、下に登録済のサービス名一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると閉じます。



展開されたサービス名一覧中のサービスをクリックするとサービス管理画面が開きます：

（これは「サービス追加」、「サービス複製」メニューで開いたサービス管理画面と同じ画面です）

サービス管理画面には以下のタブがあり、それぞれ異なる画面で操作を行ないます。

- サービス詳細 : サービス名変更やテンプレート情報登録や変更の実施する
- サービスチェック : サービス実行時に起動するコマンドとオプションを設定する
- サービス依存関係 : サービスの依存関係と登録する
- サービスプロファイル : サービスプロファイルへのこのサービス追加や削除を実施
- ホストの適用 : サービスが割り当てられているホストへ変更を反映する

## 1) サービス詳細

サービス管理のデフォルトは「サービス詳細」タブ画面で、サービス設定の詳細を確認し、変更することができます。

この画面では、使用するサービステンプレートの指定とサービステンプレートから継承した詳細再設定の実施します。

画面の中央部に表示された「テンプレートからの継承」情報は、サービステンプレートの情報を参照して設定されたものです。サービステンプレートの設定内容は、「サービステンプレート」の項で詳しく説明します。

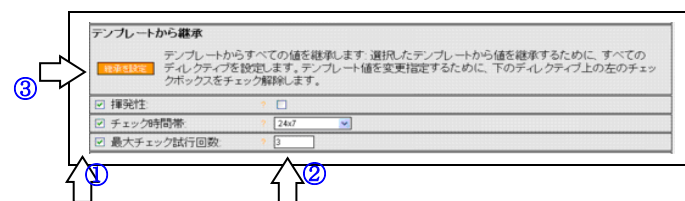
このサービスにおいて指定したテンプレートと異なる設定に変更したい場合、下図の

- ① 設定内容の左側のチェックボックスのチェックを外す。

（このチェックボックスは「テンプレート継承」をするかどうかを指定します）

- 2 設定内容の右側のチェックや入力/選択ボックスに設定したい内容を入力する。

と、操作してください。（①のチェック外しを忘れると設定は変えられません）



「継承を設定」ボタン（上図の③）を押しますと、すべての設定が指定されたテンプレートの設定および値に合わされます。

サービス詳細画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」および「閉じる」のボタンがあります、以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

## 【保存】

必要な修正が終わったら、画面最下部の「保存」ボタンをクリックすると保存実施メッセージが表示されます。



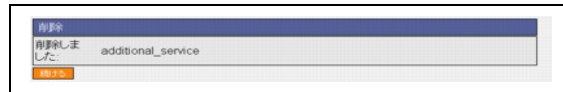
「閉じる」ボタンをクリックして、画面を閉じます。

## 【削除】

「削除」ボタンをクリックすると、下記の削除の確認画面が表示されます。



「はい」をクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 【名前を変更】

「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービス名変更画面になります。



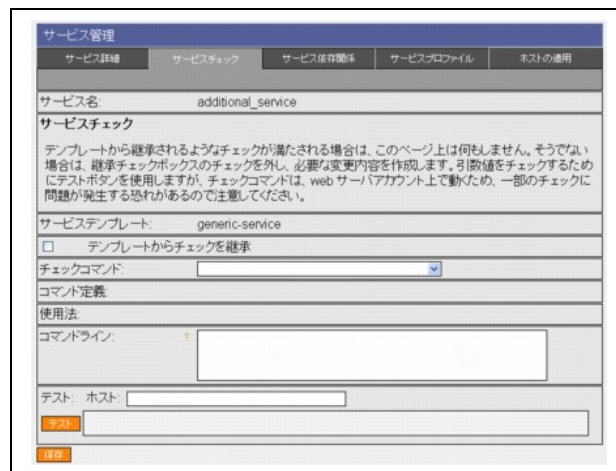
「変更名」欄に新しい名前を入力し「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービス詳細画面に戻ります。（サービス名が変更されています）

### 【閉じる】

「閉じる」ボタンをクリックすると保存しないでサービス管理画面を終了します。

## 2) サービスチェック

「サービスチェック」タブをクリックすると「サービスチェック」画面が開き、コマンドの登録や編集を行なうことができます。



この画面では、使用するサービステンプレートの指定とサービステンプレートから継承した詳細設定の変更を実施します。

「サービス詳細」画面で指定したサービステンプレートにサービスチェックが登録されている場合、「テンプレートからチェックを継承」チェックボックスをチェックするとテンプレートで設定したチェックコマンドとコマンドラインが表示され登録されます。

テンプレートからのチェックを継承しない、あるいはテンプレートにサービスチェックを登録していない場合は、この画面でチェックコマンドを登録します。

まず、「チェックコマンド」選択ボックスの▼をクリックし、表示されるサービスのリストから



適切なサービスを選択します。すると、コマンド定義と使用法欄にコマンドラインとコマンドライン形式が表示されますので、必要ならばコマンドラインを編集します：

The screenshot shows a configuration window with the following fields:

チェックコマンド:	check_http
コマンド定義:	\$USER1\$/check_http -H \$HOSTADDRESS\$ -w "\$ARG1\$" -c "\$ARG2\$"
使用法:	check_http!ARG1!ARG2
コマンドライン:	check_http!ARG1!ARG2

上図の例では、チェックコマンドとして `check_http` を指定し、その使用法として、

`check_http!ARG1!ARG2`

と表示されています。この `ARG1` と `ARG2` はコマンドラインで設定すべき引数です。

「コマンドライン」入力ボックス内の「`ARG1`」と「`ARG2`」の文字列を編集してください。

例： `check_http!3!5`

HTTP ポートの応答時間 3 秒を Warning、5 秒を Critical の閾値とする

ここで指定すべき引数は「コマンド」機能（3.7.章を参照）でコマンド登録した際に指定された定義です。

デフォルト登録されているコマンドについては、BookShelf の「GroundWork プロファイル」の中で該当するコマンドを探すか、検索することで調べることができます。

（たとえば、`check_http` は、GroundWork プロファイル リモートサービスプロファイル Service HTTP の `tcp_http_port` サービスのコマンドラインで参照することができます）

デフォルトで登録されていないコマンド、つまりカスタムコマンドの場合、事前にコマンド登録をしてあるはずですので、その際の指定に合わせて設定してください。

チェックコマンド指定とコマンドライン編集が終わったら、サービスチェックのテストを行なうことができます。テスト実施には、テスト欄のホスト入力のボックスチェックを行なうホストを指定し、「テスト」ボタンをクリックします。

The screenshot shows a test interface with a 'Host' input field containing 'localhost' and a 'Test' button.

テストの右欄に、実行コマンド、テスト結果（チェックコマンドの応答文字列とリターンコード）が表示されます。（localhost に対する実施例）

The screenshot shows the test results for the 'localhost' host. The command executed is `/usr/local/groundwork/nagios/libexec/check_http -H 127.0.0.1 -w "3" -c "5"`. The output is `HTTP OK HTTP/1.1 200 OK - 1261 bytes in 0.001 seconds |time=0.000644s;3.000000;5.000000;0.000000 s`. The command returned exit status 0.

設定とテストが終わったら、「保存」のボタンをクリックして設定データを保存します。

下図の保存メッセージが表示されます。「閉じる」をクリックして

サービス管理	
サービス詳細	サービスチェック
サービス名:	additional_service
保存しました:	additional_service
<input type="button" value="閉じる"/>	

「閉じる」をクリックして次の操作に移ります。

### 3) サービス依存関係

「サービス依存関係」タブをクリックすると「サービス依存関係」画面が開き、登録されているサービス依存関係をこのサービスに追加することができます。

サービス管理	
サービス詳細	サービスチェック
サービス名:	additional_service
サービス依存性	
ここにサービス依存性を追加または削除できます。依存性を追加するには、依存性リストから選択し画面を更新した後、適切なホストを選択するか、依存性が同じホストのサービスに対するならば、同じホストを選択します。	
依存性:	マスターサービスホスト
定義された依存性はありません	
依存性:	<input type="button" value="▼"/>
マスターサービスホスト:	<input type="button" value="▼"/>
<input type="button" value="依存性の追加"/>	

「依存性」選択ボックスの▼をクリックするとサービス依存関係（3.2.8.を参照）で登録された依存関係名が表示されるので、適切な依存関係を選びます。

次に「マスターサービスホスト」選択ボックスの▼をクリックすると、指定された依存性に関連するサービスが割り当てられているホストが表示されます。他のホストに関連するサービスが割り当てられていない場合、「same host」のみが表示されます。「same host」とは、同一のホストにサービス依存関係を登録したサービスを割り当てる場合に指定します。

「依存性の追加」ボタンをクリックすると、画面中央の依存性欄に表示されます。

依存性	マスターサービスホスト
定義された依存性はありません	

↑↓

依存性	マスターサービスホスト
CPU_depend	same host

ここに表示されたサービス依存関係名の右側の「サービス依存性割り当てを削除」をクリックすると、削除することができます。



## 4) サービスプロファイル

「サービスプロファイル」タブをクリックすると「サービスプロファイル」画面が開き、登録されているサービスプロファイルへこのサービスに追加することができます。



画面の中央にある「サービスプロファイル」欄の右ボックスには、登録されているサービスプロファイルが表示され、左側のボックスにこのサービスを含むプロファイルが表示されます。

（サービスを登録した当初は、左側のボックスは空のままです。）

サービスをプロファイルに追加するには、右ボックスに表示されたサービスプロファイルを選択（反転表示）し「<<追加」ボタンをクリックします。選択したプロファイルが、左ボックスに移ります。

サービスをサービスプロファイルから削除するには、左ボックスのサービスを選択（反転表示）し、「削除>>」ボタンをクリックします。

サービスプロファイルの追加操作が終了したら、下部の「保存」ボタンをクリックして修正を保存します。下図のサービス情報保存メッセージが表示されます。



「閉じる」をクリックして次の操作に移ります。

## 5) ホストの適用

「ホストの適用」タブをクリックすると「ホストの適用」画面が開き、このサービスが割り当てられているホストへサービス設定の変更を適用させることができます。また、適用の仕方を指定することができます。

（サービスがホストに割り当てられていない場合、ここでの操作できません。）

サービス管理	
サービス詳細	サービスの適用
サービス名: additional_service	
<b>ホストの適用</b> リストに表示されたホストに対して適用するオプションを選択する必要があります。【置換】y【マージ】オプションを選択すると、[Service Detail] ページで選択した設定が参照されます。	
ホスト: target2 target1	
サービス設定アクション: <input type="checkbox"/> サービスチェックを適用する <input type="checkbox"/> コンタクトグループを適用する <input type="checkbox"/> サービス拡張情報を適用する <input type="checkbox"/> サービスエスケールションを適用する <input type="checkbox"/> 依存関係を適用する	
ホストサービスアクション: <input type="radio"/> 既存のサービスプロパティを置き換える(強制更新)。 <input checked="" type="radio"/> 既存のサービスプロパティとマージする(上書き保存)。	
<b>注意</b> <input type="button" value="適用"/>	

てられているホストへサービス設定の変更を適用させることができます。また、適用の範囲と仕方を指定することができます。

「ホスト」欄にこのサービスが割り当てられているホストが表示されます。（割当がない場合、その旨の表示がされます）

「サービス設定アクション」欄のチェックボックスで、表示されたホストに適用するサービス設定の範囲を指定します。

「ホストサービスアクション」欄のラジオボタンで、既存のサービス設定を置き換えるか、マージするかを決定します。

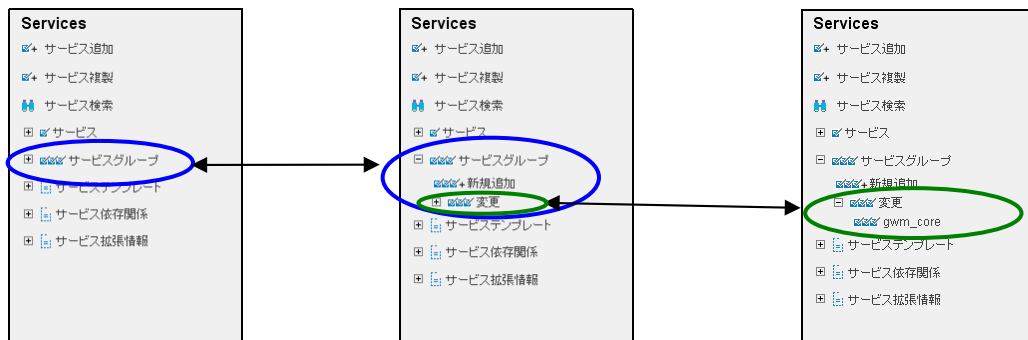
「適用」ボタンをクリックするとホストへの適用メッセージが表示されます。

サービス管理	
サービス詳細	サービスの適用
サービス名: additional_service	
適用しました: Changes applied to 2 services.	

### 3.2.6. サービスグループ

サービスをグループ化することで監視管理の高度化を図るため、サービスグループを登録する機能メニューです。サービスグループは複数の監視項目（ホスト名とサービス名のペアで指定）をグルーピングしたものです。

左フレームの「サービスグループ」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」と「変更」のサブメニューが展開されます。



左フレームの「サービスグループ」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」と「変更」のサブメニューが展開されます。

展開された状態で「変更」やその左側の「+」アイコンをクリックすると、登録されているサービスグループが表示されます。「-」アイコンが変更を再度クリックすると閉じます。

#### 1) 新規追加

「新規追加」サブメニューをクリックすると、下記のサービスグループ追加画面が開きます。

サービスグループ名とエイリアス（説明）を入力して、「追加」ボタンをクリックすると、サービスグループ管理画面が開きます：

この画面の操作は、2) の変更の操作と同じですので、そちらを参照して下さい。

#### 2) 変更

「変更」をクリックすると登録されているサービスグループ名の一覧が表示され、表示されたサービス名をクリックすると、下図のサービスグループ管理画面が表示されます。

サービスグループ	
サービスグループ名	Web
エイリアス	<input type="text" value="All Web Services"/>
ホスト	サービス
ホスト: <input type="text" value=""/>	<div> <div>サービスがありません</div> <div></div> </div>
<input type="button" value="サービス追加"/>	
サービス: <input type="text" value=""/>	<div> <div>ホストがありません</div> <div></div> </div>
<input type="button" value="サービス追加"/>	
サービスエスケレーションツリー	
<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="新機能"/>
<input type="button" value="名前を変更"/>	

ここは、サービスグループへの「ホスト-サービスペア」の登録や削除を行ないます。

「ホストーサービスペア」追加は、ホストからでもサービスからでも指定ができます。

### ① ホストから指定

「ホスト」欄の選択ボックスの▼をクリックし表示されるホストを選択すると、右側のリストボックスに指定したホストに割り当てられているサービスが表示されます。

表示されたサービスを選択（反転表示）し、「サービス追加」ボタンをクリックすると、「ホスト サービス」欄に選択したホストとサービス（ホストーサービスペア）が表示されます。

## ② サービスから指定

「サービス」欄の選択ボックスの▼をクリックし表示されるサービスを選択すると、右側のリストボックスに指定したサービスを割り当てられているホストが表示されます。

表示されたホストを選択（反転表示）し、「ホスト追加」ボタンをクリックすると、「ホスト サービス」欄に選択したホストーサービスペアが表示されます。

サービスグループ

サービスグループ名: Web

エイリアス: All Web Services

ホスト: サービス

localhost	tcp_http	サービス選択/当ての削除
target1	tcp_http	サービス選択/当ての削除

ホスト: target1

サービス追加

snmp\_ifbandwidth\_1  
snmp\_ifoperstatus\_1  
snmp\_if\_1  
tcp\_ssh  
udp\_snmp

サービス: tcp\_http

ホスト追加

localhost  
target1

サービスエスケレーションポリシー:

追加

削除

名前を変更

ホストーサービスペアを削除するには、削除したいホストーサービスペア右側の「サービス割り当ての削除」をクリックします。（表示から削除されます）

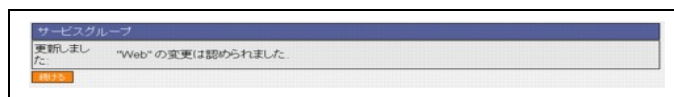
サービスグループにサービスエスカレーションツリーを割り当てるには、「サービスエスカレーションツリー」欄の選択ボックスの▼をクリックし、表示されたサービスエスカレーションツリー名を選択します。

下部のボタンの操作

#### 「保存」

上述の手順で編集を終え保存するには「保存」ボタンをクリックします。

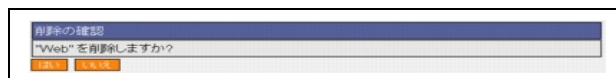
下図のようなメッセージが表示されます。



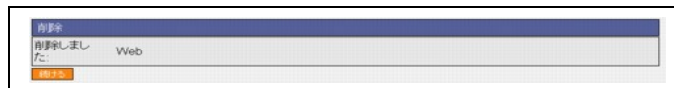
「続ける」をクリックします。

#### 「削除」

サービスを削除するには「削除」ボタンをクリックし表示された「削除の確認」画面で「はい」をクリックします。（下図）



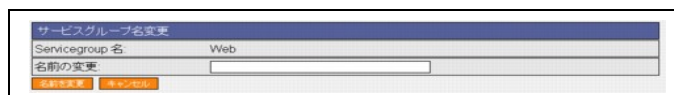
削除実施メッセージが表示されます。



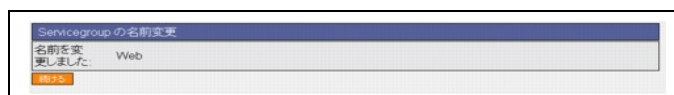
「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

#### 「名前の変更」

サービスグループ名を変更するため、「名前の変更」ボタンをクリックし、下図の画面が開きます。



グループ名を入力して「名前を変更」をクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます。

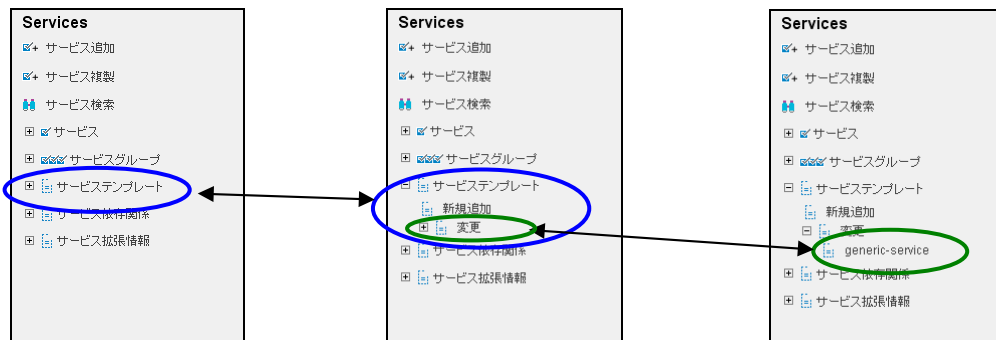


「続ける」ボタンをクリックし、次の処理に移ります。

### 3.2.7. サービステンプレート

サービステンプレートの新規追加、複製、設定変更を行なう機能メニューは下図のような階層構造になっています。

「サービステンプレート」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」と「変更」のサブメニューが展開されます。「変更」サブメニューや「+」アイコンをクリックすると、登録されているサービステンプレートの一覧がメニューとして表示されます：



サービステンプレートは、サービス登録時の重複設定項目を大幅に削減し、登録を効率良くするために使用します。サービステンプレートとして登録される内容はサービス設定のための各種パラメータで、サービス設定内で共通となる項目です。

設定項目の詳細については、GWM のオンラインマニュアル：Bookshelf に詳しく説明されていますので、そちらを参照してください。

#### 1) 新規追加

サービステンプレートの「新規追加」サブメニューをクリックすると、右フレームに「新規サービステンプレート」画面が表示されます。



サービステンプレート名を入力し「追加」ボタンをクリックします。

下図の「サービス管理テンプレート」画面が表示されます。

この画面の操作は、2)の「変更」機能メニューと同様ですので、そちらを参照してください。

#### 2) 変更

「変更」をクリックすると登録済サービステンプレートが一覧表示され、そのサービステンプレート名をクリックすると、下図の「サービス管理テンプレート」画面が表示されます。

この画面には「サービス詳細」タブ（上記）と「サービスチェック」タブがあり、サービス詳細の画面では、監視実施時の動作パラメータ、「サービスチェック」の画面では、サービスチェックのコマンド登録を行ないます。



## a) 「サービス詳細」

監視実施のためのパラメータの共通項目を登録するためのサービステンプレート情報を設定したり、変更、削除や名称変更を行ないます。

この画面の入力項目の最上部に「使用」（あるいは「サービステンプレート」）選択ボックスがあります。既存のサービステンプレートの設定を継承して編集したい場合は、この選択ボックスの▼をクリックして、表示されるサービステンプレート名を選んでください。

サービステンプレートが選択されるとテンプレートからの継承欄が追加され、各設定項目に指定したテンプレートの設定情報が入力されます。

既存テンプレートの情報を使用せず、直接個別の情報を入力することもできます。

（その場合、「使用」欄は空白のままにします。）

既存テンプレートをを使用する場合の画面例：

このサービステンプレートで参照する既存テンプレートと設定を変える場合、下図の

① 設定内容の左側のチェックボックスのチェックを外す。

（このチェックボックスは「テンプレート継承」をするかどうかを指定します）

② 設定内容の右側のチェックや入力/選択ボックスに設定したい内容を入力する。

と、操作してください。（①のチェック外しを忘れると設定は変わりません）

「継承を設定」ボタン（上図の③）を押しますと、すべての設定が指定されたテンプレートの設定および値に合わされます。

既存サービスを使用する場合も使用しない場合も、設定したデータの保存や名称変更、削除などのために、下部のボタンをクリックする必要があります。

以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

## 「保存」



上述の手順で編集を終え保存するには「保存」ボタンをクリックします。  
下図のようなメッセージが表示されます。

「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 「削除」

「削除」ボタンをクリックすると、下記の削除の確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 「名前を変更」

「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービス名変更画面になります。

「変更する名前」入力ボックスに新しい名前を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービステンプレート名が変わった「サービス管理テンプレート」画面が表示されます。

## b) 「サービスチェック」

サービス管理テンプレート画面で「サービスチェック」タブをクリックすると、サービステンプレートにチェックコマンドを追加するための画面が表示されます。

（使用テンプレートでチェックコマンド定義していない場合の画面）

「サービス詳細」画面で使用（継承）指定した登録みのサービステンプレートにサービスチェックが登録されている場合、「テンプレートからのチェックを継承」チェックボックス欄が表示され、親テンプレートのサービスチェック情報が表示されます（下図）。

「テンプレートからのチェックを継承」チェックボックスにチェックを入れると親(使用)テンプレートのチェックコマンド宣言がそのまま設定され変更することができません。チェックを外せばチェックコマンドやコマンドラインを変更することができます。

チェックコマンドとコマンドライン指定方法およびテストの実施については、3.2.5.の2) サービスチェックの項を参照してください。

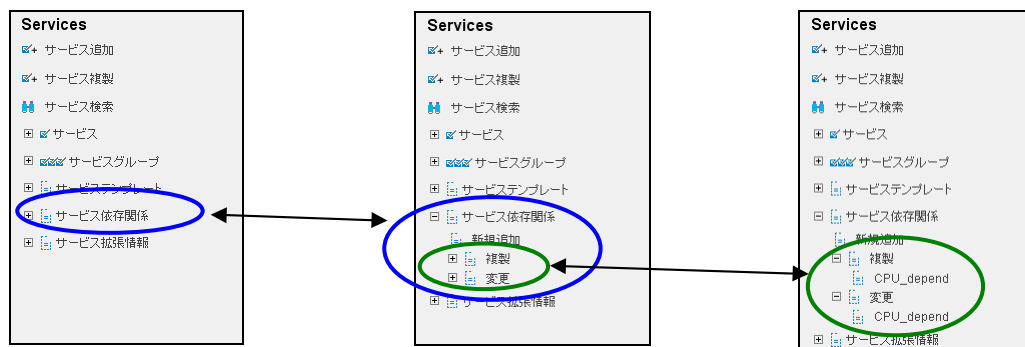
サービスチェック設定が終了し「保存」ボタンをクリックすると下記の保存メッセージが表示されます。

「続ける」ボタンをクリックし、処理を続けます。

### 3.2.8. サービス依存関係

サービス依存関係の新規追加、複製、設定変更を行なう機能メニューは下図のような階層構造になっています。

「サービス依存関係」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」、「複製」と「変更」のサブメニューが展開されます。「変更」サブメニューや「+」アイコンをクリックすると、登録されているサービス依存関係の名称一覧がメニューとして表示されます：



サービス依存関係（依存性）とは、他のサービス状態に基づいてサービスの通知とアクティブチェックを抑制するための依存関係のことで、定義依存関係にテンプレート名を付与して使用します。（使い方については、3.2.5.サービス の3）サービス依存関係を参照してください。）

#### 1) 新規追加

サービス依存関係の「新規追加」をクリックすると、下図の「サービス依存関係テンプレート」画面が表示されます：

ここで、「サービス依存関係テンプレート名」を入力し、「サービス名」選択ボックスの▼をクリックして表示されるサービス一覧から目的のサービスを選択します。

この依存関係でサービスチェックの「実行」や監視状態変化の「通知」を行なわなくするためのサービス状態をチェックボックスでチェックします。

設定が終了し、「追加」ボタンをクリックしたら、下記の保存メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、処理を続けます。

## 2) 複製

「複製」をクリックして展開表示されたテンプレート名をクリックすると、下図のような画面が表示され、選択したテンプレートの内容が表示されます。

空欄になっている「サービス依存関係テンプレート名」にテンプレート名を入力し、必要な設定の変更を行なって、「追加」ボタンをクリックします。1)の新規追加と同様な保存メッセージが表示されますので、「続ける」をクリックして処理を続けます。

## 3) 変更

「変更」をクリックして展開表示されたテンプレート名をクリックすると、下図のような画面が表示され、選択したテンプレートの内容が表示されます。

設定したデータの保存や名称変更、削除などのために、下部のボタンをクリックする必要があります。以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### 「保存」

上述の手順で編集を終え保存するには「保存」ボタンをクリックします。

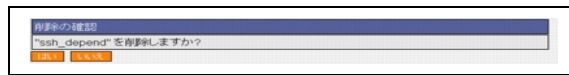
下図のようなメッセージが表示されます。



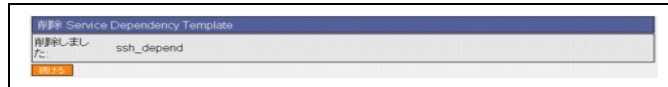
「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

## 「削除」

「削除」ボタンをクリックすると、下記の削除の確認画面が表示されます。



「はい」をクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



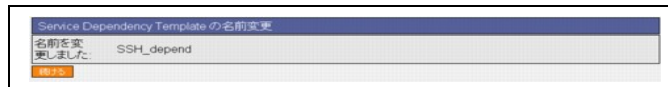
「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

## 「名前を変更」

「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービス依存関係テンプレート名変更画面になります。



「名前の変更」入力ボックスに新しい名前を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施のメッセージが表示されます。

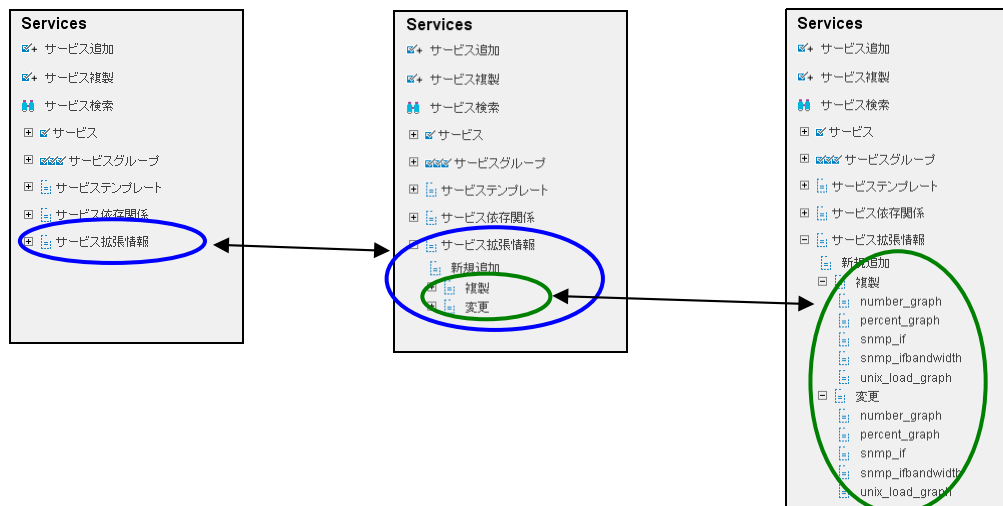


「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 3.2.9. サービス拡張情報

サービス拡張情報の新規追加、複製、設定変更を行なう機能メニューは下図のような階層構造になっています。

「サービス拡張情報」やその左側の「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、その下部構造として「新規追加」、「複製」と「変更」のサブメニューが展開されます。「複製」と「変更」サブメニューや「+」アイコンをクリックすると、登録されているサービス拡張情報の名称一覧がメニューとして表示されます：



サービス拡張情報とは Nagios 画面で表示するグラフィックアイコンや、サービスの追加情報を表示する URL やなどを指定する設定です。

#### 1) 新規追加

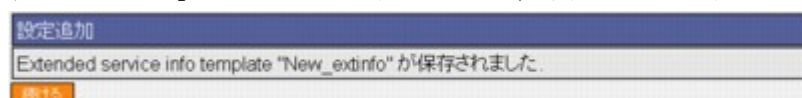
「新規追加」をクリックすると「サービス拡張情報テンプレート設定」画面が表示されます：

The screenshot shows the 'サービス拡張情報テンプレート設定' (Service Extension Information Template Setting) form. It includes fields for 'サービス拡張情報テンプレート名' (Service Extension Information Template Name), '注記' (Note), '注記URL' (Note URL), '処置URL' (Action URL), 'アイコン画像' (Icon Image), and 'アイコン画像代替文字列' (Icon Image Replacement String). There are '追加' (Add) and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom.

ここで、「サービス拡張情報テンプレート設定名」を入力し、サービスのための補足情報 URL やアイコン画像ファイルを指定します。

（アイコン画像は、/usr/local/groundwork/nagios/share/images/logos ディレクトリの中にある画像ファイル（gif、png、jpg 等）を参照します。）

入力を終了し「追加」ボタンをクリックしたら、下図の追加メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックして、次の操作を続けます。

## 2) 複製

「複製」をクリックして展開表示された拡張情報テンプレート名をクリックすると、下図のような画面が表示され、選択した拡張情報テンプレートの内容が表示されます。

空欄になっている「サービス拡張情報テンプレート」にテンプレート名を入力し、必要な設定の変更を行なって「追加」ボタンをクリックします。下図のような保存メッセージが表示されますので、「続ける」をクリックして処理を続けます

## 3) 変更

「変更」をクリックして展開表示された拡張情報テンプレート名をクリックすると、下図のような画面が表示され、選択した拡張情報テンプレートの内容が表示されます。

設定したデータの保存や名称変更、削除などのために、下部のボタンをクリックする必要があります。以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### 「保存」

上述の手順で編集を終え保存するには「保存」ボタンをクリックします。

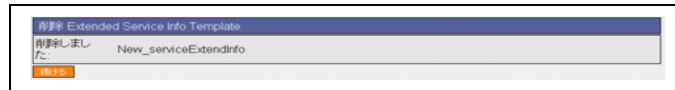
下図のようなメッセージが表示されます。

「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 「削除」

「削除」ボタンをクリックすると、下記の削除の確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



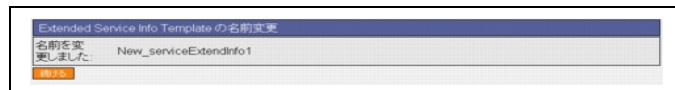
「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

### 「名前を変更」

「名前を変更」ボタンをクリックすると、サービス拡張情報テンプレート名の変更画面になります。



「サービス拡張情報テンプレート名」入力ボックスに新しい名前を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施のメッセージが表示されます。



「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。



### 3.3. プロファイル

コンフィグレーションの「プロファイル」サブメニューをクリックすると、プロファイル（Profiles）設定画面が開きます(下図)：



プロファイルとはホストやサービス登録を容易にするために使用するもので、サービスプロファイルとホストプロファイルの二つがあります。

サービスプロファイルは、特定の対象を監視するための設定したサービスをグルーピングし名前をつけたもの（例：LinuxOS の監視、MySQL-DB の監視など）。ホストプロファイルは、サービスプロファイルにホストテンプレート付け加えたもので、ホスト登録時に指定するだけで必要な構成設定のほとんどを実施できるようにしたものです。

GroundWork Monitor Community Edition にはいくつかの基本的なプロファイルが準備され GroundWork Monitor Enterprise (GWME) では多くの有用なプロファイルが提供されます。

（例：Windows サーバ監視用プロファイル、OracleDBMS 監視用プロファイルなど。）

また、GWME のサポートサービスサイトから新規開発のプロファイルがダウンロードできます。

#### 3.3.1. プロファイル設定画面の機能メニュー

プロファイル設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 1) ホストプロファイル：ホストプロファイルを登録管理する
- 2) サービスプロファイル：サービスプロファイルを登録管理する
- 3) プロファイル・インポート：事前登録されている XML からプロファイル定義を読み込む

#### 3.3.2. ホストプロファイル

ホストプロファイルを管理する機能メニューです。「ホストプロファイル」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「新規追加」と「変更」メニューが展開表示されます。ここで「変更」や「+」アイコンをクリックすると、登録されているホストプロファイルの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いたメニューが閉じます。



## 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「新規ホストプロファイル」画面が表示されます：

ここでホストプロファイル名、説明を入力し、ホストテンプレートを選択します。

（ホストプロファイル名とホストテンプレート指定は必須です。）

「追加」ボタンをクリックすると、下図のホストプロファイル設定画面が開きます：

この画面で必要な設定を行ないます。この画面には下記 8 つのタブがあり、それぞれで設定を行ないます。

- ・ ホスト詳細
- ・ 親子関係
- ・ ホストグループ

- ・エスカレーションツリー
- ・サービスプロファイル
- ・ホストの割り当て
- ・ホストグループの割り当て
- ・適用

#### a) ホスト詳細

ホストプロファイル・新規追加のトップ画面である「ホスト詳細」では、ホストプロファイル追加で設定した内容の変更やホストテンプレート継承内容の修正が行なえます。「ホストプロファイル名」は後述の「名前を変更」ボタンで実施します。「説明」と「ホストテンプレート」欄は入力ボックスを編集します。「テンプレートから継承」欄以下の設定の変更については、3.1.5. ホスト章の 2)ホスト管理画面の操作項の a)ホスト詳細の説明を参照してください。

「ホスト詳細」画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」、「エクスポート」と、「閉じる」ボタンがあります。

以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

#### [保存]

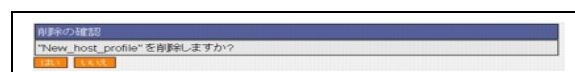
変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。（保存しないで別画面に移ると行なった変更が無効になります。）

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：



#### [削除]

ホストプロファイルを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：



「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前の変更画面が表示されます：

Host profile name change dialog. The title is 'ホストプロファイル名の変更'. It contains a text input field labeled 'ホストプロファイル名' with the value 'New\_host\_profile'. Below the input field is a button labeled '変更名'.

「変更名」入力ボックスに新しい名前を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、ホストプロファイルーホスト詳細画面（名前が変更されています）に戻ります。

### [エクスポート]

エクスポートとは、他の場所で使用するために GWM のデータベースに登録されているホストプロファイルを XML 形式ファイルに出力する機能です。

「エクスポート」ボタンをクリックすると、下図のメッセージが表示されます：

Host profile management interface. The 'Export' button is highlighted. Below it, a message box shows: 'Host profile "New\_host\_profile" saved to /tmp/New\_host\_profile.xml'.

「エクスポート」欄に表示されたファイルが作成されています。

（必要に応じて、コピーなどを実施してください）

### b) 親子関係

「親子関係」タブをクリックすると、ホストプロファイルへの親子関係設定画面が開きます。

Parent-Child Relationship setting screen. It shows a list of parent hosts on the left and a list of child hosts on the right. The parent host list includes 'abc' and 'localhost'. The child host list includes 'target2', 'target1', 'temp', and 'tes'. Buttons for '追加>>' (Add) and '<<削除' (Remove) are visible.

ここで設定した親子関係はこのプロファイルを適用したホストに設定されます。

親ホストを追加するには、「親ホスト」欄の右側選択ボックスにホスト一覧が表示されていますので、適切なホストをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。親ホストを削除するには、左側選択ボックスに表示されている親ホストをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名		New_host_profile					
保存しました		Changes to profile accepted.					

c) ホストグループ

「ホストグループ」タブをクリックすると、ホストプロファイルへのホストグループ設定画面が開きます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名		New_host_profile					
<b>ホストグループ</b> このプロファイルを使用するホストに対するホストグループを追加または削除できます。保存後、ホストへ変更を強いるために適用タブを使用してください。このオプションは、新規ホストウィザードのデフォルトホストグループもしくはホストグループでも設定できます。							
ホストグループ:		<div>Linux Servers</div> <div>           HostGroup1            HostGroup2            HostGroup3         </div> <div>           削除 &gt;&gt;            &lt;&lt; 追加         </div>					
保存							

ここで設定したホストグループはこのプロファイルを適用したホストの所属するホストグループになります。

ホストグループを追加するには、「ホストグループ」欄の右側選択ボックスにホストグループ一覧が表示されていますので、適切なホストグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストグループを削除するには、左側選択ボックスに表示されているホストグループをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名		New_host_profile					
保存しました		Changes to profile accepted.					

d) エスカレーションツリー

「エスカレーションツリー」タブをクリックすると、ホストプロファイルへのエスカレーションツリー設定画面が開きます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名: New_host_profile							
<b>エスカレーションツリー</b> このプロファイルを使用するホストに対するエスカレーションを追加または削除できます。サービスエスカレーションの割り当ては、このプロファイルを使用するホストの全サービスのためのエスカレーションを設定します。保存後、ホストへ変更を強いるために適用タブを使用してください。							
ホストエスカレーションツリー: <input type="text"/>							
サービスエスカレーションツリー: <input type="text"/>							
<input type="button" value="保存"/>							

ここで設定したエスカレーションツリーはこのプロファイルを適用したホストのエスカレーションツリーとして登録されます。

「ホストエスカレーションツリー」と「サービスエスカレーションツリー」欄の選択ボックスの▼をクリックすると登録可能なエスカレーションツリー名が表示されますので、それぞれ適切なエスカレーションツリー選択します。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名: New_host_profile							
保存しました: Changes to profile accepted.							

#### e) サービスプロファイル

「サービスプロファイル」タブをクリックすると、ホストプロファイルへのサービスプロファイル設定画面が開きます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスカレーションツリー	サービスプロファイル	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	適用
ホストプロファイル名: New_host_profile							
<b>サービスプロファイル</b> このプロファイルを使用するホストに対するサービスプロファイルを追加または削除できます。保存後、ホストへ変更を強いるために適用タブを使用してください。このオプションは、新規ホストウィザードのデフォルトサービスプロファイルでも設定できます。							
サービスプロファイル: <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;">             service-ping           </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;">             snmp-network ssh-unix           </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <input type="button" value="追加&lt;&lt;"/> <input type="button" value="削除&gt;&gt;"/> </div>							
<input type="button" value="保存"/>							

サービスプロファイルを追加するには、「サービスプロファイル」欄の右側選択ボックスにサービスプロファイル一覧が表示されていますので、適切なサービスプロファイルをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。サービスプロファイルを削除するには、左側選択ボックスに表示されているサービスプロファイルをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。



「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスケーション プリー	サービスプロ ファイル	ホストの割り当て	ホストグループの 割り当て	適用
ホストプロファイル名 New_host_profile							
保存しました Changes to profile accepted.							

f) ホストの割り当て

「ホストの割り当て」タブをクリックすると、ホストプロファイルのホストの割り当て設定画面が開きます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスケーション プリー	サービスプロ ファイル	ホストの割り当て	ホストグループの 割り当て	適用
ホストプロファイル名 New_host_profile							
<b>ホストの割り当て</b> このプロファイルにより管理されるホストを追加または削除できます。保存後、ホストへの変更をインスタンス化するために適用タブを使用してください。ホストを削除すると、このプロファイルで二度と管理できなくなります。ホストは、別のプロファイルへ割り当てられるか適用されるか、もしくは個別に修正されるまで、そのプロパティを保持します。							
<div> <div>ホスト:</div> <div> <div>target1</div> <div>削除 &gt;&gt;</div> <div>&lt;&lt; 追加</div> </div> <div> <div>abc</div> <div>localhost</div> <div>target2</div> <div>temp</div> <div>tes</div> </div> </div>							
保存							

このホストプロファイルをホストに割り当てるには、「ホスト」欄の右側選択ボックスに表示されたホスト一覧の中から割り当てたいホストをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホスト割当を解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスケーション プリー	サービスプロ ファイル	ホストの割り当て	ホストグループの 割り当て	適用
ホストプロファイル名 New_host_profile							
保存しました Changes to profile accepted.							

g) ホストグループの割り当て

「ホストグループの割り当て」タブをクリックすると、ホストプロファイルのホストグループ割り当て設定画面が開きます。



このホストプロファイルをホストグループに割り当てるには、「ホストグループ」欄の右側選択ボックスに表示されたホストグループ一覧の中から割り当てたいホストグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストグループ割当を解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストグループをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

#### h) 適用

「適用」とは、現時点でこのホストプロファイルを使用しているホストに今回設定、保存した変更を反映させる、あるいは新たに「ホスト割り当て」や「ホストグループ割り当て」を行なったホストやホストグループのメンバーにホストテンプレートを適用するための機能で、変更の反映方法や範囲を指定します。

すでにこのホストプロファイルを使用して登録されたホストがあって、他の機能メニューで設定の変更と保存をしたのに「適用」を実施しない場合、既存ホストの監視設定は編集する前の設定のままとなり、これ以降のホスト設定登録でこのホストプロファイルを使用したものだけが新しい設定となります。

「適用」タブをクリックすると、ホストプロファイル設定の適用画面が開きます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスケーション ツリー	サービスプロフ イル	ホストの割り当て	ホストグループの 割り当て	適用
ホストプロファイル名: New_host_profile							
<b>適用</b> [ホストグループへ適用] または [ホストへ適用] (あるいは両方) と、適用方法のオプションを選択して、設定の変更をホストに配信できます。[既存のサービスの置換] を選択すると、ホストからすべてのサービスが削除され、このプロファイルに含まれるサービスが新たに適用されます。[既存のサービスと合併] は、ホスト上のすべての既存サービスが変更されずに残ることを意味します。							
ホストグループアクション: <input type="checkbox"/> ホストグループへ適用 ホストアクション: <input type="checkbox"/> ホストへ適用							
ホストプロパティ: <input type="checkbox"/> 親ホストをホストへ適用 <input type="checkbox"/> ホストグループをホストへ適用 <input type="checkbox"/> エスケーションをホストへ適用 <input type="checkbox"/> コンタクトグループをホストへ適用 <input type="checkbox"/> 詳細をホストへ適用							
サービスアクション: <input type="radio"/> 既存のサービスと置き換える <input checked="" type="radio"/> 既存のサービスとマージする							
<b>注意</b> この時点でサービスプロファイルを適用させることはおそらく複数のホストにまたがって現在のサービス設定を編集することになります。これを実行する前に次の点をダブルチェックしてください: ・ サービスプロファイル変更 ・ このサービスプロファイルを参照する選択された対象ホストのセット ・ どのように既存サービスを変更したいか							
適用							

この画面で

- ・新たに割り当てたホストグループやホストに適用するかどうか
- ・設定したどのプロパティを適用するか
- ・既存の登録でホストに割り当てられているサービスを使用するかどうか

を選択し、「適用」ボタンをクリックします。

下記の実施メッセージが表示されます。

ホストプロファイル							
ホスト詳細	親子関係	ホストグループ	エスケーション ツリー	サービスプロフ イル	ホストの割り当て	ホストグループの 割り当て	適用
ホストプロファイル名: New_host_profile							
保存しました: Changes to profile accepted.							

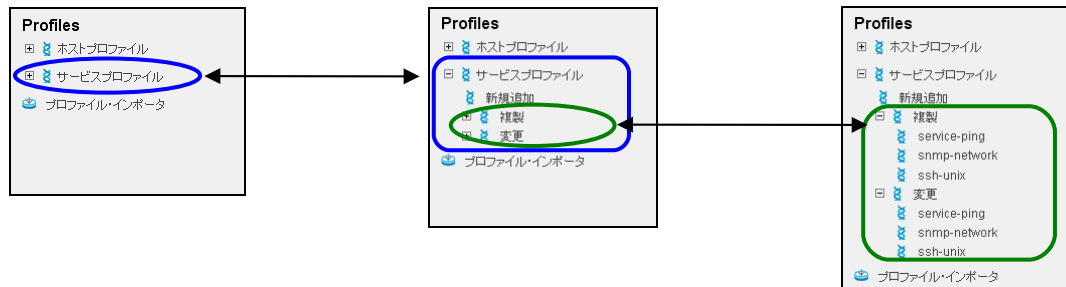
## 2) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたホストプロファイル名をクリックすると、右フレームにそのホストプロファイルについての「ホストプロファイル設定」画面が表示されます。

この画面は、「新規追加」機能でホストプロファイル名を入力して追加した後の画面と同様な画面で、操作は同じです。各タブやボタンの操作については、1) 新規追加の説明を参照してください。

### 3.3.3. サービスプロファイル

サービスプロファイルを管理する機能メニューです。「サービスプロファイル」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「新規追加」「複製」と「変更」メニューが展開表示されます。その「複製」「変更」や「+」アイコンをクリックすると、登録済サービスプロファイルの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いたメニューが閉じます。



#### 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「新規サービスプロファイル」画面が表示されます：

サービスプロファイル名、説明を入力し「追加」ボタンをクリックすると、下図の「サービスプロファイル」設定画面（「サービス」タブ画面）が開きます：

この画面で必要な設定を行ないます。この画面には「サービス」、「ホストの割り当て」、「ホストグループの割り当て」、「ホストプロファイル」と「適用」の5つのタブがあり、それぞれで設定を行ないます。

#### a) サービス

サービスプロファイル・新規追加のトップ画面である「サービス」タブの画面では、サービスプロファイル内容の変更やサービスの追加処理を行ないます。

「サービスプロファイル名」は後述の「名前を変更」ボタンで実施します。

「説明」欄は入力ボックス内で直接編集します。

「サービス」欄では、このプロファイルに包含するサービスを選択します。

サービスを追加するには、「サービス」欄の右側選択ボックスにサービス一覧が表示されていますので、適切なサービスをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。サービスを削除するには、左側選択ボックスに表示されているサービスをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「サービス」画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」、「エクスポート」と、「閉じる」ボタンがあります。

以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### [保存]

変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：



### [削除]

サービスプロファイルを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

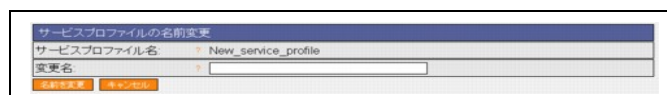


「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：



変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前が変更されたサービスプロファイルーサービス画面に戻ります。

## [エクスポート]

エクスポートとは、他の場所で使用するために GWM のデータベースに登録されているサービスプロファイルを XML 形式ファイルに出力する機能です。

「エクスポート」ボタンをクリックすると、下図のメッセージが表示されます：

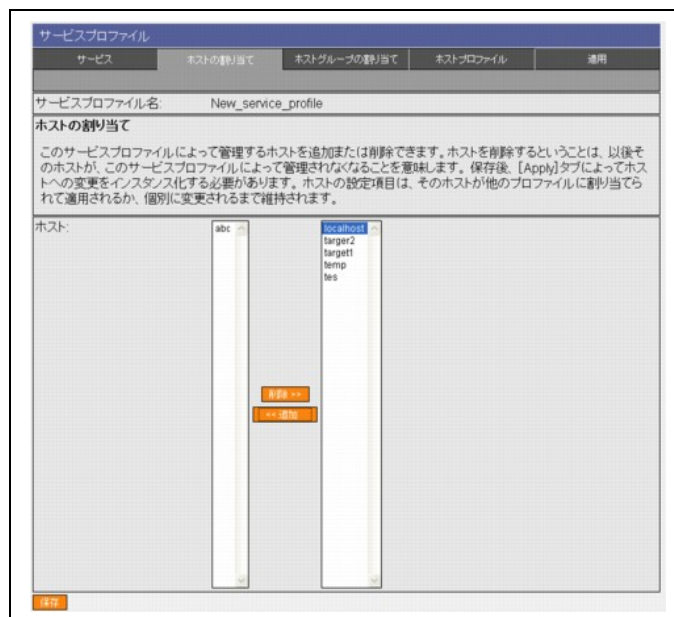


「エクスポート」欄に表示されたファイルが作成されています。

（必要に応じて、コピーなどを実施してください）

## b) ホストの割り当て

「ホストの割り当て」タブをクリックすると、サービスプロファイルのホストの割り当て設定画面が開きます。



このサービスプロファイルをホストに割り当てるには、「ホスト」欄の右側選択ボックスに表示されたホスト一覧の中から割り当てたいホストをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホスト割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

サービス	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	ホストプロファイル	適用
サービスプロファイル名 New_service_profile				
更新: "New_service_profile" に 1 ホスト を割り当てました。				
<input type="button" value="保存"/>				

c) ホストグループの割り当て

「ホストグループの割り当て」タブをクリックすると、サービスプロファイルのホストグループ割り当て設定画面が開きます。

サービス	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	ホストプロファイル	適用
サービスプロファイル名 New_service_profile				
ホストグループの割り当て				
このサービスプロファイルによって管理するホストグループを追加または削除できます。ホスト・グループを削除するということは、以後そのホスト・グループが、このサービスプロファイルによって管理されなくなることを意味します。保存後、「Apply」タブによってメンバーであるホストの変更をインスタンス化する必要があります。メンバーであるホストの設定項目は、そのホスト・グループが他のサービスプロファイルに割り当てられて適用されるか、メンバーであるホストが個別に変更されるまで維持されます。				
ホストグループ				
Linux Servers				
HostGroup1 HostGroup2 HostGroup3				
<input type="button" value="追加 &gt;&gt;"/> <input type="button" value="削除 &lt;&lt;"/>				
<input type="button" value="保存"/>				

このサービスプロファイルをホストグループに割り当てるには、「ホストグループ」欄の右側選択ボックスに表示されたホストグループ一覧の中から割り当てたいホストグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストグループ割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストグループをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

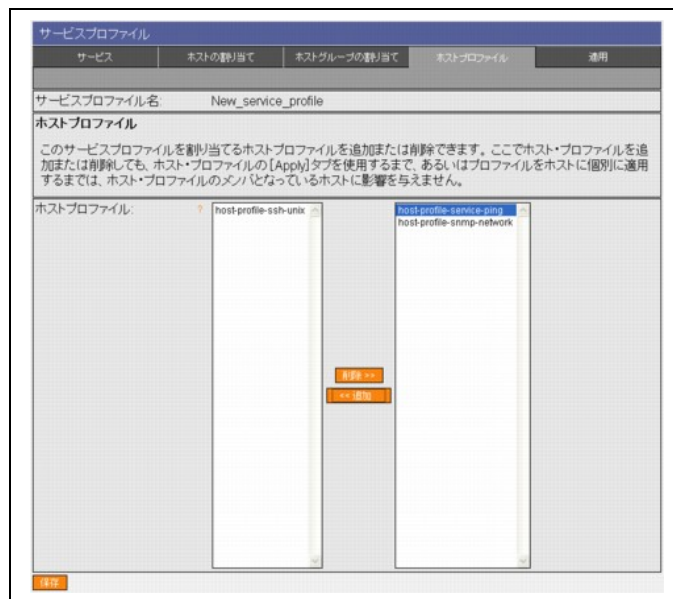
「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。

サービス	ホストの割り当て	ホストグループの割り当て	ホストプロファイル	適用
サービスプロファイル名 New_service_profile				
更新: "New_service_profile" に 1 ホストグループ を割り当てました。				
<input type="button" value="保存"/>				

d) ホストプロファイル

「ホストプロファイル」タブをクリックすると、サービスプロファイルのホストプロファイル設定画面が開きます。





サービスプロファイルをホストプロファイルに割り当てるには、「ホストプロファイル」欄の右側選択ボックスに表示されたホストプロファイル一覧の中から割り当てたいホストプロファイルをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストプロファイル割当を解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストプロファイルをクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。



#### e) 適用

「適用」とは、現時点でこのサービスプロファイルを使用しているホストやホストプロファイルに今回設定、保存した変更を反映させることで、新たに加えられたホストやホストプロファイルへのサービスプロファイル割り当ても行います。

すでにこのプロファイルを使用して登録されたホストやホストプロファイルがあって、他の機能メニューで変更と保存を実施したのに「適用」を実施しない場合、既存のホストやホストプロファイル設定は編集する前の設定のままとなり、これ以降のホスト設定登録でこのホストプロファイルを使用したものだけが新しい設定となります。

「適用」タブをクリックすると、サービスプロファイルの適用画面が開きます。



**サービスプロファイル**

サービス    ホストの選択    ホストグループの選択    ホストプロファイル    適用

サービスプロファイル名: New\_service\_profile

**適用**

[ホストグループへ適用]または[ホストへ適用](あるいは両方と、適用方法のオプションを選択して、設定の変更をホストに配信できます。[既存のサービスと置き換える]を選択すると、ホストからすべてのサービスが削除され、このプロファイルに含まれるサービスが新たに適用されます。[既存のサービスとマージする]は、ホスト上のすべての既存サービスが変更されずに残ることを意味します。

ホストグループアクション: ☐ ホストグループへ適用  
 ホストアクション: ☐ ホストへ適用

サービスアクション: ☐ 既存のサービスと置き換える  
☒ 既存のサービスとマージする

**Caution**

この時点でサービスプロファイルを適用させることはおそらく複数のホストにまたがって現在のサービス設定を編集することになります。これを実行する前に次の点をダブルチェックしてください:

- サービスプロファイル変更
- このサービスプロファイルを参照する選択された対象ホストのセット
- どのように既存サービスを変更したいか

適用

この画面で

- ・割り当てたホストグループやホストに適用するかどうか
- ・既存の登録のサービスを使用するか、あるいは完全に置き換えるか

を選択し、「適用」ボタンをクリックします。

下記の実施メッセージが表示されます。

**サービスプロファイル**

サービス    ホストの選択    ホストグループの選択    ホストプロファイル    適用

サービスプロファイル名: New\_service\_profile

更新: Changes to "New\_service\_profile" applied to hosts.

終了

## 2) 複製

「複製」機能メニューをクリックして一覧表示されたサービスプロファイル名をクリックすると、右フレームに下図の「サービスプロファイル複製」画面が表示されます。

**Copy Service Profile**

Copy: New\_service\_profile

Service profile name: Copy-of-New\_service\_profile

Description: Edited copy New Service Profile Example

適用    キャンセル

この画面で「サービスプロファイル名」と「説明」を入力します。（それぞれには、元の名前と説明の先頭に **Copy-of...** と **Edited copy...**と付いています。）

「追加」ボタンをクリックすると、プロファイルを新規追加した後と同様なサービスプロファイルの設定画面が表示されます。各タブやボタンの操作は同様です。操作について詳しくは、

1) 新規追加の説明を参照してください。

## 3) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたサービスプロファイル名をクリックすると、右フレームに下図のサービスプロファイルの設定画面が表示されます。この画面の各タブやボタンの操作はプロファイルを新規追加した後の同名の画面と同様です。操作について詳しくは、1) 新規追加の説明を参照してください。

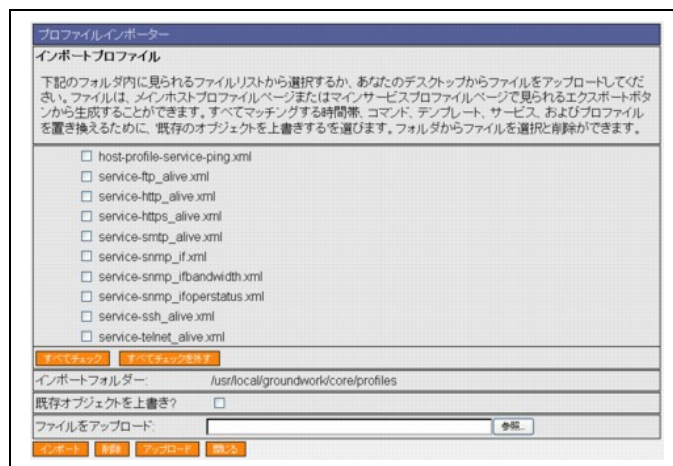
### 3.3.4. プロファイル・インポータ

あらかじめ XML 形式ファイルで登録されたプロファイルを取り込む機能メニューです。

GWM には、あらかじめいくつかのプロファイル定義が XML 形式で保存されています。

（保存場所は `/usr/local/groundwork/core/profiles` です。Community Edition では基本的なもの。Enterprise では多くの有用なプロファイルが包含されており、サポートサイトからも入手できます。）

「プロファイル・インポータ」機能メニューをクリックすると、右フレームに「プロファイルインポータ」画面が表示されます：



この画面で XML 形式ファイルのインポート関連の処理を実施します。

以下に下部にある「インポート」、「削除」および「アップロード」ボタンを使用した処理について説明します。

#### a) インポート

プロファイルインポータ画面の中央部に一覧表示された XML ファイルを（チェックボックスにチェックを入れることで）選択します。（チェックボックスのチェック操作は「すべてチェック」や「すべてチェックを外す」ボタンをクリックすることで多数の操作を楽にできます。）

「インポート」ボタンをクリックすると、XML ファイルからのプロファイルのインポートが実施され、下図のようなインポート実行結果の表示が表示されます。

最下部に「閉じる」ボタンがあり、それをクリックすると画面がクリアされます。

（指定した XML ファイル数が多いとかなり長くなりますので、必ずしも「閉じる」ボタンをクリックしなくてもかまいません）

プロファイルインポーター				
インポートステータス:				
インポート host-profile-service-ping.xml				
Commands:	2	0	0	N
Time periods:	1	0	0	N
Host templates:	1	0	0	N
Extended host info templates:	0	0	0	N
Service templates:	1	0	0	N
Extended service info templates:	1	0	0	N
Service externals:	0	0	0	N
Host externals:	0	0	0	N
Services:	1	0	0	N
Service profile "ping" already exists.				
Service profiles:	1	0	0	N
Host profile:	1	0	0	N
インポート service-ftp_alive.xml				
Commands:	1	0	0	N
Time periods:	1	0	0	N

## b) 削除

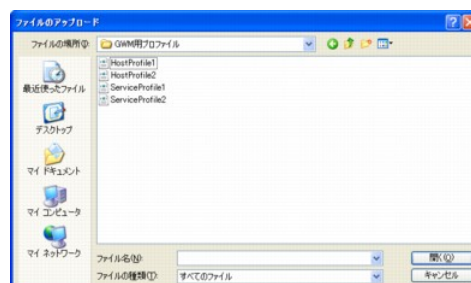
プロファイルインポータ画面の中央部に一覧表示された XML ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、/usr/local/groundwork/core/profiles ディレクトリから選択された XML ファイルが削除され、一覧表示からも削除されます。

（間違えて XML ファイルを削除しないよう気をつけてください。）

## c) アップロード

「ファイルをアップロード」欄の「参照」ボタンをクリックすると、あなたが WEB ブラウザを起動しているマシン上のファイルの選択ウィンドウが表示されます。

（WindowsXP の場合、下図のような画面が開きます）



適切なファイルを選択してください（上図の場合の操作は、ファイルをクリックしてから「開く」ボタンをクリック）。

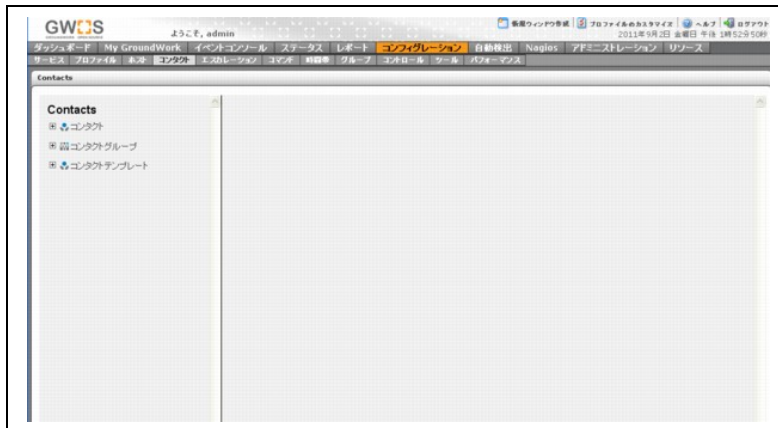
ファイルをアップロード欄に選択したファイルのパスが表示されますので、「アップロード」ボタンをクリックします。

XML ファイルの一覧の中にアップロードしたファイルが追加されますので、確認してください。

アップロードした XML ファイルを使用してプロファイルのインポートによる登録が可能です。

### 3.4. コンタクト

コンフィグレーションの「コンタクト」サブメニューをクリックすると、コンタクト（Contacts）設定画面が開きます(下図)：



コンタクトとはGWM／Nagiosが監視対象で問題を検出した場合にeメールなど送る通知先設定のことです。このメニューでは、コンタクト登録設定、コンタクトをグループ化したコンタクトグループの登録、およびコンタクト設定の共通項目を登録するテンプレート登録を行ないます。

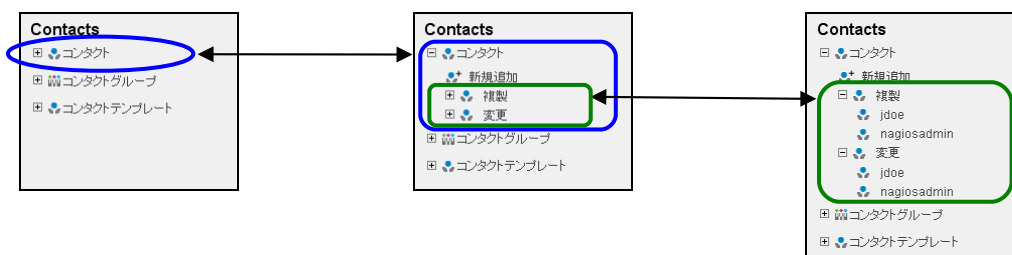
#### 3.4.1. コンタクト設定画面の機能メニュー

コンタクト設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 1) コンタクト：コンタクトを登録する
- 2) コンタクトグループ：コンタクトをグルーピングするコンタクトグループを登録する
- 3) コンタクトテンプレート：コンタクトの共通的な情報を登録する

#### 3.4.2. コンタクト

コンタクトを管理する機能メニューです。「コンタクト」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「新規追加」、「複製」および「変更」メニューが展開表示されます。ここで「複製」や「変更」、それらの「+」アイコンをクリックすると、登録されているコンタクトの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いたメニューが閉じます。



## 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「コンタクト設定」画面が表示されます：

ここで「コンタクト名」、「エイリアス」、「Eメール」説明を入力し、コンタクトテンプレートの▼をクリックしたら表示されるテンプレートから適切なものを選択します。

（ポケベル（英語名：ページャー）は使用することはないと思いますので空欄でよいです。）

コンタクトテンプレートを選択すると「テンプレートからの継承」欄から「サービス通知コマンド」までの部分で選択したテンプレートの設定内容が表示されます。

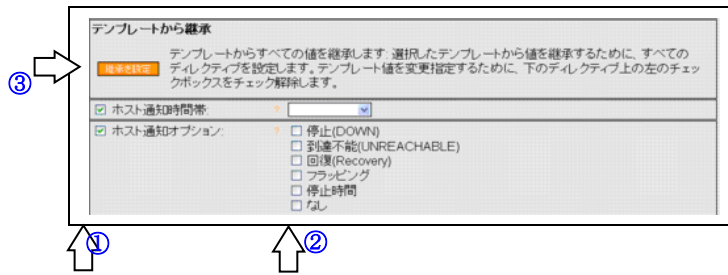
このコンタクトで参照するコンタクトテンプレートと設定を変える場合、下図の

- ① 設定内容の左側のチェックボックスのチェックを外す。

（このチェックボックスは「テンプレート継承」をするかどうかを指定します）

- ② 設定内容の右側のチェックや入力/選択ボックスに設定したい内容を入力する。

と、操作してください。（①のチェック外しを忘れると設定は変わりません）

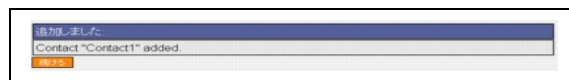


「継承を設定」ボタン（上図の③）を押しますと、すべての設定が指定されたテンプレートの設定および値に合われます。

このコンタクトを既存のコンタクトグループに追加するには、設定欄の最下部の「コンタクトグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名一覧から適切なコンタクトグループ名をクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。コンタクトグループを削除するには、左側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

設定したデータを保存するための「保存」ボタンをクリックしてください。

下図のようなメッセージが表示されます。



「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

## 2) 複製

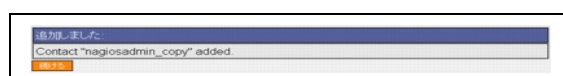
「複製」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクト名をクリックすると、右フレームに「コンタクト設定」画面が表示され、選択したコンタクト情報が表示されます（下図）：



ここで、必要な設定の変更（コンタクト名の変更は必須）を実施します。

設定変更の仕方は、1)の新規追加を参照してください。

登録保存のため「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。



### 3) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクト名をクリックすると、右フレームに「コンタクト設定」画面が表示され、選択したコンタクト情報が表示されます（下図）：

ここで、必要な設定の変更（コンタクト名の変更は必須）を実施します。

設定変更の仕方は、1)の新規追加を参照してください。

画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」と「キャンセル」ボタンがあります。

以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

#### [保存]

変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。

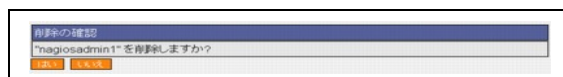
「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：



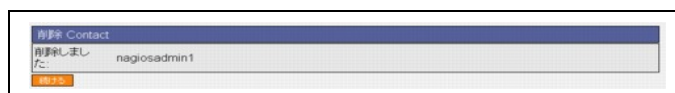
「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

#### [削除]

コンタクトを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：



「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

#### [名前を変更]



「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：

The dialog box titled 'Rename Contact' contains a 'Contact 名' field with the value 'nagiosadmin'. Below it is a '名前の変更' (Rename) field. At the bottom are two buttons: '名前を変更' (Rename) and 'キャンセル' (Cancel).

変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：

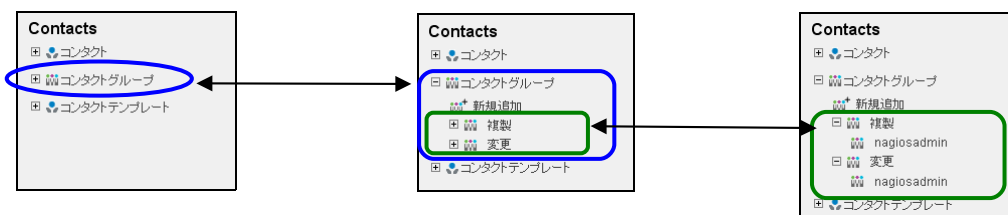
A message box titled 'Contact の名前変更' (Contact Name Change) showing '名前を変更しました。' (Name has been changed.) followed by 'nagiosadmin1'. At the bottom is a '続ける' (Continue) button.

「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

### 3.4.3. コンタクトグループ

コンタクトグループを管理する機能メニューです。「コンタクトグループ」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「新規追加」、「複製」および「変更」メニューが展開表示されます。

ここで「複製」や「変更」、それらの「+」アイコンをクリックすると、登録されているコンタクトグループの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いたメニューが閉じます。



#### 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「コンタクトグループ設定」画面が表示されます：

The 'コンタクトグループ設定' (Contact Group Settings) dialog box has fields for 'コンタクトグループ名' (Contact Group Name), 'エイリアス' (Alias), and 'コンタクト' (Contact). The 'コンタクト' field is a list box showing 'Contact1', 'jdoe', and 'nagiosadmin'. At the bottom are buttons for '追加' (Add), '削除' (Delete), and 'キャンセル' (Cancel).

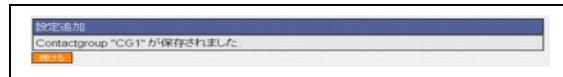
この画面で「コンタクトグループ名」、「エイリアス」を入力し、グループに所属するコンタクトを登録します。

コンタクトをこのコンタクトグループに追加するには、設定欄の最下部の「コンタクト」欄の右側選択ボックスに表示されているコンタクト名一覧から適切なコンタクト名をクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。コンタクトを削除するには、左側選択ボックスに表示されているコンタクト名をクリックで選択（反転表示）して「削除>

>」 ボタンをクリックします。

設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックしてください。

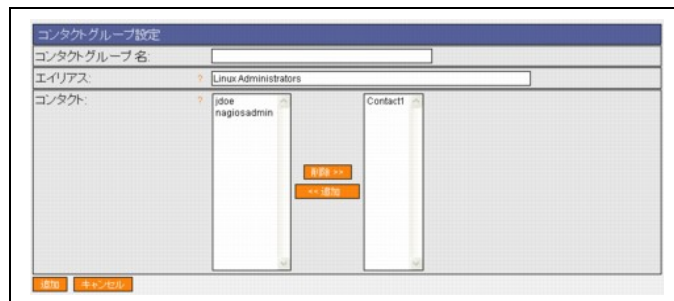
下図のようなメッセージが表示されます。



「続ける」をクリックして、次の操作を続けます。

## 2) 複製

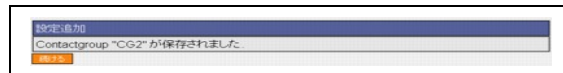
「複製」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクトグループ名をクリックすると、右フレームに「コンタクトグループ設定」画面が表示され、選択したコンタクトグループ情報が表示されます（下図）：



ここで、必要な設定の変更（コンタクトグループ名の入力必須）を実施します。

設定変更の仕方は、1)の新規追加を参照してください。

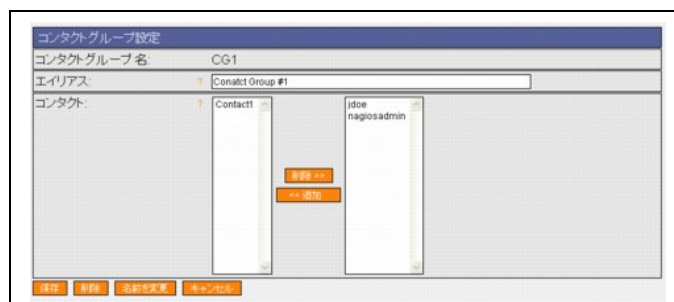
登録保存のため「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

## 3) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクトグループ名をクリックすると、右フレームに「コンタクトグループ設定」画面が表示され、選択したコンタクトグループ情報が表示されます（下図）：



ここで、必要な設定の変更（コンタクトグループ名の入力必須）を実施します。

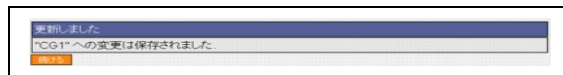
設定変更の仕方は、1)の新規追加を参照してください。

画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」と「キャンセル」ボタンがあります。以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### 【保存】

変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。

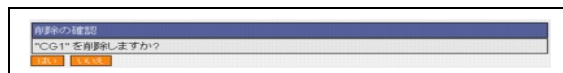
「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：



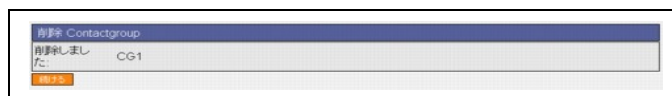
「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

### 【削除】

コンタクトを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：



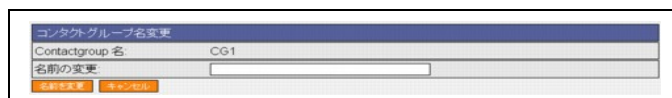
「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



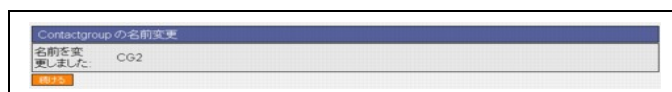
「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

### 【名前を変更】

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：



変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：

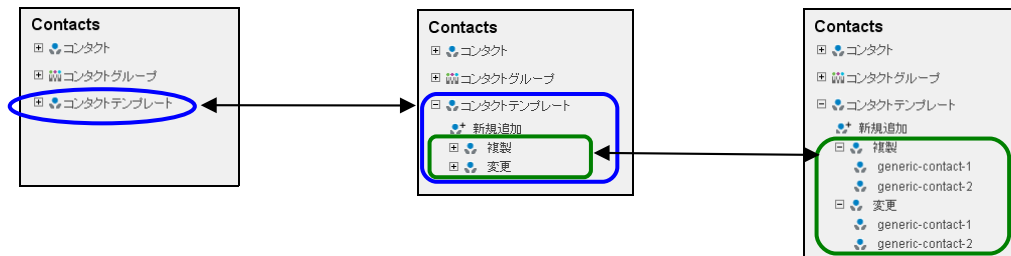


「続ける」ボタンをクリックし、操作を続けます。

#### 3.4.4. コンタクトテンプレート

コンタクトテンプレートを管理する機能メニューです。「コンタクトテンプレート」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「新規追加」、「複製」および「変更」メニューが展開

表示されます。ここで「複製」や「変更」、それらの「+」アイコンをクリックすると、登録されているコンタクトテンプレートの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いたメニューが閉じます。



## 1) 新規追加

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「コンタクトテンプレート設定」画面が表示されます：

The screenshot shows the 'Contact Template Setting' form. It includes fields for 'Contact Template Name' (コンタクトテンプレート名), 'Host Notification Time' (ホスト通知時間帯), 'Service Notification Time' (サービス通知時間帯), and 'Host Notification Options' (ホスト通知オプション). The 'Host Notification Options' section includes checkboxes for 'Stop (DOWN)', 'Unreachable (UNREACHABLE)', 'Recovery', 'Flapping', 'Stop Time', and 'None'. The 'Service Notification Options' section includes checkboxes for 'Unknown (UNKNOWN)', 'Critical', 'Warning', 'Recovery', 'Flapping', 'Stop Time', and 'None'. The 'Host Notification Command' and 'Service Notification Command' sections have dropdown menus for selecting notification methods like 'host-notify-by-email', 'host-notify-by-epager', 'host-notify-by-sendmail', 'service-notify-by-email', 'service-notify-by-epager', and 'service-notify-by-sendmail'. At the bottom, there are '追加' (Add) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

ここでコンタクトテンプレート名を入力し、コンタクトテンプレートの設定登録を行います。コンタクトテンプレート設定項目の詳細については、**Bookshelf**を参照してください。

「追加」ボタンをクリックすると、下図の追加実施メッセージが表示されます。



## 2) 複製

「複製」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクトテンプレート名をクリックすると、右フレームに「コンタクトテンプレート設定」画面が表示され、選択したコンタクトテンプレート情報が表示されます（下図）：

ここでコンタクトテンプレート名を入力し、コンタクトテンプレートの設定登録を行います。  
「追加」ボタンをクリックすると、下図の追加実施メッセージが表示されます。



### 3) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたコンタクトテンプレート名をクリックすると、右フレームに「コンタクトテンプレート設定」画面が表示され、選択したコンタクトテンプレート情報が表示されます（下図）：

ここで、必要な設定の変更を実施します。

画面の下部に「保存」、「削除」、「名前を変更」と「キャンセル」ボタンがあります。  
以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

## [保存]

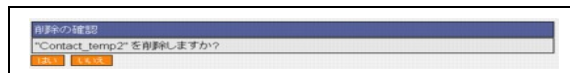
変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：



## [削除]

コンタクトを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

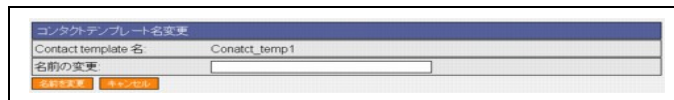


「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

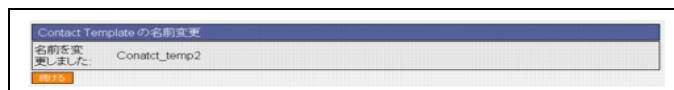


## [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：

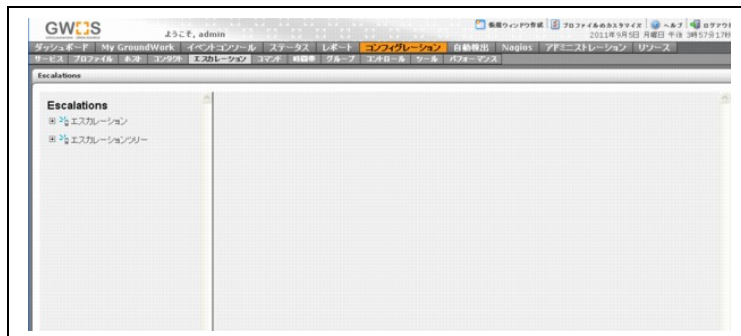


変更名を入力し「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：



### 3.5. エスカレーション

コンフィグレーションの「エスカレーション」サブメニューをクリックすると、エスカレーション（Escalations）設定画面が開きます(下図)：



ここでは、エスカレーションおよびエスカレーションツリー情報を登録管理します。

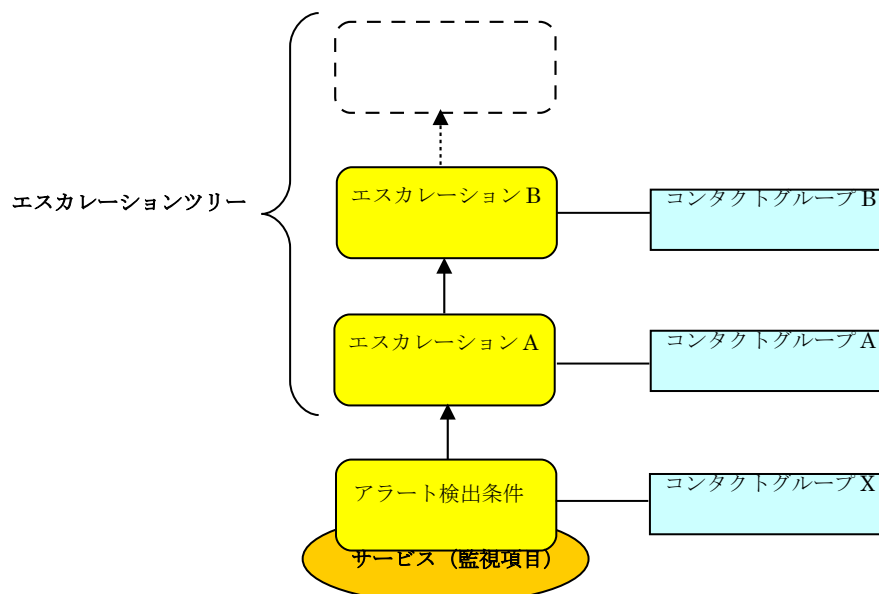
エスカレーションは、問題検出時に行なわれる通知の後、状況によって別の（時としてよりハイレベルの）通知先に通知を行なう仕組みのことです。

#### ・エスカレーション

エスカレーションは通知をエスカレートさせる条件を指定する情報です。 エスカレーションツリー情報の構成要素として、通知先情報であるコンタクトグループと組み合わせて使用されます。（コンタクトとコンタクトグループについては、3.4.のコンタクトを参照下さい。）

#### ・エスカレーションツリー

エスカレーションツリーは、複数のエスカレーション定義とコンタクトグループ定義のペアをグループ化したものです。 ホスト、ホストプロファイル、ホストグループやサービスに割り当ててすることで、通知エスカレーション処理時の条件判断に使用します。



#### 3.5.1. エスカレーション設定画面の機能メニュー



エスカレーション設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 1) エスカレーション： ホストおよびサービスのエスカレーションを登録する
- 2) エスカレーションツリー： ホストおよびサービスのエスカレーションツリーを登録する

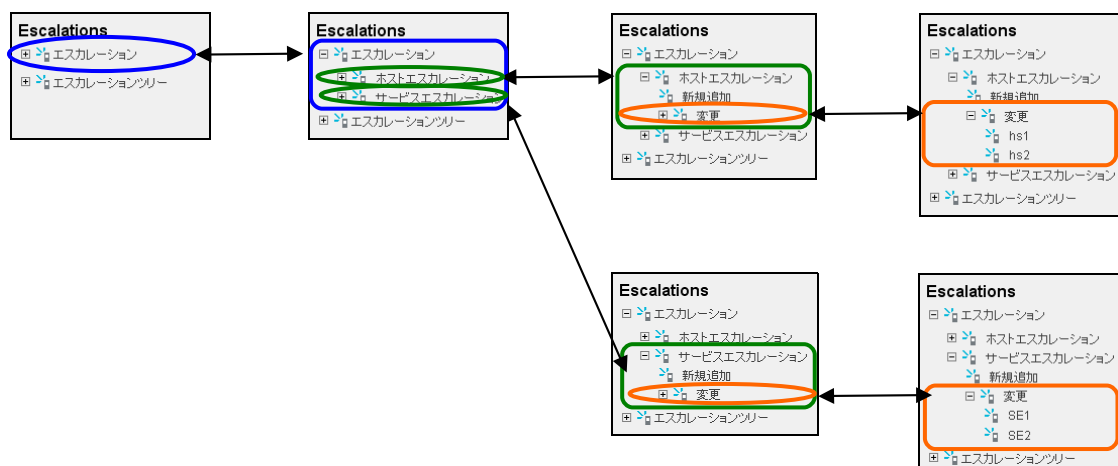
### 3.5.2. エスカレーション

エスカレーションを管理する機能メニューです。「エスカレーション」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「ホストエスカレーション」および「サービスエスカレーション」が展開表示されます。

ここで、「ホストエスカレーション」か「+」アイコンをクリックすると、「新規追加」と「変更」メニューが展開表示され、「変更」（「+」アイコン）をクリックすると登録されているホストエスカレーション名一覧が展開されます。

また、「サービスエスカレーション」か「+」アイコンをクリックすると、「新規追加」と「変更」メニューが展開表示され、「変更」（「+」アイコン）をクリックすると登録されているサービスエスカレーション名一覧が展開されます。

展開表示は、再度同じメニューか、「-」アイコンをクリックすると閉じます。



#### 1) ホストエスカレーション

##### a) 新規追加

「ホストエスカレーション」の「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「ホストエスカレーション設定」画面が表示されます：

ここで「ホストエスカレーション名」と、エスカレーション情報（エスカレーション条件）

を設定し、「追加」ボタンをクリックすると下図の保存実施メッセージが表示されます。



「続ける」ボタンをクリックして、処理を続けます。

## b) 変更

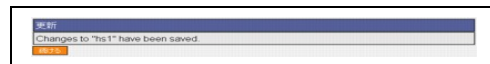
「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたホストエスカレーション名をクリックすると、右フレームに「ホストエスカレーション設定」画面が表示され、選択したホストエスカレーション登録情報が表示されます（下図）：

ここで、必要な設定の変更を実施します。（変更を有効にするには、「保存」が必要です）画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」と「キャンセル」ボタンがあります。以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### 【保存】

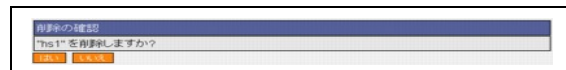
変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：

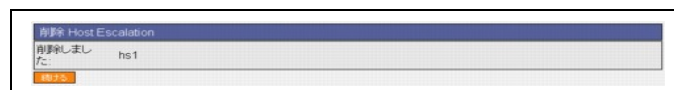


### 【削除】

ホストエスカレーション情報を削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：



「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。



### 【名前を変更】

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：

The dialog box titled "Rename Host Escalation" contains a text input field with "hs1" entered. Below the input field is a label "名前の変更" (Rename Name). At the bottom, there are two buttons: "名前を変更" (Rename Name) and "キャンセル" (Cancel).

変更名を入力し「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：

A message box titled "Host Escalation の名前変更" (Host Escalation Name Change) displays the text "名前を変更しました。 HostEscalation1" (Name has been changed. HostEscalation1). At the bottom is a button labeled "続行" (Continue).

## 2) サービスエスカレーション

### a) 新規追加

「サービスエスカレーション」の「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「サービスエスカレーション設定」画面が表示されます：

The "サービスエスカレーション 設定" (Service Escalation Settings) form includes fields for "サービスエスカレーション名" (Service Escalation Name), "通知開始" (Notification Start), "通知終了" (Notification End), "通知間隔" (Notification Interval), and "エスカレーション時間帯" (Escalation Time Zone). Below these is a section for "エスカレーションオプション" (Escalation Options) with checkboxes for "回復(Recovery)", "警告(WARNING)", "不明(UNKNOWN)", and "異常(CRITICAL)". At the bottom are buttons for "追加" (Add) and "キャンセル" (Cancel).

ここで「サービスエスカレーション名」と、エスカレーション情報（エスカレーション条件）を設定し、「追加」ボタンをクリックすると下図の保存実施メッセージが表示されます。

A message box titled "設定:追加" (Setting: Add) displays the text "Service エスカレーション "SE3"が保存されました。" (Service Escalation "SE3" has been saved.). At the bottom is a button labeled "続行" (Continue).

「続ける」ボタンをクリックして、処理を続けます。

### b) 変更

「変更」機能メニューをクリックして一覧表示されたサービスエスカレーション名をクリックすると、右フレームに「サービスエスカレーション設定」画面が表示され、選択したサービスエスカレーション登録情報が表示されます（下図）：

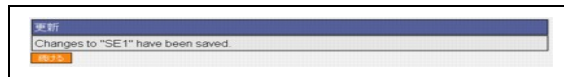
The "サービスエスカレーション 設定" (Service Escalation Settings) form is shown with "SE1" entered in the "サービスエスカレーション名" field. The "エスカレーション時間帯" is set to "none". The "エスカレーションオプション" section has checkboxes for "回復(Recovery)", "警告(WARNING)", "不明(UNKNOWN)", and "異常(CRITICAL)". At the bottom are buttons for "保存" (Save), "削除" (Delete), "名前を変更" (Rename Name), and "キャンセル" (Cancel).

ここで、必要な設定の変更を実施します。（変更を有効にするには「保存」が必要です）画面の下部には、「保存」、「削除」、「名前を変更」と「キャンセル」ボタンがあります。以下にそれぞれのボタンをクリックしてからの手順を説明します。

### [保存]

変更した設定を有効にするためには「保存」ボタンをクリックする必要があります。

「保存」ボタンをクリックすると、保存実施メッセージが表示されます：

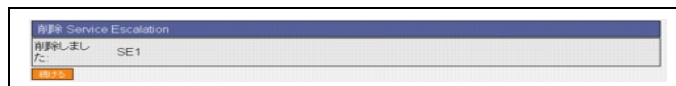


### [削除]

サービスエスカレーション情報を削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

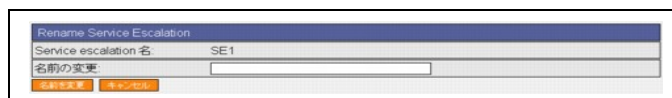


「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

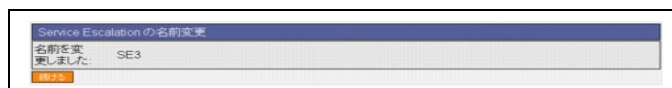


### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：



変更名を入力し「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：



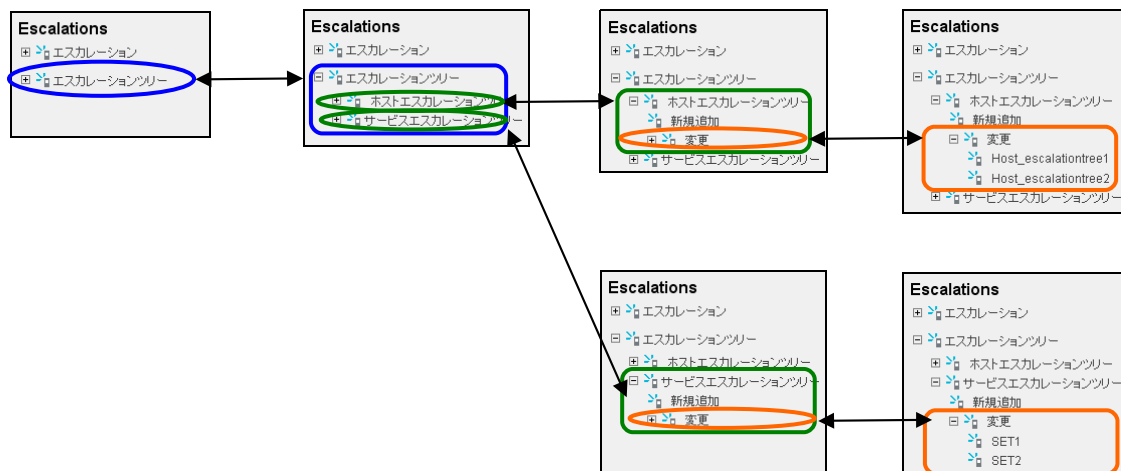
### 3.5.3. エスカレーションツリー

エスカレーションツリーを管理する機能メニューです。「エスカレーションツリー」か「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、「ホストエスカレーションツリー」および「サービスエスカレーションツリー」が展開表示されます。

ここで、「ホストエスカレーションツリー」か「+」アイコンをクリックすると、「新規追加」と「変更」メニューが展開表示され、「変更」（「+」アイコン）をクリックすると登録されているホストエスカレーションツリー名一覧が展開されます。

また、「サービスエスカレーションツリー」か「+」アイコンをクリックすると、「新規追加」と「変更」メニューが展開表示され、「変更」（「+」アイコン）をクリックすると登録されているサービスエスカレーションツリー名一覧が展開されます。

展開表示は、再度同じメニューか、「-」アイコンをクリックすると閉じます。



## 1) ホストエスカレーションツリー

### a) 新規追加

「ホストエスカレーションツリー」の「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「ホストエスカレーションツリー」追加画面が表示されます：

「エスカレーションツリー名」を入力して、「追加」ボタンをクリックすると、下図の「ホストエスカレーションツリー」設定画面が表示されます。

この画面で新規追加したホストエスカレーションツリー情報を編集します。

ホストエスカレーションツリー設定画面には、「詳細」、「ホストグループ割り当て」および「ホスト割り当て」の3つのタブがあり、それぞれの画面で必要な設定を行ないます。

### 1 詳細

ホストエスカレーションツリーの詳細画面では、エスカレーションツリーへのエスカレーション登録を行ないます。

エスカレーションを追加するには、エスカレーション欄の選択ボックスに表示されているホストエスカレーションをクリックして選択（変転表示）し、「エスカレーション追加」ボタンをクリックします。

下図のような「コンタクトグループの割り当て」ページが表示されます。

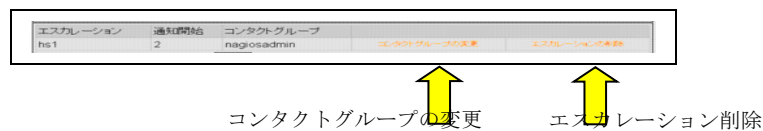
ここで、先に選択した（エスカレーション欄に表示されている）エスカレーションに割り当てたいコンタクトグループを指定します。

コンタクトグループを割り当てるには、「コンタクトグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名一覧から適切なコンタクトグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。コンタクトグループの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックして「詳細」ページに戻ります。

割り当てられたエスカレーションが表示されます。（下図）

割り当て  
エスカレーション欄

このエスカレーションの情報を管理するため、割り当てエスカレーション欄内の「コンタクトグループの変更」と「エスカレーション削除」を使用します。



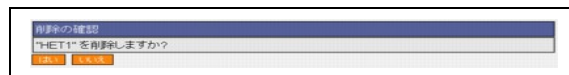
「コンタクトグループの変更」をクリックすると前述の「コンタクトグループの割り当て」ページが表示されますので、前述のような方法で変更をし、「保存」します。

「エスカレーション削除」をクリックすると、割り当てエスカレーション欄からそのエスカレーションが削除されます。

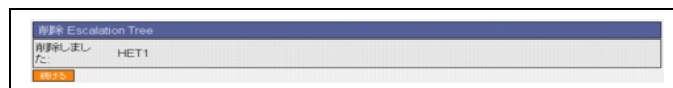
エスカレーションツリーの「詳細」画面には、「削除」、「名前を変更」と「閉じる」ボタンがあります。

### [削除]

エスカレーションツリーを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

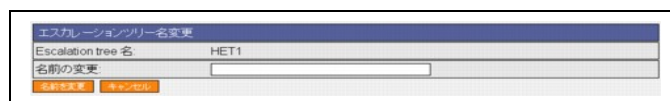


「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

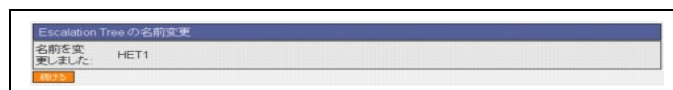


### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：



変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：



## 2 ホストグループの割り当て

ホストエスカレーションツリーの「ホストグループ割り当て」ページ画面では、エスカレ



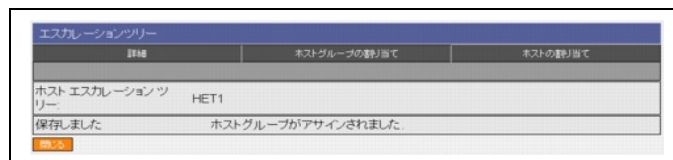
ーションツリーのホストグループへの割り当てを行ないます。

ここで登録すると、ホストグループのメンバーホストに対してこのエスカレーションツリーがデフォルトのエスカレーションツリーになります。



ホストグループを割り当てるには、「ホストグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているホストグループ名一覧から適切なホストグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストグループの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます。



### 3 ホストの割り当て

ホストエスカレーションツリーの「ホスト割り当て」ページ画面では、エスカレーションツリーのホストへの割り当てを行ないます。



ホストを割り当てるには、「ホスト」欄の右側選択ボックスに表示されているホスト名一

覧から適切なホストをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホスト名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます。



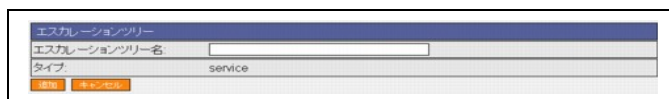
## b) 変更

「ホストエスカレーションツリー」の「変更」機能メニューをクリックし、表示されたホストエスカレーションツリー名をクリックすると、「ホストエスカレーションツリー」設定画面が表示されます。この画面は前述した「ホストエスカレーションツリー」設定画面と同じです。操作については、a)「新規追加」を参照してください。

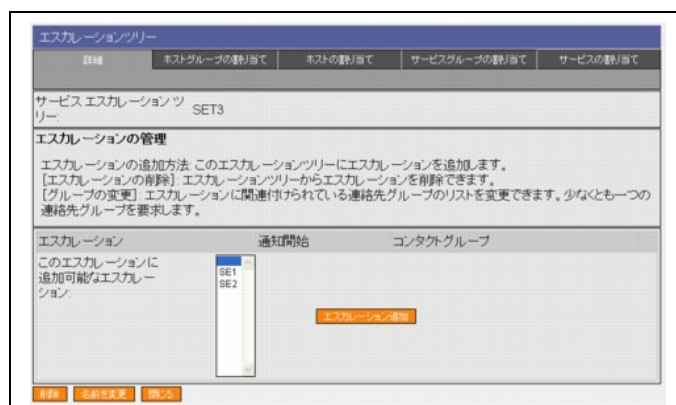
## 2) サービスエスカレーションツリー

### a) 新規追加

「サービスエスカレーションツリー」の「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「サービスエスカレーションツリー」追加画面が表示されます：



「エスカレーションツリー名」を入力して、「追加」ボタンをクリックすると、下図の「サービスエスカレーションツリー」設定画面が表示されます。



この画面で新規追加したサービスエスカレーションツリー情報を編集します。

サービスエスカレーションツリー設定画面には、「詳細」、「ホストグループ割り当て」、「ホス

ト割り当て」、「サービスグループ割り当て」および「サービス割り当て」の5つのタブがあり、それぞれの画面で必要な設定を行ないます。

## 1 詳細

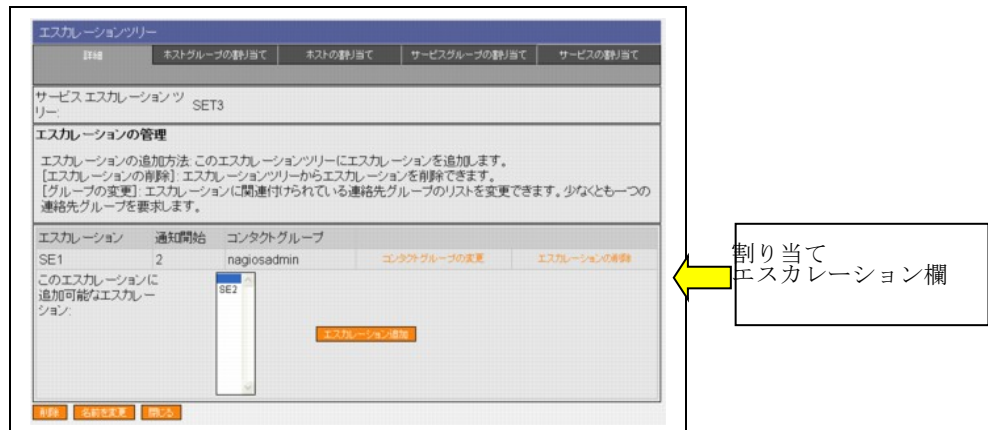
サービスエスカレーションツリーの詳細画面では、エスカレーションツリーへのエスカレーション登録を行ないます。エスカレーションを追加するには、エスカレーション欄の選択ボックスに表示されているサービスエスカレーションをクリックして選択（反転表示）し、「エスカレーション追加」ボタンをクリックします。

下図のような「コンタクトグループの割り当て」ページが表示されます。

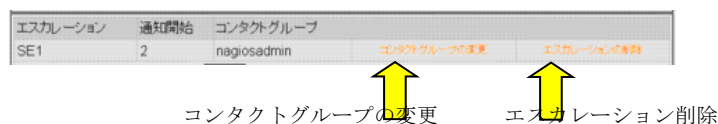
ここで、先に選択した（エスカレーション欄に表示されている）エスカレーションに割り当てたいコンタクトグループを指定します。

コンタクトグループを割り当てるには、「コンタクトグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名一覧から適切なコンタクトグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。コンタクトグループの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているコンタクトグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックして「詳細」ページに戻ります。

割り当てられたエスカレーションが表示されます。（下図）



このエスカレーションの情報を管理するため、割り当てエスカレーション欄内の「コンタクトグループの変更」と「エスカレーション削除」を使用します。



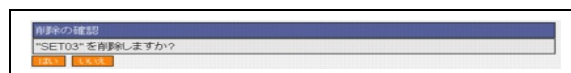
「コンタクトグループの変更」をクリックすると前述の「コンタクトグループの割り当て」ページが表示されますので、前述のような方法で変更をし、「保存」します。

「エスカレーション削除」をクリックすると、割り当てエスカレーション欄からそのエスカレーションが削除されます。

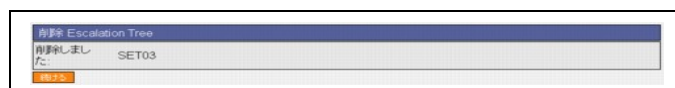
エスカレーションツリーの「詳細」画面には、「削除」、「名前を変更」と「閉じる」ボタンがあります。

### [削除]

エスカレーションツリーを削除するために「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

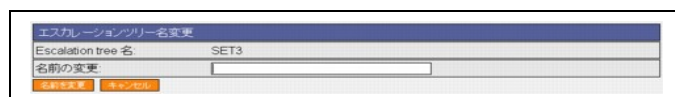


「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

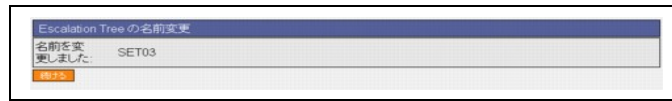


### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると、下図の名前変更画面が表示されます：



変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：



## 2 ホストグループの割り当て

サービスエスカレーションツリーの「ホストグループ割り当て」ページ画面では、エスカレーションツリーのホストグループへの割り当てを行ないます。

ここで登録すると、ホストグループのメンバーホストに対してこのエスカレーションツリーがデフォルトのエスカレーションツリーになります。



ホストグループを割り当てるには、「ホストグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているホストグループ名一覧から適切なホストグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストグループの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホストグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます。



## 3 ホストの割り当て

サービスエスカレーションツリーの「ホスト割り当て」ページ画面では、エスカレーションツリーのホストへの割り当てを行ないます。



ホストを割り当てるには、「ホスト」欄の右側選択ボックスに表示されているホスト名一覧から適切なホストをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。ホストの割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているホスト名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます。



#### 4 サービスグループの割り当て

サービスエスカレーションツリーの「サービスグループ割り当て」ページ画面では、エスカレーションツリーのサービスグループへの割り当てを行いません。ここで登録すると、サービスグループのメンバーに対してこのエスカレーションツリーがデフォルトのエスカレーションツリーになります。



サービスグループを割り当てるには、「サービスグループ」欄の右側選択ボックスに表示されているサービスグループ名一覧から適切なサービスグループをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。サービスグループの割り当てを解



除するには、左側選択ボックスに表示されているサービスグループ名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。

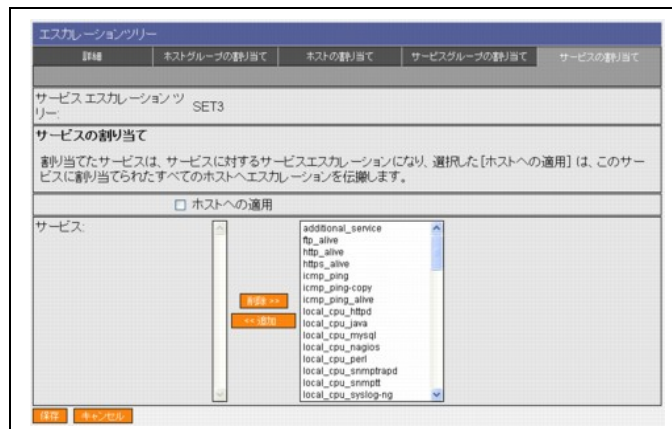
設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます：



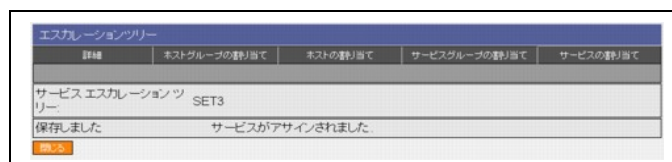
## 5 サービスの割り当て

サービスエスカレーションツリーの「サービス割り当て」ページ画面では、エスカレーションツリーのサービスへの割り当てを行ないます。

ここで登録することにより、エスカレーションツリーがサービスに割り当てられます。



サービスを割り当てるには、「サービス」欄の右側選択ボックスに表示されているサービス名一覧から適切なサービスをクリックで選択（反転表示）して「<<追加」ボタンをクリックします。サービス割り当てを解除するには、左側選択ボックスに表示されているサービス名をクリックで選択（反転表示）して「削除>>」ボタンをクリックします。設定したデータを保存するために「保存」ボタンをクリックすると、下図の保存実施メッセージが表示されます：



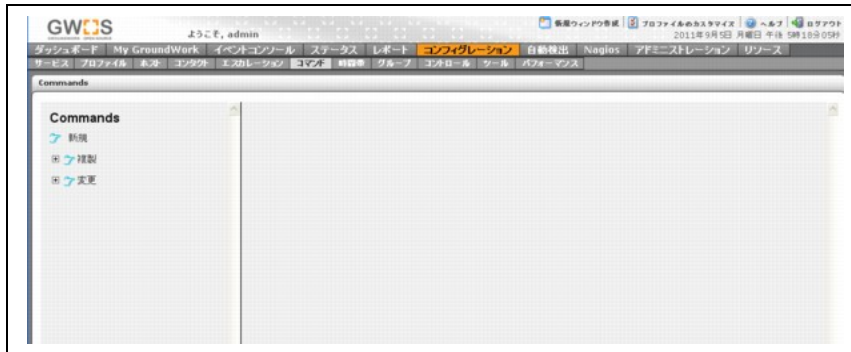
## b) 変更



「サービスエスカレーションツリー」の「変更」機能メニューをクリックして表示されたサービスエスカレーションツリー名をクリックすると、「サービスエスカレーションツリー」設定画面が表示されます。この画面は前述した「サービスエスカレーションツリー」設定画面と同じです。操作については、a)「新規追加」を参照してください。

### 3.6. コマンド

コンフィギュレーションの「コマンド」サブメニューをクリックすると、コマンド（Commands）設定画面が開きます(下図)：



コマンドとは GWM／Nagios が監視を実施する際に実行するプログラム（いわゆるプラグイン）およびそれらの実行パラメータを登録した情報のことで、「サービス」の「チェックコマンド」に該当します。

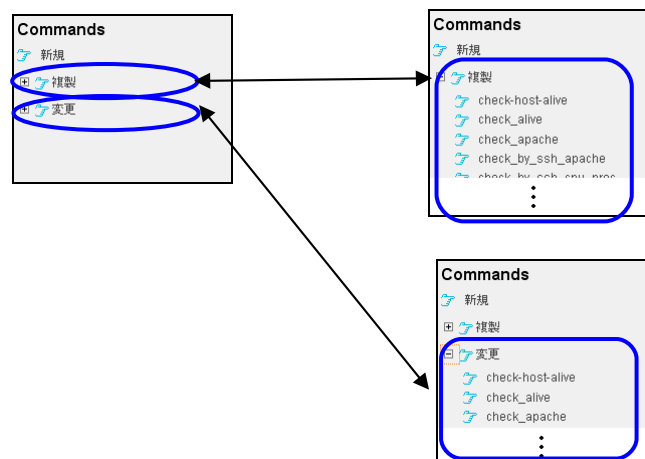
#### 3.6.1. コマンド設定画面の機能メニュー

コマンド設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 新規 : コンタクトを追加登録する
- 複製 : 既存コンタクトを複製し、新しいコマンドを作る
- 変更 : 既存コマンドの設定を変更する

コマンド機能の「新規」メニューをクリックすると新規追加画面が開きます。

「複製」および「変更」かそれらの「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、登録されているコマンドの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いた一覧メニューが閉じます



### 3.6.2. 機能メニューの操作

#### 1) 新規

「新規追加」機能メニューをクリックすると、右フレームに「コマンドウィザード」画面が表示されます：

**コマンドウィザード**  
リソースマクロの選択

この画面で、あなたのコマンドが呼ぶプラグイン(スクリプトかプログラム)を指定します。開始するために、プラグインが生存するディレクトリの値が絶対パスであるリソースマクロを選びます。これは、ほとんどの場合USER1です。

マクロ	値	説明
<input type="radio"/> USER1	/usr/local/groundwork/nagios/libexec	plugin directory
<input type="radio"/> USER2	/usr/local/groundwork/nagios/eventhandlers	event handler scripts directory
<input type="radio"/> USER3	60	plugin timeout
<input type="radio"/> USER4	*****	NSClient password
<input type="radio"/> USER5		
<input type="radio"/> USER6	*****	default MySQL password for GroundWork databases
⋮		
<input type="radio"/> USER30		
<input type="radio"/> USER31		
<input type="radio"/> USER32		

**Next**

この画面で、最初にコマンドで使用するプラグイン（コマンドやスクリプト）があるディレクトリを値にもつリソースマクロを選択します。

通常はUSER1（値：/usr/local/groundwork/nagios/libexec）です。（カスタムコマンドを使用する場合は、異なるかもしれませんが、ここではUSER1を使用します。）

マクロUSER1の左のラジオボタンをクリック（チェック）すると、表示が変わりプラグイン選択ボックスが現れます：

**コマンドウィザード**  
プラグインまたは異なるリソースマクロを選びます。

必要な特定のプラグインを選び、コマンド定義を編集するためにこの画面下部の「次へ >>」をクリックします。または必要ならば、プラグインディレクトリを定義する異なるリソースマクロを選びます。

プラグイン:

マクロ	値	説明
<input checked="" type="radio"/> USER1	/usr/local/groundwork/nagios/libexec	plugin directory
<input type="radio"/> USER2	/usr/local/groundwork/nagios/eventhandlers	event handler scripts directory

プラグイン選択ボックスの▼をクリックすると、USER1の指し示すディレクトリ内にあるコマンドやスクリプトがアルファベット順に表示されます：

**コマンドウィザード**  
プラグインまたは異なるリソースマクロを選びます。

必要な特定のプラグインを選び、コマンド定義を編集するためにこの画面下部の「次へ >>」をクリックします。または必要ならば、プラグインディレクトリを定義する異なるリソースマクロを選びます。

プラグイン:

マクロ	値	説明
<input checked="" type="radio"/> USER1	/usr/local/groundwork/nagios/libexec	plugin directory
<input type="radio"/> USER2	/usr/local/groundwork/nagios/eventhandlers	event handler scripts directory
<input type="radio"/> USER3	60	plugin timeout
<input type="radio"/> USER4	*****	NSClient password
<input type="radio"/> USER5		

表示されたコマンド等の中からプラグインをクリックして選択し、画面底部の「次へ>>」ボタンをクリックすると、「コマンドウィザード」のコマンド設定画面が表示されます：

ここで「コマンド名」、「タイプ」および「コマンドライン」を登録します。

コマンド名は任意の文字列です。

タイプには、**check**（チェックコマンド）、**notify**（通知コマンド）と **other**（その他）があります。監視用のコマンドであれば **check**、通知で使用するメールコマンドは **notify** を指定します。（**other** の例は、性能データ収集コマンドです。）

コマンドライン欄にはマクロの設定やプラグイン指定した内容が自動的に設定されますが、コマンドラインに引数が必要な場合、ここで編集する必要があります。（前画面で指定を行わず「次へ>>」ボタンをクリックした場合は、すべてを手入力する必要があります）

コマンド登録情報の設定が終了したら、登録したコマンドが正常に動作するかどうかをテストすることができます（必ず実施しなければならない訳ではありませんが、推奨します。）

### 〔テスト実施例〕

#### 前提条件

コマンド名：New\_http\_check、タイプ：check で、プラグインコマンド：check\_http を使用し、下記のコマンドラインを入力：

```
$USER1/check_http -H $HOSTADDRESS$ -w $ARG1$ -c $ARG2$
```

**\$HOSTADDRESS\$** は、テスト欄の「ホスト：localhost」指定のアドレス 127.0.0.1

**\$ARG1\$** は警報 (Warning) 閾値、**\$ARG2\$** は異常 (Critical) 閾値。

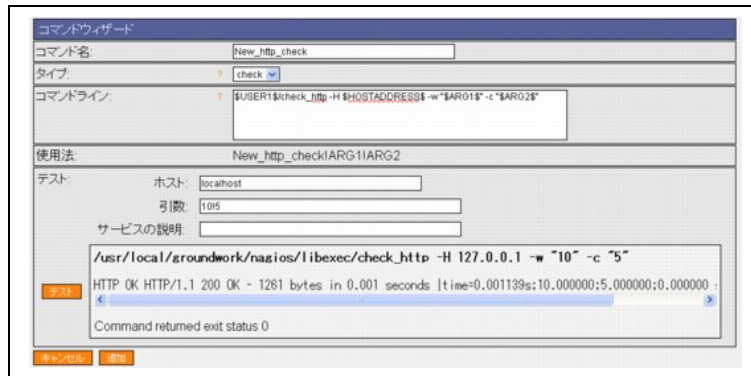
## テスト実施

テスト欄の引数に ARG1\$と\$ARG2\$の値を「!」で区切って入力します。

入力文字列例 : 10!5

（応答 10 秒以上で Waring、5 秒以上でクリティカル）

「テスト」ボタンをクリックするとしばらくして下図のような実行結果が表示されます。



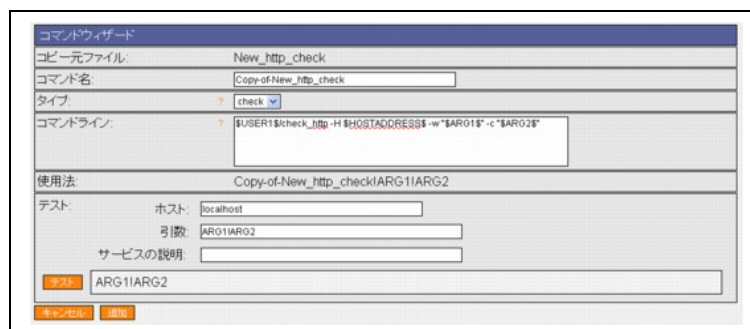
登録、テストが終了したら、保存するために「追加」ボタンをクリックします。

下図のような保存メッセージが表示されます。



## 2) 複製

「複製」機能メニューをクリックし、一覧表示されたコマンドを選んでクリックすると、右フレームに「コマンドウィザード」画面が表示されます：



この画面では、「コピー元ファイル」で複製したコマンド名を表示し、新しいコマンド名として「Copy-of-」を付けた仮の名前が、他の項目には指定したコマンドと同じ内容が入っています。設定とテストの仕方は 1)新規追加のコマンド設定画面にと同じです。

必要な修正を実施して「追加」ボタンをクリックすると、保存メッセージが表示されます。



## 3) 変更

「変更」機能メニューをクリック、一覧表示されたコマンドを選んでクリックすると、右フレームに「コマンドウィザード」画面が表示されます：

この画面では、コマンド名以外の項目が 1)新規追加のコマンド設定画面と同様に編集できます。この画面には、「保存」、「名前を変更」、「削除」と「キャンセル」ボタンがあります。下記にそれぞれのボタンをクリックした際の操作を説明します。

## [保存]

必要な修正を行なって「保存」ボタンをクリックすると保存メッセージが表示されます。

## [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると名前変更画面が表示されます：

変更名を入力し、「名前を変更」ボタンをクリックすると、名前変更実施メッセージが表示されます：

## [削除]

「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

### 3.7. 時間帯

コンフィグレーションの「時間帯」サブメニューをクリックすると、時間帯（Time Periods）設定画面が開きます(下図)：



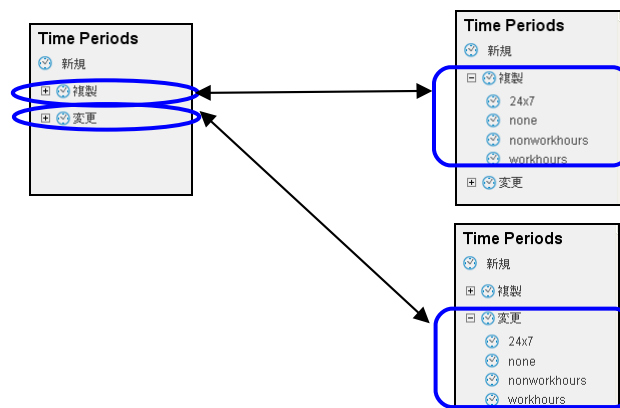
時間帯とは GWM/Nagios が通知などを実施する際に参照する情報で、指定された時間帯にのみ通知を行ったり、通知先を変えたりする指定が可能です。

#### 3.7.1. 時間帯設定画面の機能メニュー

時間帯設定画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 新規 : 時間帯を追加登録する
- 複製 : 既存の時間帯を複製し、新しいコマンドを作る
- 変更 : 既存の時間帯設定を変更する

時間帯機能の「新規」メニューをクリックすると新規追加画面が開きます。「複製」および「変更」かそれらの「+」アイコンをクリックするとアイコンが「-」に変わり、登録されているコマンドの一覧が展開表示されます。「-」アイコンをクリックすると開いた一覧メニューが閉じます。



#### 3.7.2. 機能メニューの操作



## 1) 新規

「新規追加」機能メニューをクリックすると右フレームに「新規時間帯」画面が表示されます：

「時間帯名」、「エイリアス」と「説明」欄に入力し、「作成」ボタンをクリックすると、下図の「時間帯の編集」画面が表示されます：

この画面には先の画面で入力した情報の表示に加え、ウィークデー（日～土）の時間帯指定欄、例外日指定欄、除外時間帯指定欄があり、それらを使用してきめ細かい時間帯指定をすること

が出来ます。

以下に、各欄での設定操作について説明します。

#### a) ウィークデー時間帯設定

ウィークデー設定では、毎週の日曜(Sunday)から土曜 (Saturday) の時間帯を設定します。  
当初は、下図の表示のように指定なし (None defined) 状態です。

Weekdays

ウィークデーディレクティブ (Sunday から Saturday) は、ある一週間の内の「適用」時間の時間帯をコマンドで区分したリストです。時間帯を定義することができます。7つの異なる曜日 (Sunday から Saturday) があることに注意してください。各々の時間帯は HH:MM-HH:MM の形式で、24時間指定です。たとえば 00:15-24:00 は、この日の早朝 12:15 から、真夜中 12:00 (総時間帯 23 時間 45 分) を意味します。時間帯から丸一日を除外したい場合は、時間帯定義をインクルードしなければなりません。

名前	時間	説明
None defined		

Sunday [Add] 日を選択し、追加をクリックして時間を設定してください。

曜日選択 ↑ ↑ 追加ボタン

まず、時間帯の追加したい曜日を選択して追加ボタンをクリックします。指定した曜日がリストに追加されます（例では日曜：Sunday を指定）。

Weekdays

ウィークデーディレクティブ (Sunday から Saturday) は、ある一週間の内の「適用」時間の時間帯をコマンドで区分したリストです。時間帯を定義することができます。7つの異なる曜日 (Sunday から Saturday) があることに注意してください。各々の時間帯は HH:MM-HH:MM の形式で、24時間指定です。たとえば 00:15-24:00 は、この日の早朝 12:15 から、真夜中 12:00 (総時間帯 23 時間 45 分) を意味します。時間帯から丸一日を除外したい場合は、時間帯定義をインクルードしなければなりません。

名前	時間	説明	
Sunday	00:00-24:00		remove

Monday [Add] 日を選択し、追加をクリックして時間を設定してください。

remove

この操作を繰り返し必要な曜日を追加します。（下図のようになります。）

Weekdays

ウィークデーディレクティブ (Sunday から Saturday) は、ある一週間の内の「適用」時間の時間帯をコマンドで区分したリストです。時間帯を定義することができます。7つの異なる曜日 (Sunday から Saturday) があることに注意してください。各々の時間帯は HH:MM-HH:MM の形式で、24時間指定です。たとえば 00:15-24:00 は、この日の早朝 12:15 から、真夜中 12:00 (総時間帯 23 時間 45 分) を意味します。時間帯から丸一日を除外したい場合は、時間帯定義をインクルードしなければなりません。

名前	時間	説明	
Monday	09:00-17:00		remove
Tuesday	09:00-17:00		remove
Wednesday	09:00-17:00		remove
Thursday	09:00-17:00		remove
Friday	09:00-17:00		remove

Sunday [Add] 日を選択し、追加をクリックして時間を設定してください。

時刻設定 ↑ 説明カラム ↑ 削除(remove)ボタン ↑

追加した各行について必要な編集をします。

「時間」カラムは指定した曜日ごとに時刻設定です。

HH:MM-HH:MM の形式で入力します（HH は 00～23、MM は 00～59 で指定）。

「説明」カラムは、時刻設定のコメントで、入力任意です。

各行の「remove」をクリックするその行がリストから削除されます。

#### b) 例外設定

例外設定は特定日（デイルール）を指定しての時刻の設定を行ないます。デイルールの表記や設定の仕方については「例外（高度な設定）」欄の中で詳しく説明があります。例外設定を行なうには、欄の下部の「デイルール」入力欄にデイルールの文字列を入力し、「追加」ボタンをクリックします。

下図に 12 月 31 日と 1 月 1 日を指定した例を示します。各例外日の行の「時間」カラムで時刻を編集し、「説明」にコメントを入力してください。デイルールを削除するには、該当行の削除(remove)ボタンをクリックしてください。

#### c) 除外指定

あらかじめ設定されている時間帯名を指定して、その時間帯で設定されている時間は除外するという指定が可能です。これは時間帯毎に通知先を分ける場合などに、指定されない時刻の発生や重複を避けるのに便利な設定です。

除外設定をするには、除外欄にリスト表示されている時間帯のチェックボックスにチェックを入れてください。

#### d) 操作ボタン

この画面には「保存」、「名前を変更」、「削除」と「閉じる」ボタンがあります。下記にそれぞれのボタンをクリックした際の操作を説明します。

##### [保存]

「保存」ボタンをクリックすると、それまでの編集を保存し、メッセージが表示されます。

##### [名前を変更]

「名前を変更」ボタンをクリックすると名前変更画面が表示されます：

変更名を入力し「名前を変更」ボタンをクリックすると、変更メッセージが表示されます：

## [削除]

「削除」ボタンをクリックすると、下図の削除確認画面が表示されます：

「はい」ボタンをクリックすると、削除実施メッセージが表示されます。

## 2) 複製

「複製」機能メニューをクリックし、表示された時間帯名をクリックすると、右フレームに「時間帯の複製」画面が表示されます（下図）：

新しい時間帯名には「Copy-of-」を付けた仮の名前が入り、他の項目には指定した時間帯マンドと同じ内容が入っています。必要な修正を実施して「追加」ボタンをクリックすると、1) 新規追加と同じ「時間帯の編集」画面が表示されますので、必要な編集を実施し保存してください。設定操作については、1)を参照してください。

## 3) 変更

「変更」機能メニューをクリックし、表示された時間帯名をクリックすると、右フレームに「時間帯の複製」画面が表示され、選択した時間帯の情報が表示されます。必要な編集を実施し保存してください。設定操作については、1)を参照してください。

### 3.8. グループ

コンフィグレーションの「グループ」サブメニューをクリックするとグループ設定画面が開きます：



グループは、複数のサーバを使用して GWM／Nagios 監視システムを構築する場合に使用する機能です。たとえば、コンフィグレーションで登録した多数のホストをグループに分け、異なる監視サーバごとの Nagios 設定ファイルを作成（インスタンス構築）することができますし、グループ毎に設定情報（.cfg ファイル）をエクスポートすることもできます。

この機能は、とりわけ GroundWork Monitor Enterprise で提供される Windows 監視サブシステム（WMI プロキシ）を実装する場合には重要です。

グループ設定画面の左フレームには、下記の機能選択メニューアイコンが表示されています：

- 新規 ： 新しくグループを登録する
- グループ ： グループへのホスト振り分け、インスタンス構築などを行なう
- マクロ ： グループマクロの定義
- インスタンスの構築： グループインスタンスをまとめて構築する

グループ機能は、V6 以降における GWM／Nagios 監視システムの強力な機能ですが、500 サーバ程度までの比較的小規模な監視の場合や WMI プロキシサーバを持たない GroundWork Monitor Community の場合では使用する頻度は少ないと思われます。

使用方法など詳しくは Bookshelf を読むか、GroundWork Enterprise を購入いただいた上で GroundWork サポートにお問い合わせください。

### 3.9. コントロール

コンフィグレーションの「コントロール」サブメニューをクリックすると、コントロール（Control）画面が開きます：



コントロールは、コンフィグレーション自体の設定や Nagios 環境（マクロ設定を含む）と GMW の監視実施環境の構築を行なう機能を提供します。

また、Nagios 設定ファイルから GWM データベースを作成する機能（ロード）機能も有します。

コントロールの機能メニューは7つ（外部設定有効時は8つ）ありますが、通常使用するのは、プリフライトテストとコミットだけだと思います。他の機能については簡単に説明しますが、詳しくは Bookshelf か上級編/GWM TIPS を参照してください。

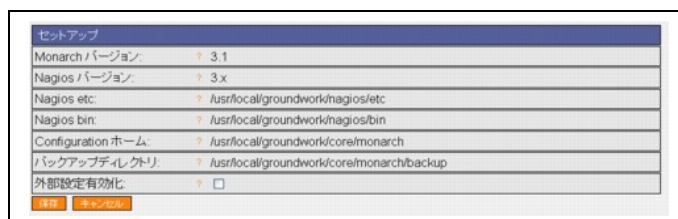
#### 3.9.1. コントロール画面の機能メニュー

コントロール画面の左フレームには、下記のアイコンが表示されています

- セットアップ : GWM の設定・表示を行なう（設定は、外部設定有効化のみ）
- Nagios CGI 設定 : Nagios CGI の表示と設定を行なう
- Nagios メイン設定 : Nagios のメイン設定と表示と管理を行なう
- Nagios リソースマクロ : Nagios リソースマクロの表示と管理を行なう
- ロード : Nagios 構成ファイルをロードする
- プリフライトチェック : GWM データベースを実施前にチェックを行なう
- コミット : GWM データベースを監視実行環境に展開し、DB 設定を有効化する

#### 3.9.2. セットアップ

GWM の設定・表示を行なう機能メニューです。「セットアップ」をクリックすると下図の様な「セットアップ」画面が表示されます。





この画面では、GWM と Nagios のバージョンやディレクトリ情報が表示され、外部設定の有効化をコントロールします。

外部設定は、GWM をカスタマイズし Nagios 以外の監視ツールを稼働させる場合に使用する設定で、有効化するにはチェックボックスをチェックして「保存」ボタンをクリックします。

これにより、外部設定の定義および追加と実行が行なえるようになります。

（有効化すると、コントロールに「外部実行」機能メニュー、ホストとサービスに「外部設定」機能メニューが追加されます）

外部設定について詳しくは、Bookshelf か TIPS を参照してください。

### 3.9.3. Nagios CGI 設定

Nagios CGI ための設定を行なう機能メニューです。「Nagios CGI 設定」をクリックすると下図の「Nagios CGI 設定 ページ 1」画面が表示されます。（設定ページは 2 ページあります）

Nagios CGI 設定 ページ 1

HTML の物理パス:	/usr/local/groundwork/nagios/share
URL HTML のパス:	/nagios
リフレッシュレート:	90
コンテキストセンシティブなヘルプ:	<input checked="" type="checkbox"/>
Nagios プロセスチェックコマンド:	/usr/local/groundwork/nagios/libexec/check_nagios /usr/local/groundwork
Ping シンタックス:	/bin/ping -n -U -c 5 \$HOSTADDRESS\$
ステータスマップの背景イメージ:	states.png
デフォルトのステータスマップレイアウト:	Circular (Mark Up)
デフォルト statuswri レイアウト:	Collapsed tree
Status wri インクルード:	myworld.wri
ホスト到達不能音:	
ホスト停止 (down) 音:	
サービス異常 (critical) 音:	
サービス警報 (warning) 音:	
サービス不明 (unknown) 音:	

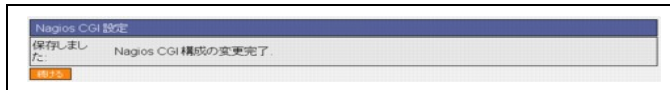
リロード 保存 リロードして保存

Nagios CGI 設定 ページ 2

認証を使用:	<input checked="" type="checkbox"/>
デフォルトユーザ名:	nagiosadmin
コンフィギュレーション情報アクセス:	nagiosadmin:doe
システムプロセス情報アクセス:	nagiosadmin:libexec:doe
システムプロセスコマンドのアクセス:	nagiosadmin
グローバルのホスト情報アクセス:	nagiosadmin:guest
グローバルのホストコマンドアクセス:	nagiosadmin
グローバルのサービス情報アクセス:	nagiosadmin:guest
グローバルのサービスコマンドアクセス:	nagiosadmin
Lock author names:	<input type="checkbox"/>

保存 リロードして保存





### 3.9.4. Nagios メイン設定

Nagios のためのメイン設定を行なう機能メニューです。「Nagios メイン設定」をクリックすると下図の「Nagios メイン設定 ページ 1」画面が表示されます（設定ページは 4 ページあり、長大です）。通常は変更する必要はありません（不用意に変更すると問題が発生する可能性があります）が、設定を行なう場合は Nagios 関連のドキュメントか、Bookshelf を参照して注意して行なってください。

注：「通知の有効化」のチェックボックスについて：

GWM は、初期状態（デフォルト）では通知を行なわないように設定しています。これはインストール時のデフォルトとなっている通知先（コンタクトやその他の通知）設定が現実には存在しない場合、正しくない送付先にメールを送らないようにするためだと考えられます。インストール後、監視設定を行なって正しくコンタクト情報や GWM 自体の問題発生時のメール送付先を設定できたら、通知を有効化する必要があります。（ここで有効化していなければ、他の設定を行なってもメールが送出されません）

設定を実施したら、「保存して次へ」ボタンをクリックします。

「Nagios メイン設定 ページ 2」が表示されます：

Nagios メイン設定 ページ 2	
Syslog のログオプション:	<input type="checkbox"/>
通知のログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
ホストチェック再試行のログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
サービスチェック再試行のログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
イベントハンドラのログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
初期状態のログオプション:	<input type="checkbox"/>
外部コマンドのログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
バッチアップチェックのログオプション:	<input checked="" type="checkbox"/>
グローバルホスト・イベントハンドラ:	<input type="text" value=""/>
グローバルサービス・イベントハンドラ:	<input type="text" value=""/>
スリープ時間:	<input type="text" value="1"/>
サービス間のチェック遅延方法:	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 単純 <input checked="" type="radio"/> 高度 <input type="radio"/> チェック間の遅延として使用: <input type="text" value=""/>
サービスチェック配分の最大待ち時間:	<input type="text" value="30"/>
サービスインターリーブ値:	<input checked="" type="radio"/> 高度 <input type="radio"/> インターリーブファクターとして使用: <input type="text" value=""/>
ホスト間のチェック遅延方法:	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 単純 <input checked="" type="radio"/> 高度 <input type="radio"/> チェック間の遅延として使用: <input type="text" value=""/>
ホストチェック配分の最大待ち時間:	<input type="text" value="30"/>
サービスチェックの最大並列実行数:	<input type="text" value="100"/>
チェック結果パス:	<input type="text" value="/usr/local/groundwork/nagios/var/checkresults"/>
外部コマンド/バッチアップチェック:	<input type="text" value=""/>
チェック結果収集頻度:	<input type="text" value="10"/>
最大チェック結果収集時間:	<input type="text" value=""/>
最大チェック結果ファイル年数:	<input type="text" value=""/>
バッチアップホストチェックの翻訳:	<input type="checkbox"/>
キャッシュホストチェック範囲:	<input type="text" value="15"/>
キャッシュサービスチェック範囲:	<input type="text" value="15"/>
アグレッジブホストチェックの使用:	<input type="checkbox"/>
タイミング間隔の長さ:	<input type="text" value="60"/>
自動再スケジュールチェック:	<input type="checkbox"/>
自動スケジューリング間隔:	<input type="text" value="30"/>
自動再スケジューリングのウィンドウ:	<input type="text" value="180"/>
<b>大規模インストール調整</b> 大規模インストール調整オプションは、ここで示す三つの追加オプションのデフォルト値を変更する範囲のみに において Nagios のマニュアルで記述されています。しかし、それらのオプションは、常にここで明示的に設定される ので、そのようなデフォルトは効果をもたないでしょう。これらの他のオプションを、正しく望み入、設定にされ、他のデ フォルト動作に依存しないようセットする必要があります。しかしながら、大規模インストール調整オプションは フラッピング検出オプションロジックとプリキャッシュされたオブジェクトに影響を与えるので、ここで設定する値は、ま だ重要です。	
大規模インストール調整の使用:	<input checked="" type="checkbox"/>
環境マクロの有効化:	<input type="checkbox"/>
子プロセスの二回フォーク:	<input type="checkbox"/>
子プロセスメモリの開放:	<input type="checkbox"/>
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="保存して次へ"/>	

設定を実施したら、「保存して次へ」ボタンをクリックします。

「Nagios メイン設定 ページ 3」が表示されます：

Nagios メイン設定 ページ 3

フラグging 検出オプション ☐

サービスフラグging しきい (下限) 値: 25.0

サービスフラグging しきい (上限) 値: 50.0

ホストフラグging しきい (下限) 値: 25.0

ホストフラグging しきい (上限) 値: 50.0

ソフト状態依存性 ☐

サービスチェックのタイムアウト: 60

ホストチェックのタイムアウト: 30

イベントハンドラのタイムアウト: 30

通知のタイムアウト: 30

OCS P タイムアウト: 5

OCH P タイムアウト: 5

性能データのタイムアウト: 60

サービスのオブセソーパー ☐

OCS P コマンド:

ホストのオブセソーパー ☐

OCH P コマンド:

性能データの処理 ☒

ホスト性能データコマンド:

サービス性能データコマンド:

ホスト性能データファイル:

サービス性能データファイル: /usr/local/groundwork/nagios/var/service-perfdata.dat

ホスト性能データファイルテンプレート:

サービス性能データファイルテンプレート: \$LASTSERVICECHECK;\$HOSTNAME;\$SERVICEDESC;\$SERV

ホスト性能データファイルモード: w

サービス性能データファイルモード: a

ホスト性能データファイル処理間隔:

サービス性能データファイル処理間隔: 300

ホスト性能データファイル処理コマンド:

サービス性能データファイル処理コマンド: launch\_perfdata\_process

戻る 保存して次へ

設定を実施したら、「保存して次へ」ボタンをクリックします。

「Nagios メイン設定 ページ 4」が表示されます：

Nagios メイン設定 ページ 4

孤立サービスの確認 ☐

サービス情報鮮度チェック ☐

サービス情報鮮度チェック間隔: 60

ホスト情報鮮度チェック ☐

ホスト情報鮮度チェック間隔: 60

イベントブローカーオプション: 1

ブローカーモジュール: /usr/local/groundwork/common/lib/libbrn.so

日付フォーマット: ☒ USA (MM-DD-YYYY HH:MM:SS)  
☐ International (DD-MM-YYYY HH:MM:SS)  
☐ ISO-8601 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS)  
☐ strict-ISO-8601 (YYYY-MM-DDTHH:MM:SS)

オブジェクト名の禁止文字: ~%&\*\$^\*+?|@

マクロ出力の禁止文字: ~&f\*

管理者のE-mailアドレス: nagios@localhost

管理者ポケットベル番号: pagenagios@localhost

その他ディレクティブ(オプション)  
 追加の名前 = 値ペアを nagios.cfg ファイル内に入れます。

ディレクティブ名: 値:

ディレクティブ追加 保存して終了

設定を実施したら、「保存して終了」ボタンをクリックすると保存メッセージが表示されます：

Nagios メイン設定  
 Saved Changes to nagios configuration completed.

戻る

### 3.9.5. Nagios リソースマクロ

Nagios のリソースマクロ設定を行なう機能メニューです。

Nagios では USER1 から USER32 までのマクロが設定でき、それぞれプラグインが保存されたディレクトリや共通的な引数を指定できるようになっています。下図で「値」と「説明」があるマクロは使用中か予約されているマクロであり、残り 20 ほどがカスタム使用可能です。

「Nagios リソースマクロ」をクリックすると下図の「Nagios リソースマクロ」画面が表示されます。

マクロ	値	説明
<input type="radio"/> USER1	/usr/local/groundwork/nagios/libexec	plugin directory
<input type="radio"/> USER2	/usr/local/groundwork/nagios/eventhandlers	event handler scripts directory
<input type="radio"/> USER3	60	plugin timeout
<input type="radio"/> USER4	somepassword	NSClient password
<input type="radio"/> USER5		
<input type="radio"/> USER6	gwirk	default MySQL password for GroundWork databases
<input type="radio"/> USER7	public	SNMP community string
<input type="radio"/> USER8	itgwirk	alternate SNMP community string
<input type="radio"/> USER9		
<input type="radio"/> USER10		
<input type="radio"/> USER11		
<input type="radio"/> USER12		
<input type="radio"/> USER13	127.0.0.1	sendEmail smtp mail relay option (-s) value
<input type="radio"/> USER14		
<input type="radio"/> USER15		
<input type="radio"/> USER16		
<input type="radio"/> USER17	nagios	default check_by_ssh remote user name for all SSH checks
<input type="radio"/> USER18		
<input type="radio"/> USER19	1248	NSClient TCP Port
<input type="radio"/> USER20		
<input type="radio"/> USER21	127.0.0.1	GroundWork Proxy Server IP
<input type="radio"/> USER22	libexec	default plugin subdirectory on remote hosts, relative to the home directory of the user you SSH in as
<input type="radio"/> USER23		
<input type="radio"/> USER24		
<input type="radio"/> USER25		
<input type="radio"/> USER26		
<input type="radio"/> USER27		
<input type="radio"/> USER28		
<input type="radio"/> USER29		
<input type="radio"/> USER30		
<input type="radio"/> USER31		
<input type="radio"/> USER32		

Nagios リソースマクロを設定するためマクロ名の左側のラジオボタンをクリックすると、下図のように上部にマクロ名の値（Value）と説明入力欄が開きます。

（図は USER5 のラジオボタンをクリックした状態です。）

マクロ	値	説明
<input type="radio"/> USER1	/usr/local/groundwork/nagios/libexec	plugin directory
<input type="radio"/> USER2	/usr/local/groundwork/nagios/eventhandlers	event handler scripts directory
<input type="radio"/> USER3	60	plugin timeout
<input type="radio"/> USER4	somepassword	NSClient password
<input checked="" type="radio"/> USER5		
<input type="radio"/> USER6	gwirk	default MySQL password for GroundWork databases
<input type="radio"/> USER7	public	SNMP community string
<input type="radio"/> USER8	itgwirk	alternate SNMP community string

マクロに設定値を入力し、更新（Update）ボタンをクリックすると値がセットされます。

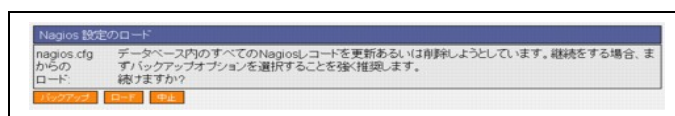


Nagios リソースマクロの設定と使い方について詳しくは Nagios 関連のドキュメントか、Bookshelfを参照してください。

### 3.9.6. ロード

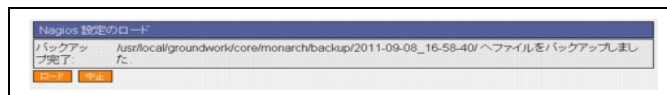
Nagios 構成ファイルなどから GWM 設定データベースを作成するための機能です。この機能は Nagios から GWM への移行などに便利な機能ですが、使い方によりデータベース破壊が発生しますので、使用の際は細心の注意とバックアップ実施が必要です。

「ロード」をクリックすると下図の「Nagios 設定のロード」確認画面が表示されます。

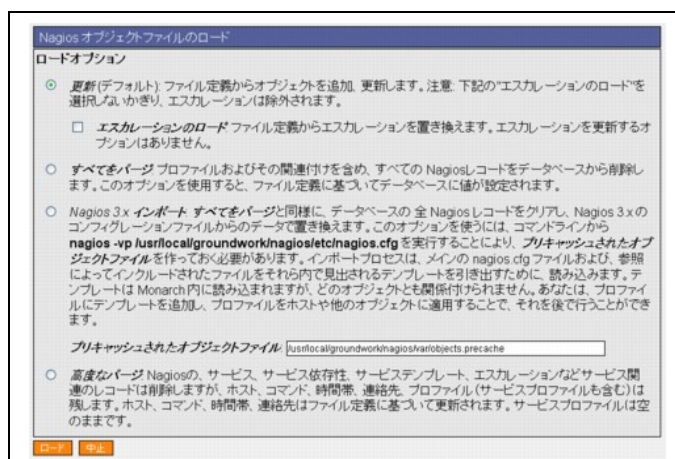


ここでは、必ず「バックアップ」ボタンをクリックしてください。

下図のバックアップ実施メッセージが表示されます。



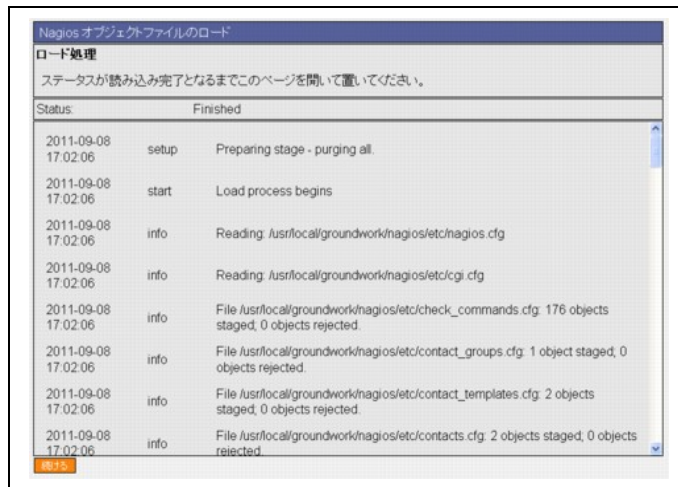
「ロード」ボタンをクリックすると、ロードオプションの選択画面が表示されます：



画面表示の説明や Bookshelf を参照して、適切なオプションを選んでラジオボタンをクリックします。「ロード」ボタンをクリックするとロード処理が開始され、処理ステータスが表示されます。ステータス (Status) 欄が Finished になるまで待ってください。(途中で別機能を使用すると、



処理が中断しデータベースが壊れる可能性があります）。



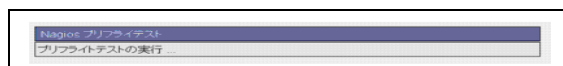
### 3.9.7. リフライトチェック

GWM で行なったデータベース設定を稼働環境に適用して監視を開始する前に行なうチェック（プリフライトチェック：飛行前点検）機能です。

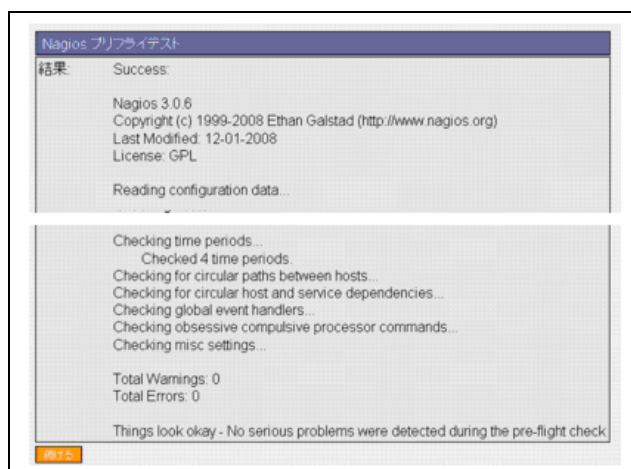
プリフライトチェックではテスト環境内に Nagios 構成ファイルを作成して、プリフライトチェックを実施しますので、実際の Nagios 稼動には影響を及ぼさないでチェックができます。

不十分な登録情報でコミットを実施すると、Nagios 起動エラーによって監視ができなくなる危険性がありますので、必ずプリフライトチェックを実施してください。

「プリフライトチェック」をクリックすると、テストが開始されます：



しばらくすると、プリフライトテストの実行結果が表示されます。



画面下部の **Total Warnings:** と **Total Errors:** が 0 であることを確認してください。  
 何らかのチェックエラーがあった場合は、結果欄に赤文字で、問題点が表示されますので、  
 表示にしたがって問題点を点検、修正してください。

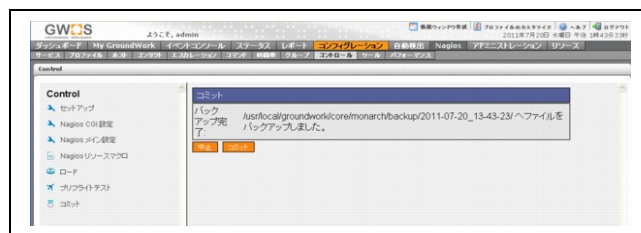
### 3.9.8. コミット

GWM 監視設定データベース：Monarch に登録された情報を元に Nagios 構成ファイルを作成、  
 監視データベース：CollageDB 登録等を実施し、新しい設定での監視を開始する機能です。

「コミット」機能メニューをクリックすると、下記のメッセージ画面が表示されます。

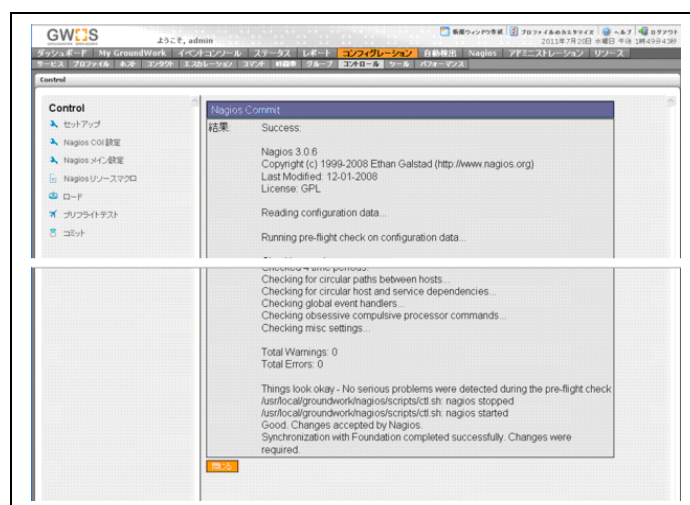


表示されているように、バックアップは重要ですので、必ず「バックアップ」ボタンをクリックして、  
 現行の環境をバックアップしてください。



バックアップが完了すると、バックアップファイルのパスが表示されますので、記録しておくこと  
 をお勧めします。次に「コミット」ボタンをクリックし。

コミット実施中の画面が表示され、しばらく待つと、コミット実行結果が表示されます。



結果表示が「Success」であれば、コミット終了です。「閉じる」をクリックします。



[コミット実施状況確認]

最下部の二行が下記のようにになっているのを確認します。

Good. Changes accepted by Nagios.

Synchronization with Foundation completed successfully. Changes were required.

上記の確認ができない場合は何らかの問題が発生していますので、結果表示内メッセージを確認して必要な対処を実施してください。

### 3.10. ツール

コンフィグレーションの「ツール」サブメニューをクリックすると、ツール（Tools）画面が開きます(下図)：



ここでは、GWM 監視設定データベースを Nagios 構成ファイルに出力したり、ホストやサービスをまとめて削除したりすることができます。

#### 3.10.1. ツール画面の機能メニュー

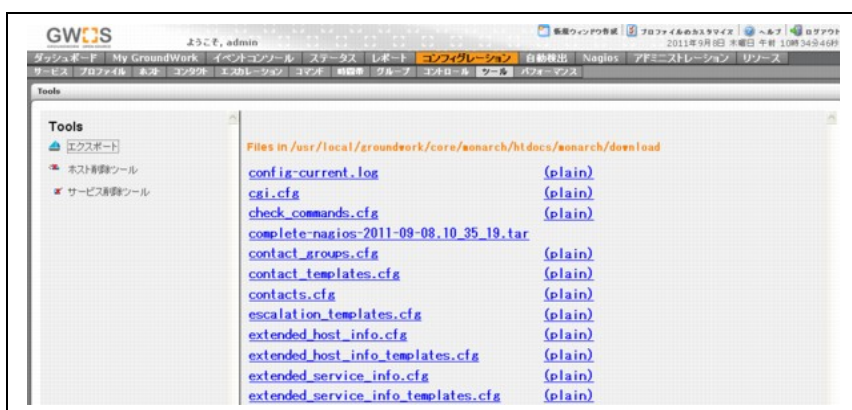
ツール画面は左右のフレームに分かれており、左フレームに設定のための機能選択ができる下記のアイコンが表示されています。

- 1) エクスポート : GWM 監視設定データベースを Nagios 構成ファイルに出力する
- 2) ホスト削除ツール : ホストを一括削除する
- 3) サービス削除ツール : サービスを指定して、使用しているホストから一括削除する

#### 3.10.2. エクスポート

GWM 監視設定データベース : Monarch から Nagios 構成（.cfg）ファイルを作成し、出力する機能メニューです。

「エクスポート」をクリックするとファイルを作成し、下図の様に出力先ファイルの一覧を表示します。



出力先ファイルの一覧からファイルを選んでクリックすると、内容が表示されます。

表示された一覧からファイルを選んでクリックすると、ファイル内容を参照することができます。

ファイル名をクリックすると行番号付き、(plain)をクリックすると行番号なしで表示されます。

ファイル名をクリック指定：cgi.cfg の例

```

1 #####GROUNDWORK#####
2 #0#
3 #0#   cgi.cfg generated 2011-09-09 11:54:04 by admin from monarch.cgi nagios v 3.x
4 #0#
5 #####GROUNDWORK#####
6
7 # MAIN NAGIOS CONFIGURATION FILE
8 main_config_file=/usr/local/groundwork/nagios/etc/nagios.cfg
9
10 # PHYSICAL HTML PATH
11 physical_html_path=/usr/local/groundwork/nagios/share
12
13 # URL HTML PATH
14 url_html_path=/nagios
15
16 # SHOW CONTEXT HELP
17 show_context_help=1
18
19 # NAGIOS CHECK COMMAND
20 nagios_check_command=/usr/local/groundwork/nagios/libexec/check_nagios /usr/local/groundwork/nagios/var/status.ios
21

```

(plain) をクリック：cgi.cfg の例

```

#####GROUNDWORK#####
#0#
#0#   cgi.cfg generated 2011-09-09 11:54:04 by admin from monarch.cgi nagios v 3.x
#0#
#####GROUNDWORK#####

# MAIN NAGIOS CONFIGURATION FILE
main_config_file=/usr/local/groundwork/nagios/etc/nagios.cfg

# PHYSICAL HTML PATH
physical_html_path=/usr/local/groundwork/nagios/share

# URL HTML PATH
url_html_path=/nagios

# SHOW CONTEXT HELP
show_context_help=1

# NAGIOS CHECK COMMAND
nagios_check_command=/usr/local/groundwork/nagios/libexec/check_nagios /usr/local/groundwork/nagios/var/status.ios

```

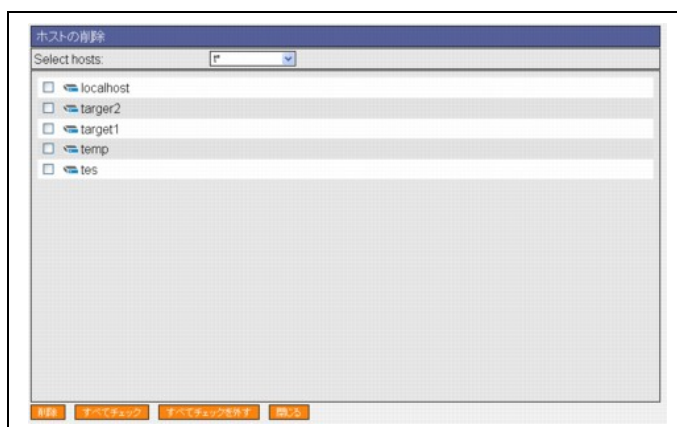
### 3.10.3. ホストの削除ツール

ホストを一括して削除するためのツールです。

「ホストの削除ツール」をクリックすると、下図の様な削除ホスト選択の画面が表示されます。



ここで、ホスト選択（Select hosts）選択ボックスの▼をクリックして、表示されたホスト名文字列の一部を選ぶと、その文字列を含むホスト名の一覧が表示されます：



一覧の中から削除したいホスト名のチェックボックスにチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックすると、ホストがリストから削除されます。

多くのホストが表示された場合、選択チェックスルのは大変なので、「すべてチェック」や「すべてチェックを外す」ボタンを使用して効率的に操作することができます。

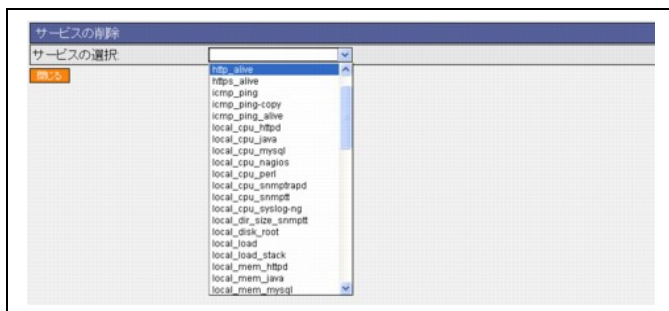
### 3.10.4. サービスの削除ツール

サービスを指定し、そのサービスを使用しているホストからサービスを一括して削除するためのツールです。（注：サービスそのものを削除する訳ではありません）

「サービスの削除ツール」をクリックすると、下図の様なサービス選択の画面が表示されます。



ここで、「サービスの選択」選択ボックスの▼をクリックし、削除するサービス名を選択します。



選択すると、そのサービスを割り当てられているホストの一覧が表示されます。



サービス割当を削除したいホストについて、左側のチェックボックスにチェックを入れて、「削除」ボタンをクリックすると、リストからそのホストが消えます。

（このとき、チェックしたホストから選択したサービスが削除されています。）

多くのホストが表示された場合、選択チェックスルのは大変なので、「すべてチェック」や「すべてチェックを外す」ボタンを使用して効率的に操作することができます。

### 3.11. パフォーマンス

コンフィグレーションの「パフォーマンス」サブメニューをクリックすると、下図のようなパフォーマンス設定管理画面が開きます：

GWOS

ようこそ, admin

監視ツールの書式

[ダッシュボード](#)
[ログファイル](#)
[ログ](#)
[ログアラート](#)

[2](#)
[アラーム](#)
[ヘルプ](#)
[ログアラート](#)

[2011年9月7日 水曜日 午後 6時04分 2097](#)

[ダッシュボード](#)
[My GroundWork](#)
[イベントコンソール](#)
[ステータス](#)
[レポート](#)
[コンフィグレーション](#)
[自動検出](#)
[Nagios](#)
[アドミニストレーション](#)
[リソース](#)

[サービス](#)
[アラーム](#)
[ログ](#)
[コンタクト](#)
[エンタレインメント](#)
[コマンド](#)
[監視](#)
[グループ](#)
[ロール](#)
[サービス](#)
[パフォーマンス](#)

Performance Configuration

パフォーマンス設定管理

監視設定

サービス監視

サービス-ホストエントリを選択してください: ☒ **サービス監視**

グラフラベル:

DO NOT REMOVE THIS ENTRY - USE TO DEFINE DEFAULT GRAPHING SETTINGS

サービス:

DEFAULT

正数値としてサービスを使用する:

OFF

名前:

\*

ステータス文字列解析の正数値:

OFF

パフォーマンスデータの代として解析結果を表示する:

OFF

RRD名:

RRD作成コマンド:

RRD更新コマンド:

RRDtoolグラフコマンド:

rrdtool graph -s \$LISTSTARTS DEF:{\$DEFLABEL#}:AVERAGE CDEF:{\$DEFLABEL#}:AVERAGE:avg:{\$DEFLABEL#}:LINE2:{\$DEFLABEL#}:COLOR:{\$DEFLABEL#}:\$DSCALE# \$PRINT:{\$DEFLABEL#}:MIN:min:{\$DEFLABEL#}:AVERAGE:avg:{\$DEFLABEL#}:MAX:max:{\$DEFLABEL#}:\$LISTEND -c BACK#FFFFFF -c CANVAS#FFFFFF -c GRID#CCCC -c MGRID#D4D4D4 -c ARROW#FFFFFF -y --height 120

有線:

ON

変更

リセット

削除

リロード

グラフラベル:

Response Time

サービス:

https\_alive

正数値として:

OFF

この画面にはパフォーマンス設定されたすべてエントリーがアルファベット順で表示されており、右側のスライダーを操作して表示を移動することで全エントリーを参照することができます。

パフォーマンス設定管理画面は **RRDTool** を使用した監視結果の性能データ処理のための設定で、**RRD** データベース作成や **Nagios** やステータスでのパフォーマンスグラフ表示で使用されます。

パフォーマンス設定管理の各項目設定の仕方や内容について詳しくは **Bookshelf**などを参照してください。

以下に、パフォーマンス設定管理画面での操作について説明します：

1) 新規作成

「新規作成」ボタンをクリックすると新規のパフォーマンス設定画面が表示されます：

パフォーマンス設定管理		
グラフラベル:		
サービス名:		
正数系値としてサービス名を使用する:	<input type="checkbox"/>	
名前:		
正数系値の解析文表示:		
パフォーマンスデータの代替として解析文表示を使用する:	<input type="checkbox"/>	
RRD名		
RRD作成コマンド		
RRDアップデートコマンド		
RRDツール グラフカスタマイズ用コマンド		
有効:	<input checked="" type="checkbox"/>	

各空欄に必要な設定情報を入力して「追加」ボタンをクリックすると、追加メッセージが表示されます：



「続行」ボタンをクリックするとパフォーマンス設定の一覧画面に戻ります。

## 2) すべてのエクスポート

「すべてをエクスポート」ボタンをクリックすると、すべての登録済パフォーマンス設定を/tmpディレクトリの下にXMLファイルに出力し、下図のようなメッセージが表示されます：



これらのエクスポートされたXMLファイルは、別のGWMシステムにインポートすることでパフォーマンスグラフ設定を再利用することができます。

インポートの仕方については、Bookshelfを参照してください。

## 3) エントリー選択

エントリー選択ボックスの▼をクリックすると、登録済パフォーマンス設定の一覧が表示(下図参照)され、表示する設定を選ぶことができます。



選択すると、一つのグラフエントリーのみが表示されます。

バフォワードエンジニア管理

---

機能仕様	操作できるサービス名
サービス・ホストエンリを選択してください: <input type="text" value="https_alive"/>	
グラフラベル:	Response Time
サービス:	https_alive
正確な値としてサービス名を要する	<input type="checkbox"/> OFF
別呼称:	*
ステータス文字列 制約の正規化規則:	
パフォーマンスデータ単位として数値を表示を希望する:	<input type="checkbox"/> OFF
RRD名	/usr/local/groundwork/rnd/\$HOSTS_\$SERVICE.md
RRD作成コマンド	\$RRDTOOL create \$RRDNAME --step 600 --start n-1yr \$LISTSTARTIDS:\$LABEL#&\$GAUGE:1000:U::U::LSTEND\$ RRA:AVERAGE:0.5:1:6640 RRA:AVERAGE:0.5:12:9480
RRD更新コマンド	\$RRDTOOL update \$RRDNAME -t \$LABELLISTS \$LASTCHECKS:\$VALUELISTS 2>/dev
RRDリアルタイムクワイery関数	rrdtool graph --imgformat=PNG --title="HTTPS Performance" --rigid --base=1000 --height=120 --width=700 --alt-autoscale-max --lower-limit=0 --vertical-label="Seconds and KB" --slope-mode DEF::\$md_source`\$ds_source`.AVERAGE DEF::\$md_source`\$ds_source`.OVERRIDE CDEF::defarb CDEF::defarb.1224`./ARB.cdf@\$PDCRD"\$Response Time (sec)" \$PRINT:cdf\$a.LAST:"Current":%B.2F %%" \$PRINT:cdf\$a.AVERAGE:"Average":%B.2F %%" \$PRINT:cdf\$a.MAX:"Maximum":%B.2F %%" LINE1:cdf@\$002A97."Page Size (KB)" \$PRINT:cdf\$a.LAST:"Current":%B.2F %%" \$PRINT:cdf\$a.AVERAGE:"Average":%B.2F %%" \$PRINT:cdf\$a.MAX:"Maximum":%B.2F %%"
有効	<input checked="" type="checkbox"/> ON

変更
リロード
印刷
グラフモード

選択表示されたエントリーについて「変更」、「コピー」、「削除」と「エクスポート」ボタンがあります。以下にそれぞれのボタンについての操作を説明します：

a) 変更

「変更」ボタンをクリックすると、下図のように設定項目欄が編集できるようになります。

パフォーマンス監視	
グラフ名:	Response Time
サービス名:	https_albe
正値表記としてサービス名を使用する:	<input type="checkbox"/>
色名:	*
正値表記の解析文表示:	
パフォーマンスデータの代替として解析文表示を使用する:	<input type="checkbox"/>
RRD名	/usr/local/groundwork/rrd/SHDS75_SERVICE5.rrd
RRD作成コマンド	RRDTOOL create \$RRDNAME --step 600 --start 0 --tz SLEISTART:0:5:LABEL:1:GAUGE:1000:0:0:1:STENDS RRA:AVERAGE:0.5:1:40960 RRA:AVERAGE:0.5:12:4096
RRDアップデートコマンド	RRDTOOL update \$RRDNAME \$ + LABEL:1:5:STACHE:5:4:VALUE:1:5: 2>0:1
RRDツール グラフカスマイズ用コマンド	"imgdef graph - imgformat PNG - title "HTTPS Performance" - rigid - base 1000 - height: 120 - width: 780 - alt: automatic max - lower limit 0 - vertical label "Average and EXT" - drape mode DEF:ia="rd_source"dg_source_1:AVERAGE DEF:ib="rd_source"dg_source_2:AVERAGE CDEF:cddefa=b CDEF:cddefa=a:1824: ARGV:cddefa:RRD:00:"Response Time (sec)" GPRINT:cddefa:A5:"current (%0.2f %s)" GPRINT:cddefa:AVERAGE:"Average (%0.2f %s)" GPRINT:cddefa:MAX:"maximum (%0.2f %s)" LINE 1:cddefa:RRD:A5:"Page Size (KB) " GPRINT:cddefa:A5:"current (%0.2f %s)" GPRINT:cddefa:AVERAGE:"Average (%0.2f %s)" GPRINT:cddefa:MAX:"maximum (%0.2f %s)"
有効:	<input checked="" type="checkbox"/>

必要な編集を実施し「アップデート」ボタンをクリックすると、下図のようなメッセージが表示されます。

パフォーマンス設定管理  
設定がアップデートされました。Performance configuration for host \* and service https\_alive updated.  
[ 終了 ]

「続行」ボタンをクリックすると、パフォーマンス設定の一覧画面に戻ります。

b)  $\exists x \neg$

「コピー」ボタンをクリックすると、コピー元の設定項目の編集画面になります。



パフォーマンス設定管理	
グラフラベル:	Response Time
サービス名:	https_alive
正確な値としてサービス名を使用する:	<input type="checkbox"/>
ホスト名:	*
正確な値の解釈文表示:	
パフォーマンスデータの代替として解釈文表示を使用する:	<input type="checkbox"/>
RRD名:	/usr/local/groundwork/rrd/SHOSTS_\$SERVICE.rrd
RRD作成コマンド:	RRDTOOL create \$RRDNAME --step 600 --start=1p \$LISTSTARTS:\$LABEL#\$GAUGE:1000:0:0:\$LISTENDS RRA:AVERAGE:0.5:1:9000
RRDアップデートコマンド:	RRDTOOL update \$RRDNAME --\$LABELLISTS \$LASTCHECKS:\$VALUELISTS 2>&1
RRDツールグラフカスタマイズ用コマンド:	'rrdtool graph --format=PNG --title="HTTPS Performance" --rigid --base=1000 --height=120 --width=700 --alt=autoscale-max --lower-limit=0 --vertical-label="seconds and KB" --slope-mode DEF:a="rrd_source" \$ds_source.1:AVERAGE DEF:b="rrd_source" \$ds_source.2:AVERAGE (DEF:dfab (DEF:dfab=a:1024) AREA:dfab#FF0000/"Response Time (sec)" GPRINT:dfab:AST:"Current"/%8.2f "%s" GPRINT:dfab:AVERAGE:"Average"/%8.2f "%s" GPRINT:dfab:MAX:"Maximum"/%8.2f "%s" LINE1:dfab:PERCENT:"Page Size (KB)" GPRINT:dfab:AST:"Current"/%8.2f "%s" GPRINT:dfab:AVERAGE:"Average"/%8.2f "%s" GPRINT:dfab:MAX:"Maximum"/%8.2f "%s"'
有効:	<input checked="" type="checkbox"/>

ここで必要な修正を実施します。

（注意：表示されている情報はすべてコピー元と同じです。最低限「サービス名」欄は変更し、他と異なる名称にする必要があります。）

「コピー作成」ボタンをクリックするとコピーされた新しい設定が登録され、下図のようなメッセージが表示されます。

パフォーマンス設定管理	
ホスト "*" とサービス https_alive_cp のパフォーマンス設定が追加されました。	
<input type="button" value="続行"/>	

「続行」ボタンをクリックすると、パフォーマンス設定の一覧画面に戻ります。

#### c) 削除

「削除」ボタンをクリックすると設定項目は削除され、削除メッセージが表示されます。

パフォーマンス設定管理	
エントリを削除しました。	
<input type="button" value="続行"/>	

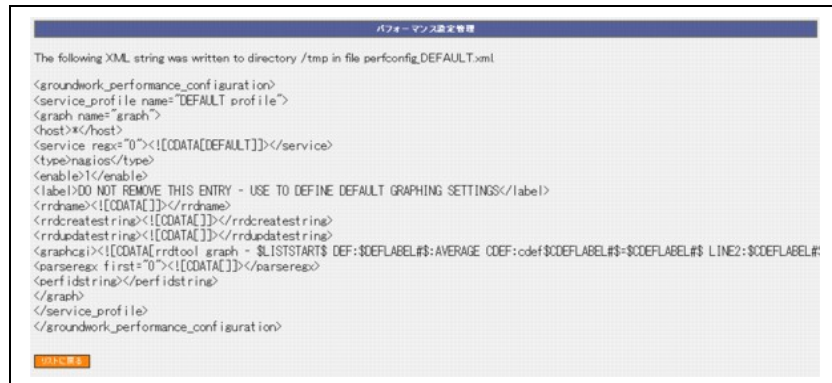
「続行」ボタンをクリックすると、パフォーマンス設定の一覧画面に戻ります。

#### d) エクスポート

「エクスポート」ボタンをクリックすると下図のようなエクスポートファイル名を指定する画面が表示されます。

パフォーマンス設定管理	
この設定は/tmpディレクトリに書き込まれます。	
エクスポートファイル名:	perfconfig_DEFAULT.xml
グラフラベル:	DO NOT REMOVE THIS ENTRY - USE TO DEFINE DEFAULT GRAPHING SETTINGS
サービス:	DEFAULT
正確な値としてサービス名を使用する:	<input type="checkbox"/>
ホスト名:	*
グラフラベルID:	
正確な値の解釈文表示:	
パフォーマンスデータの代替として解釈文表示を使用する:	<input type="checkbox"/>
RRD名:	
RRD作成コマンド:	
RRDアップデートコマンド:	
RRDツールグラフカスタマイズ用コマンド:	'rrdtool graph -- \$LISTSTARTS DEF:\$CDEFLABEL#\$AVERAGE CDEF:dfab=\$CDEFLABEL#\$CDEFLABEL#\$LINE1:\$CDEFLABEL#\$COLORLABEL#\$DOLABEL#\$GPRINT:\$CDEFLABEL#\$AVERAGE:avg=%8.2f GPRINT:\$CDEFLABEL#\$MAX:min=%8.2f \$LISTENDS -> CANVAS#FFFFFF -> GRID#CCCC00 -> MGRID#404040 -> ARROW#FFFFFF -> Y --height 120
有効:	<input checked="" type="checkbox"/>

必要ならば、エクスポートファイル名欄を変更し、「エクスポート」ボタンをクリックすると XML ファイルに出力され、下図のような XML 表示画面が表示されます。



「リストに戻る」ボタンをクリックすると、パフォーマンス設定の一覧画面に戻ります。